別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事　項	記　入　欄	備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｼｮｳｲﾝｶﾞｸｴﾝ 学校法人　樟蔭学園	
フリガナ 大学の名称	ｵｵｻｶｼｮｳｲﾝｼﾞｮｼﾀﾞｲｶﾞｸ 大阪樟蔭女子大学	
大学本部の位置	大阪府東大阪市菱屋西4丁目2番26号	
大学の目的	本学は，広く一般学科に関する知識を授くると共に，深く専門の学術技芸を教授研究して知性を磨き女性としての豊かなる情操と高き品性とを養成するをもって目的とする。	
新設学部等の目的	入学定員超過率の早期適正化を目的として、学芸学部国文学科の入学定員を20人、国際英語学科の入学定員を10人、心理学科の入学定員を20人、ライフプランニング学科の入学定員を20人、児童教育学部児童教育学科の入学定員を70人、健康栄養学部健康栄養学科の入学定員を60人減らす。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人			年　月 第　年次	
学芸学部								
国文学科	4	40 (60)	－	160 (240)	学士(国文学)	文学関係	令和7年4月 第1年次	大阪府東大阪市菱屋西4丁目2番26号
国際英語学科	4	30 (40)	－	120 (160)	学士(国際英語学)	文学関係	令和7年4月 第1年次	同上
心理学科	4	60 (80)	－	240 (320)	学士(心理学)	文学関係	令和7年4月 第1年次	同上
ライフプランニング学科	4	40 (60)	－	160 (240)	学士(ライフプランニング)	家政関係、経済学関係	令和7年4月 第1年次	同上
児童教育学部								
児童教育学科	4	50 (120)	－	200 (480)	学士(児童教育学)	教育学・保育学関係、社会学・社会福祉学関係、家政関係	令和7年4月 第1年次	同上
健康栄養学部								
健康栄養学科	4	100 (160)	－	400 (640)	学士(健康栄養学)	家政関係	令和7年4月 第1年次	同上
計								

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	学芸学部リベラルアーツ学科　(40)　(令和6年3月認可申請)

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
		科目	科目	科目	科目	単位

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新	学芸学部　国文学科	4 (5)	3 (2)	0 (0)	0 (1)	7 (8)	0 (0)	11 (11)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (5)	3 (2)	0 (0)	0 (1)	7 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数3.75人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (5)	3 (2)	0 (0)	0 (1)	7 (8)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (5)	3 (2)	0 (0)	0 (1)	7 (8)			

学芸学部　国際英語学科	3 (3)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	11 (11)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	3 (3)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 3.75人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	3 (3)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	3 (3)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
学芸学部　心理学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	20 (20)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 4.5人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計（ａ～ｂ）	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
学芸学部　ライフプランニング学科	4 (4)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	11 (10)	0 (0)	16 (16)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5.25人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
小計（ａ～ｂ）	4 (4)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	11 (10)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	4 (4)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	11 (10)			
児童教育学部　児童教育学科	9 (8)	7 (7)	3 (5)	0 (0)	19 (20)	1 (1)	46 (46)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (8)	5 (5)	3 (5)	0 (0)	17 (18)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7.5人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
小計（ａ～ｂ）	9 (8)	7 (7)	3 (5)	0 (0)	19 (20)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	9 (8)	7 (7)	3 (5)	0 (0)	19 (20)			

設

	健康栄養学部　健康栄養学科	7 (7)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	28 (28)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7.5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
分	計	33 (33)	34 (33)	4 (6)	0 (1)	71 (72)	1 (1)	132 (132)	
既	学芸学部　リベラルアーツ学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	52 (52)	令和6年3月認可申請
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 3.75人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			
	学芸学部　化粧ファッション学科	6 (8)	3 (3)	1 (2)	1 (1)	11 (14)	0 (0)	34 (34)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (8)	3 (3)	1 (2)	1 (1)	11 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6.75人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (8)	3 (3)	1 (2)	1 (1)	11 (14)			
設	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (8)	3 (3)	1 (2)	1 (1)	11 (14)			
	学士課程基幹教育	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	34 (34)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計	11 (13)	5 (5)	1 (2)	1 (1)	18 (21)	0 (0)	－ (－)	
合　　計		44 (46)	39 (38)	5 (8)	1 (2)	89 (93)	1 (1)	－ (－)	

職種	専属	その他	計	
事務職員	79 人 (87)	25 人 (25)	104 人 (112)	
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
図書館職員	9 (9)	0 (0)	9 (9)	
その他の職員	0 (0)	1 (1)	1 (1)	
指導補助者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
計	88 (96)	26 (26)	114 (122)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	88,714.575㎡	0.00㎡	0.00㎡	88,714.575㎡	
	その他	2,147.860㎡	0.00㎡	0.00㎡	2,147.860㎡	
	合計	90,862.435㎡	0.00㎡	0.00㎡	90,862.435㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	44,351.87㎡ (44,351.87㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	44,351.87㎡ (44,351.87㎡)	

教室・教員研究室	教室	室	教員研究室	室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	電子図書〔うち外国書〕	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
		〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	( )	( )	
	計	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	( )	( )	

スポーツ施設等	スポーツ施設 ㎡	講堂 ㎡	厚生補導施設 ㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要		区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	経費の見積り	教員１人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	— 千円	— 千円	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		共同研究費等		5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	16,000千円	16,000千円	16,000千円	16,000千円	16,000千円	— 千円	— 千円	
		設備購入費	28,000千円	28,000千円	28,000千円	28,000千円	28,000千円	— 千円	— 千円	
	学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	学芸学部	リベラルアーツ学科		1,605千円	1,325千円	1,325千円	1,325千円	— 千円	— 千円	
		国文学科 国際英語学科		1,390千円	1,110千円	1,110千円	1,110千円	— 千円	— 千円	
		心理学科		1,430千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	— 千円	— 千円	
		ライフプランニング学科 化粧ファッション学科		1,450千円	1,170千円	1,170千円	1,170千円	— 千円	— 千円	
	児童教育学部			1,430千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	— 千円	— 千円	
	健康栄養学部	健康栄養学科管理栄養士専攻		1,580千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	— 千円	— 千円	
		健康栄養学科食物栄養専攻		1,460千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	— 千円	— 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金，資産運用収入，雑収入等						

	大学等の名称	大阪樟蔭女子大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	学芸学部						0.88			
	国文学科	4	60	—	240	学士(国文学)	0.65	昭和24年度		
	国際英語学科	4	40	—	160	学士(国際英語学)	0.48	平成22年度		
	心理学科	4	80	—	320	学士(心理学)	0.96	平成27年度		
	ライフプランニング学科	4	60	—	240	学士(ライフプランニング)	0.70	平成19年度		
	化粧ファッション学科	4	140	—	520	学士(被服学)	1.14	昭和24年度		※令和5年度入学定員増（20人）
	児童教育学部						0.43			
	児童教育学科	4	120	—	580	学士(児童教育学)	0.43	平成21年度		※令和5年度入学定員減（50人）
	健康栄養学部						0.62			
	健康栄養学科	4	160	—	640	学士(健康栄養学)	0.62	平成27年度		
	人間科学研究科									
	臨床心理学専攻	2	8	—	16	修士（臨床心理学）	0.81	平成16年度		
	人間栄養学専攻	2	8	—	16	修士（人間栄養学）	0.31	平成17年度		
	化粧ファッション学専攻	2	10	—	20	修士（化粧ファッション学）	0.30	平成25年度		
附属施設の概要		名称：大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻附属カウンセリングセンター 目的：臨床心理学に関する研究，臨床心理士をめざす大学院生の教育訓練， 心理臨床相談の実施による地域へのサービス等 所在地：大阪府東大阪市菱屋西4丁目2番26号 設置年月：平成13年11月（平成27年4月現所在地へ移設） 規模等：面積747.88㎡								
		名称：大阪樟蔭女子大学附属幼稚園 目的：児童文化等の研究，幼児教育者および幼児研究者の養成のための教育実習施設 所在地：大阪府東大阪市菱屋西3丁目3番7号 設置年月：昭和26年4月 規模等：延床面積1,166.40㎡								

（注）
1　共同学科の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
3「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
4　私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
6　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
7　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人樟蔭学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員		令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
大阪樟蔭女子大学					大阪樟蔭女子大学				
学芸学部					学芸学部				
					リベラルアーツ学科	40	－	160	学科の設置（認可申請）
国文学科	60	－	240		国文学科	40	－	160	定員変更（△20）
国際英語学科	40	－	160	→	国際英語学科	30	－	120	定員変更（△10）
心理学科	80	－	320		心理学科	60	－	240	定員変更（△20）
ライフプランニング学科	60	－	240		ライフプランニング学科	40	－	160	定員変更（△20）
化粧ファッション学科	140	－	560		化粧ファッション学科	140	－	560	
児童教育学部					児童教育学部				
児童教育学科	120	－	480		児童教育学科	50	－	200	定員変更（△70）
健康栄養学部					健康栄養学部				
健康栄養学科	160	－	640		健康栄養学科	100	－	400	定員変更（△60）
計	660	－	2,640		計	500	－	2,000	
大阪樟蔭女子大学大学院					大阪樟蔭女子大学大学院				
人間科学研究科					人間科学研究科				
臨床心理学専攻	8	－	16		臨床心理学専攻	8	－	16	
人間栄養学専攻	8	－	16		人間栄養学専攻	8	－	16	
化粧ファッション学専攻	10	－	20		化粧ファッション学専攻	10	－	20	
計	26	－	52		計	26	－	52	

1（書類等の題名）

都道府県内における位置関係に関する図面

2（出典）

Mapion

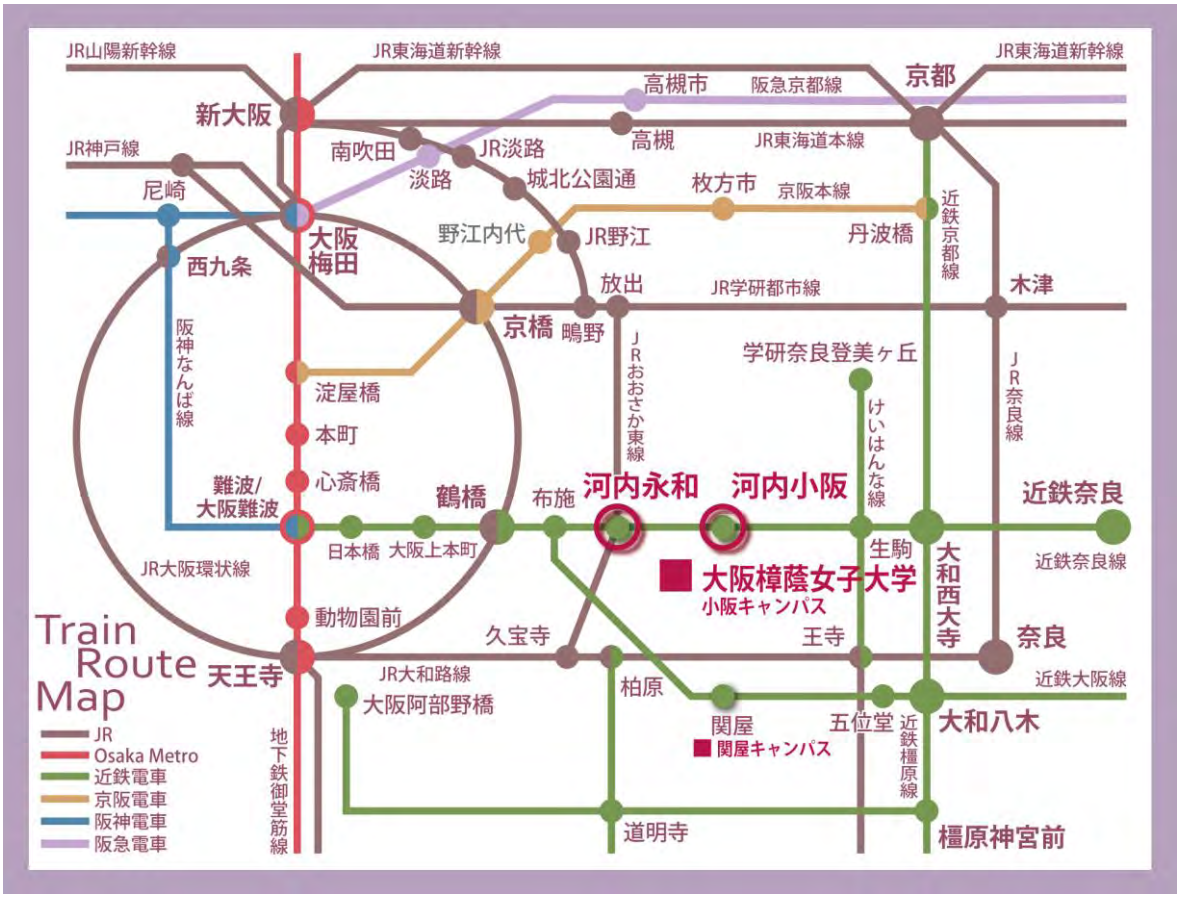
3（引用範囲）

https://www.mapion.co.jp/map/admi27.html

4（その他の説明）

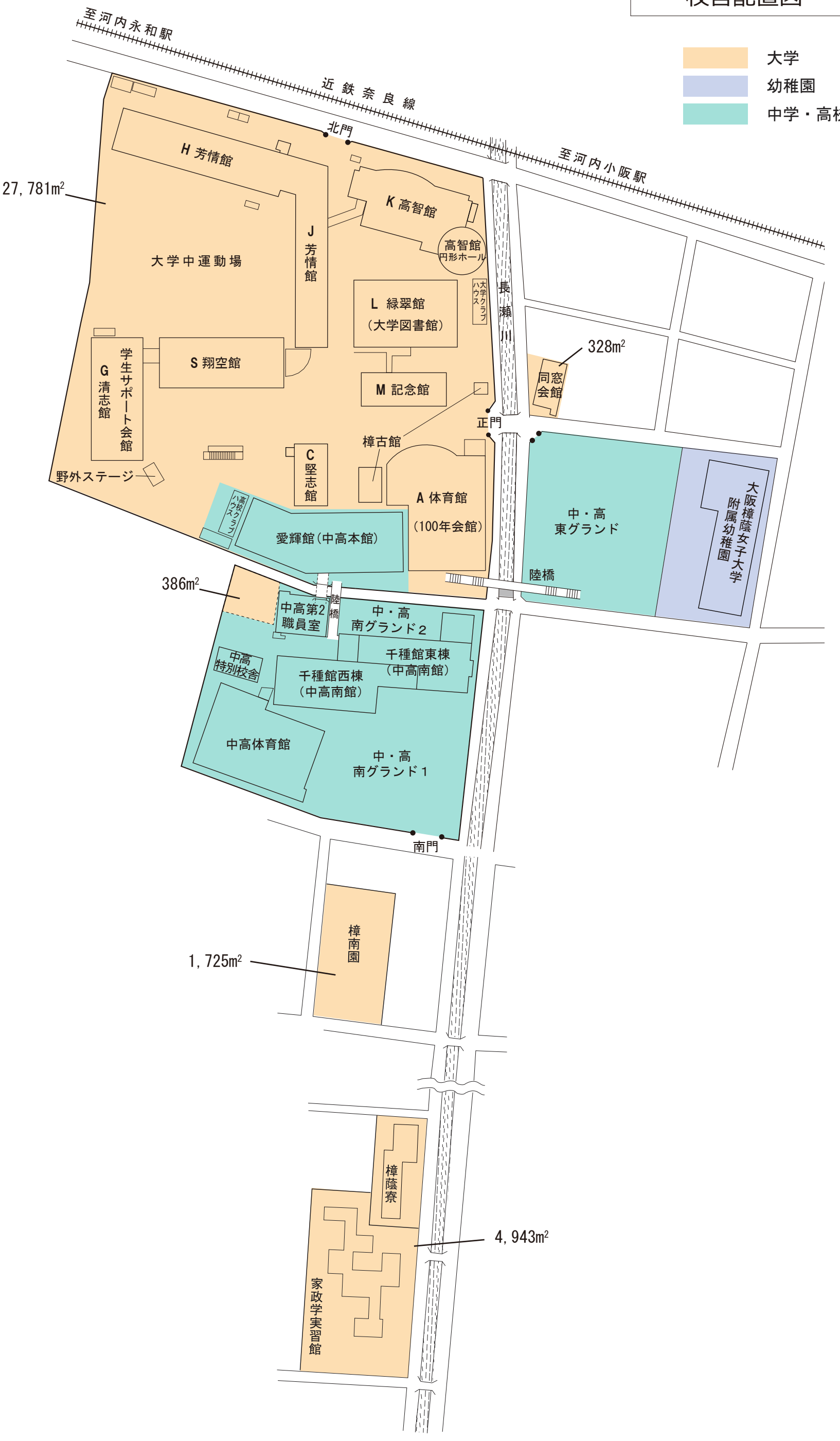
大阪樟蔭女子大学の都道府県内における位置関係を示すため、地図上に所用の事項を記入した。

●路線図



●最寄り駅からのアクセス

学校法人 樟蔭学園
校舎配置図



校舎等の面積および構造

建物区分	【設置基準】 校舎/校舎外	校舎等建物面積表 面積(㎡)	構造	備考
1号棟（高智館）	校舎	6,493.90	鉄骨・鉄筋コンクリ-ト造 陸屋根地下1階付8階建	
2号棟（高智館円形ﾎｰﾙ）	校舎	638.64	鉄骨・鉄筋コンクリート造 陸屋根3階建	
3･4A･4C号棟 （芳情館･堅志館）	校舎	15,408.08	鉄筋コンクリート造陸屋根 地下1階付地上7階建	
6号棟（樟古館：大）	校舎	124.21	木造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	
9号棟（図書館）	校舎	4,077.61	鉄筋コンクリ-ト造陸屋根 地下１階付6階建	
10号棟（記念館）	校舎	855.36	木造亜鉛メッキ鋼板葺2階建	
11号棟（研修会館）	校舎	353.46	鉄筋コンクリ-ト造陸屋根2階建	
21号棟（体育館）	校舎外 （スポーツ施設・講堂）	3,511.59	鉄骨鉄筋コンクリート造 合金メッキ鋼板ぶき3階建	
22号棟（翔空館）	校舎	9,985.94	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根10階建	
23号棟（清志館）	校舎	4,929.64	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	
31号棟（北門守衛室）	校舎	4.00	コンクリートブロック造 亜鉛メッキ鋼板葺平家建	
36号棟（樟古館：小）	校舎	22.35	木造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	
42号棟（ｺﾞﾐ置き場）	校舎	25.81	鉄骨造亜鉛メッキ鋼鈑葺平家建	
44号棟（倉庫）	校舎	70.58	木造スレートぶき2階建	
45号棟（倉庫）	校舎	13.31	軽量鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき 平屋建	
46号棟（クラブハウス）	校舎外 （課外活動施設）	193.22	軽量鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき 2階建	
47号棟（集塵庫）	校舎	24.00	鉄筋コンクリ-ト造陸屋根平屋建	
49号棟（集塵庫：東）	校舎	11.57	鉄骨造合金メッキ鋼鈑葺平家建	
50号棟（集塵庫：西）	校舎	11.57	鉄骨造合金メッキ鋼鈑葺平家建	
家政学実習館（樟徳館）	校舎	1,301.84	木造瓦葺2階建	
計		48,056.68		

校舎	44,351.87
校舎外	3,704.81

令和７年度　大阪樟蔭女子大学　学則

第１章　総則

第１条　本学は、広く一般学科に関する知識を授くると共に、深く専門の学術技芸を教授研究して知性を磨き女性としての豊かなる情操と高き品性とを養成するをもって目的とする。

２　各学部、学科毎の教育研究上の目的は、第２条に定める通りとする。

第１条の２　本学の教育研究水準の向上を図り前条の目的を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究等の状況について自ら点検・評価を行い、その結果を公表するものとする。

２　前項の点検・評価を行うための項目・体制については、別にこれを定める。

３　本学は、第１項の点検及び評価の結果について、学校教育法第１０９条第２項の政令で定める期間ごとに認証評価を受けるものとする。

第２章　学部及び学科等の組織

第２条　本学は、大阪樟蔭女子大学と称し、下記の学部及び学科並びに専攻を置く。

学　部	学　科	専　攻	教育研究上の目的
学芸学部			リベラルアーツ学科及び人文系の国文学科、国際英語学科、心理学科と生活環境系のライフプランニング学科、化粧ファッション学科の６学科で構成し、学士課程基幹教育に加えて、それぞれに特色ある専門分野の学習を通じて、広い視野と深い教養をもった人材を育成することを目的とする。
	リベラルアーツ学科	―	人間の心理やコミュニケーションに関する高度な知識、社会・文化の多様性を尊重し実証的・科学的に探究する力、人間理解に立脚した社会貢献を果たす意欲と行動力を身につけた人材の育成を目的とする。
	国文学科	―	日本の言語・文学に関する幅広い知識を教授することにより、日本文化に対する造詣を深め、豊かな情操を涵養し、言語運用能力を養成する。日本文化を継承・発展させ発信する能力を以って、異文化間の交流を視野に入れつつ、社会で活躍できる人材の育成を目的とする。
	国際英語学科	―	国際語としての英語の役割を認識し、国際理解に貢献する高度で実践的な英語運用力の育成を図るとともに、英米文化圏に限定することなく、多文化社会に適応できる、広い視野と深い教養をもった人材を育成することを目的とする。特に、自国の言語・文化を国際的な視点から客観的に捉えることができる分析力と、それを世界に向けて発信する豊かな表現力・実践力を身につけた国際人を養成する。
	心理学科	―	人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。
	ライフプランニング学科	―	現代に生きる女性がその人生において経験するライフ・イベントに主体的に対処していくために必要な知識と技能を養い、家庭と職場の双方において活躍できるバランス感覚の優れた人材の育成を目的とする。また、日々の暮らしを真の意味で豊かにする食に関する先進的な知識と技能を身につけ、食の伝統と文化を理解した上で自らの暮らしに役立て、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

	化粧ファッション学科	―	服飾・化粧を中心に、よそおいに関する幅広い専門的知識や技能、豊かな感性を養い、ファッション関連産業で活躍し得る人材の育成を目的とする。
児童教育学部			子どもを様々な角度から見つめることができ、教育、文化、福祉、保健、心理等に関する専門的知識及び技能を兼ね備えた子どもの専門家として、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
	児童教育学科	―	子どもを様々な角度から見つめることができ、教育、文化、福祉、保健、心理等に関する専門的知識及び技能を兼ね備えた子どもの専門家として、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
健康栄養学部			健康をキーワードに、医療を中心とした現場で栄養教育や指導ができる管理栄養士の育成、ならびに、食を中心とした正しい健康情報を広く国民に教育指導できる人材の育成を目的とする。
	健康栄養学科	管理栄養士専攻	栄養ケア・マネジメントに関する教育研究を通して、栄養ケア・マネジメントの基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、基本的な栄養管理に関する実践能力を有した管理栄養士の育成を行うことにより、地域社会の保健・医療・福祉サービスの発展と向上に寄与する。
		食物栄養専攻	食品、調理、栄養などの「食」に関する教育研究を通して、人々の健康な暮らしを支える専門知識と技術の確実な習得のもとに、食に関するさまざまな分野で活躍する人材の育成を行うことにより、地域社会の健康の保持・増進に寄与する。

2　本学の学芸学部化粧ファッション学科に美容師養成課程を置く。この養成課程の履修細則は、別に定める。

第２条の２　本学に、大学院を置く。

2　第４０条の２（大学協議会）を除き、大学院に関する学則その他の規定は、別に定める。

第３章　教育課程

第３条　教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当し体系的に編成するものとする。

2　教育課程における用語の意味は、次の通りとする。

（1）Ａ　講義
（2）Ｂ　演習
（3）Ｃ　実験、実習又は実技
（4）Ｄ　講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用
（5）必　卒業必修科目
（6）教　教職関係必修科目
（7）国　教職関係（国語）必修科目
（8）《家庭》　教職関係（家庭）必修科目
（9）書　教職関係（書道）必修科目
(10) 幼　幼稚園教職関係必修科目
(11) 小　小学校教職関係必修科目
(12) 中　中学校教職関係必修科目
(13)《栄教》　栄養教諭教職関係必修科目
(14) 博　学芸員関係必修科目
(15) 社　社会教育主事関係必修科目
(16) 司　司書関係必修科目
(17) 司教　司書教諭関係必修科目
(18) 学司　学校司書関係必修科目
(19) 日　日本語教員関係必修科目

（別表中の(日)は選択必修科目）
(20) 栄　　栄養士関係必修科目
(21) 管　　管理栄養士関係必修科目
(22) フ　　フードスペシャリスト関係必修科目
（別表中の(フ)は選択必修科目）
(23) 保　　保育士関係必修科目
(24) 精　　精神保健福祉士関係必修科目
（別表中の(精)は選択必修科目）
(25) 公　　公認心理師関係必修科目
(26) Sc　　スクールソーシャルワーカー関係必修科目
(27) 留　　留学生卒業必修科目
(28) 健留　　健康栄養学科留学生卒業必修科目

3　単位数は、卒業に必要な単位として認められる最大単位数を示すとともに、必修科目、選択必修科目にあっては必要最低履修単位数を示す。

4　授業科目は、別表（1）（学芸学部）、別表（2）（児童教育学部）、別表（3）（健康栄養学部）の通りとする。

第3条の2　学生の多様な興味・目的に応じた幅広い学びを促すことを目的に副専攻を編成する。

2　副専攻は、学部及び学科又は専攻に係る分野以外の特定分野又は特定課題について、授業科目を体系的に配置するものとする。

3　副専攻の授業科目、単位数及び履修方法は、別に定める。

第4章　履修方法、試験、卒業及び学位

第4条　修業年限を4年、最長在学年限を8年とする。ただし、編入学、転入学および再入学の場合の最長在学年限は、その者の在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えないものとする。

2　1年間の授業を行なう期間は、35週にわたることを原則とする。

3　各授業科目の授業は、15 週にわたる期間を単位として行なうものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、この期間より短い特定の期間において授業を行なうことができる。

第5条　授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算するものとする。ただし、実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第5条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2　前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3　前項に規定する授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

第6条　本学学芸学部（リベラルアーツ学科を除く）を卒業するためには、必修科目の単位を含み、最低次の単位を修得しなければならない。

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
32単位以上	62単位以上	124単位以上

2　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて30単位を超えない範囲で、学士課程基幹教育科目の単位として計算する。

（1）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別に定める授業科目
（2）　教職に関する科目
（3）　学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目
（4）　日本語教育に関する科目

3　次表に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の授業科目について修得した単位については、第2項にかかわ

らず、第１項に定める「所属学科専攻科目」の単位とみなす。

所属学科	他学部他学科等の専攻科目（開設学科）
ライフプランニング学科	被服構成学実習　（学芸学部化粧ファッション学科）
	調理学実習　（健康栄養学部健康栄養学科）
化粧ファッション学科	調理学実習　（健康栄養学部健康栄養学科）

４　ライフプランニング学科、化粧ファッション学科の学生で中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望するものは、所属学科の区分に従い前項に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の科目の単位を修得しなければならない。

５　3 年次に進級するためには、2 年次末において卒業要件にかかる科目の単位を 49 単位以上修得し、かつ GPA 値が 0.5 以上でなければならない。

第６条の２　本学学芸学部リベラルアーツ学科を卒業するためには、別表に定める学士課程基幹教育科目、所属学科専攻科目の必修科目の単位を含み、最低 124 単位を修得しなければならない。

２　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて 30 単位を超えない範囲で、卒業要件にかかる単位として計算する。

（１）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別に定める授業科目

（２）　教職に関する科目

（３）　学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目

（４）　日本語教育に関する科目

３　3 年次に進級するためには、2 年次末において卒業要件にかかる科目の単位を 49 単位以上修得し、かつ GPA 値が 0.5 以上でなければならない。

第６条の３　本学児童教育学部を卒業するためには、必修科目の単位を含み、最低次の単位を修得しなければならない。

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
18 単位以上	76 単位以上	124 単位以上

２　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて 14 単位を超えない範囲で、学士課程基幹教育科目の単位として計算する。

（１）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別に定める授業科目

（２）　学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目

（３）　日本語教育に関する科目

３　3 年次に進級するためには、2 年次末において卒業要件にかかる科目の単位を 49 単位以上修得し、かつ GPA 値が 0.5 以上でなければならない。

第６条の４　本学健康栄養学部を卒業するためには、必修科目の単位を含み、最低次の単位を修得しなければならない。

（健康栄養学科管理栄養士専攻）

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
18 単位以上	72 単位以上	124 単位以上

（健康栄養学科食物栄養専攻）

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
18 単位以上	62 単位以上	124 単位以上

２　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて 30 単位を超えない範囲で、学士課程基幹教育科目の単位として計算する。

（１）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別に定める授業科目

（２）　教職に関する科目

（３）　学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目

（４）　日本語教育に関する科目

３　次表に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の授業科目について修得した単位については、第２項にかかわらず、第１項に定める「所属学科専攻科目」の単位とみなす。

所属学科	他学部他学科等の専攻科目（開設学科）

健康栄養学科　食物栄養専攻	被服構成学実習　（学芸学部化粧ファッション学科）

4　健康栄養学科食物栄養専攻の学生で中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望するものは、所属学科の区分に従い前項に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の科目の単位を修得しなければならない。

5　3年次に進級するためには、2年次末において卒業要件にかかる科目の単位を49単位以上修得し、かつGPA値が0.5以上でなければならない。

第６条の５　教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で、別に定めるところにより本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2　教育上有益と認めるときは、次の各号に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることがある。

（1）　短期大学の専攻科における学修

（2）　高等専門学校の専攻科における学修

（3）　その他文部科学大臣が別に定める学修

3　前項により与える単位数は、第１項により修得したとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

第６条の６　教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、別に定めるところにより入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2　教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第２項に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることがある。

3　第１項により修得したものとみなし、又は前項により与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

第６条の７　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修できるようにするため、卒業要件として修得すべき単位数について、1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

2　前項の登録に関する手続等は別に定める。

第７条　削除（平成4年3月10日）

第８条　授業科目の履修修了の認定は、試験および平素の成績による。試験は、学期内にその履修した科目について筆記、口述、論文等の方法によって行なう。

2　成績の評価は次の基準による。

	素点	グレード	成績評価基準
合　格	100～90	S	到達目標を超えて優れた成績を修めている
	89～80	A	到達目標を十分に達成している
	79～70	B	到達目標を概ね達成している
	69～60	C	到達目標を最低限達成している
不合格	59～ 0	D	到達目標を達成していない
合　格	合　格	P	到達目標を達成している
不合格	不合格	F	到達目標を達成していない
合　格	認　定	Q	

成績の評価には、上記の他に下記の評価が含まれる。

素点	グレード
評価無	N
履修中止	W

第９条　削除（平成4年3月10日）

第 10 条　本学に４年以上在学し、所属学部の区分に従い第６条若しくは第６条の２又は第６条の３に定める単位数を修得した者については、学長が卒業を認定する。

2　前項により卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより学士の学位を授与する。

第 10 条の２　副専攻の所定の単位を修得し、その学習成果の認定を受けた者については、前条の学士の学位と併せて副専攻修了証書を授与する。

第５章　教職に関する科目

第 11 条　本学に教職に関する科目を置く。

第 12 条　教職に関する科目を下記の通りとする。

【教職に関する科目】（数字は単位数）

（中・高関係）（ただし、児童教育学部児童教育学科の専攻科目は除く）

教職概論	Ａ２	教
教育原理Ａ	Ａ２	教
教育原理Ｂ	Ａ２	教
教育心理学	Ａ２	教
特別支援教育	Ａ２	教
教育社会学	Ａ２	教
教育課程論	Ａ２	教
教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	Ａ２	教
国語科教科教育法	Ａ８	教
書道科教科教育法	Ａ４	教
英語科教科教育法	Ａ８	教
家庭科教科教育法	Ａ８	教
道徳の理論及び指導法	Ａ２	教
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	Ａ２	教
生徒・進路指導論	Ａ２	教
教育相談論	Ａ２	教
教職実践演習（中・高）	Ｂ２	教
教育実習	Ｃ４	教（中･高免履修者）
教育実習	Ｃ２	教（高免履修者）
教育実習指導	Ａ１	教
介護等の体験	Ｃ１	教 } （中学校一種免のみ）
介護等の体験の事前指導	Ａ１	教 }
同和教育の研究	Ａ２	

（栄養教諭関係）

教職概論	Ａ２	《栄教》
教育原理Ａ	Ａ２	《栄教》
教育原理Ｂ	Ａ２	《栄教》
教育心理学	Ａ２	《栄教》
特別支援教育	Ａ２	《栄教》
教育社会学	Ａ２	《栄教》
教育課程論	Ａ２	《栄教》
教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	Ａ２	《栄教》
道徳の理論及び指導法	Ａ２	《栄教》
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	Ａ２	《栄教》
生徒指導の理論・方法	Ａ２	《栄教》
教育相談論	Ａ２	《栄教》
教職実践演習（栄養教諭）	Ｂ２	《栄教》
栄養教育実習（事前事後の指導１単位を含む）	Ｃ２	《栄教》
同和教育の研究	Ａ２	

第 13 条　教員免許状を取得するためには、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

２　取得することのできる教員免許状は、次の通りである。

学芸学部

所属学科	専　　攻	免許教科	免 許 状 の 種 類
国文学科	—	国　　語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		書　　道	高等学校教諭一種免許状
国際英語学科	—	英　　語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
ライフプランニング学科	—	家　　庭	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
化粧ファッション学科	—	家　　庭	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状

児童教育学部

所属学科	専　　攻	免許教科	免 許 状 の 種 類
児童教育学科	—	—	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状
		英　　語	中学校教諭一種免許状

健康栄養学部

所属学科	専　　攻	免許教科	免 許 状 の 種 類
健康栄養学科	管理栄養士専攻	—	栄養教諭一種免許状
	食物栄養専攻	家　　庭	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		—	栄養教諭二種免許状

第５章の２　学芸員に関する科目

第 13 条の２　本学に学芸員に関する科目を置く。

第 13 条の３　学芸員に関する科目を下記の通りとし、定められた学科の区分に従い履修するものとする。

【学芸員に関する科目】（数字は単位数）

区分Ａ（省令科目）

生涯学習概論Ⅰ	Ａ２	博
博物館概論	Ａ２	博
博物館経営論	Ａ２	博
博物館資料論	Ａ２	博
博物館資料保存論	Ａ２	博
博物館展示論	Ａ２	博
博物館教育論	Ａ２	博
博物館情報・メディア論	Ａ２	博
博物館実習Ⅰ	Ｃ２	博
博物館実習Ⅱ	Ｃ１	博
博物館実習Ⅲ	Ｃ１	博

区分Ｂ（関連科目）

古典文学史	Ａ２
近現代文学史	Ａ２
日本文学概論	Ａ２
大阪・上方のことば文化	Ａ２

上方文化入門	Ａ２	分野Ａ（文化史）
日本文化論	Ａ２	
世界遺産論	Ａ２	
異文化理解論	Ａ２	
服飾文化論	Ａ２	
ファッションの歴史Ａ	Ａ２	
化粧の歴史Ａ	Ａ２	
現代女性論	Ａ２	
児童教育学概論	Ａ２	
中国書道史	Ａ２	分野Ｂ（美術史）
日本書道史	Ａ２	
染織史	Ａ２	
デザイン史	Ａ２	
化粧学概論	Ａ２	分野Ｃ（民俗学）
化粧文化論	Ａ２	
顔学概論	Ａ２	
被服構成学Ⅰ	Ａ２	
被服構成学Ⅱ	Ａ２	
現代社会論	Ａ２	
基礎統計学	Ａ２	
社会調査の方法	Ａ２	
社会調査概説	Ａ２	
心理学研究法	Ａ２	
心理学統計法	Ａ２	
児童心理学	Ａ２	
幼児理解	Ａ２	
生物学	Ａ２	分野Ｄ（生物）
微生物学	Ａ２	
化学	Ａ２	分野Ｅ（化学）
食品学	Ａ２	
被服整理学	Ａ２	
被服材料学	Ａ２	

＊関連科目については、分野Ａ～Ｅの２分野にわたり８単位必修

第 13 条の４　学芸員の資格を取得するためには、本学を卒業し、博物館法・博物館法施行規則の定めるところに従い、学芸員に関する科目の単位を修得しなければならない。

第５章の３　社会教育主事に関する科目

第 13 条の５　本学に社会教育主事に関する科目を置く。

第 13 条の６　社会教育主事に関する科目を下記の通りとする。

【社会教育主事に関する科目】（数字は単位数）

生涯学習概論Ⅰ	Ａ２	社
生涯学習概論Ⅱ	Ａ２	社
生涯学習支援論Ⅰ	Ａ２	社
生涯学習支援論Ⅱ	Ａ２	社
社会教育経営論Ⅰ	Ａ２	社
社会教育経営論Ⅱ	Ａ２	社
社会教育実習Ａ	Ｃ１	社
社会教育演習	Ｂ１	］

社会教育課題研究	Ｂ１	中１単位社
社会教育実習Ｂ	Ｃ２	社
女性のライフサイクル	Ａ２	中８単位社
ジェンダーを考える	Ａ２	
情報と社会	Ａ２	
日本の食と文化	Ａ２	
地域課題とボランティア活動	Ａ２	
子育てを考える	Ａ２	
心のしくみ	Ａ２	
心の健康	Ａ２	
現代に生きる女性たち	Ａ２	
現代モード論	Ａ２	
国際社会と平和	Ａ２	
歴史の読み方	Ａ２	
美しい地球を創る	Ａ２	
博物館概論	Ａ２	
博物館情報・メディア論	Ａ２	
図書館概論	Ａ２	
図書館サービス概論	Ａ２	
児童サービス論	Ａ２	
日本文化論	Ａ２	
教育原理Ａ	Ａ２	
教育心理学	Ａ２	
同和教育の研究	Ａ２	
日本語学概論	Ａ２	
著作権概説	Ａ２	
日本語学	Ａ２	
学習・言語心理学	Ａ２	
教育・学校心理学	Ａ２	
発達心理学	Ａ２	
現代社会論	Ａ２	
現代女性論	Ａ２	
服飾文化論	Ａ２	
教育原理	Ａ２	
人権・同和教育の研究	Ａ２	

第 13 条の７　社会教育主事となる資格を取得するためには、本学を卒業し、かつ社会教育法・社会教育主事講習等規程の定めるところに従い、社会教育主事に関する科目の単位を修得しなければならない。

２　前項の科目の単位を修得した者は、社会教育士（養成課程）と称することができる。

第６章　司書・司書教諭・学校司書に関する科目

第 14 条　本学に司書・司書教諭・学校司書に関する科目を置く。

第 15 条　司書・司書教諭・学校司書に関する科目を下記の通りとする。

【司書・司書教諭・学校司書に関する科目】（数字は単位数）

生涯学習概論Ⅰ	Ａ２	司	
図書館概論	Ａ２	司	
図書館制度・経営論	Ａ２	司	
図書館情報技術論	Ａ２	司	学司
図書館サービス概論	Ａ２	司	

情報サービス論	Ａ２	司		
児童サービス論	Ａ２	司		
情報サービス演習Ａ	Ｂ１	司		
情報サービス演習Ｂ	Ｂ１	司		
図書館情報資源概論	Ａ２	司	学司	
情報資源組織論	Ａ２	司	学司	
情報資源組織演習Ａ	Ｂ１	司	学司	
情報資源組織演習Ｂ	Ｂ１	司	学司	
図書館基礎特論	Ａ２			
図書館サービス特論	Ａ２			
図書館情報資源特論	Ａ２			
図書・図書館史	Ａ２			中２科目司
図書館施設論	Ａ１			
図書館総合演習	Ｂ１			
図書館実習	Ｃ１			
学校経営と学校図書館	Ａ２	司教	学司	
学校図書館メディアの構成	Ａ２	司教		
学習指導と学校図書館	Ａ２	司教	学司	
読書と豊かな人間性	Ａ２	司教	学司	
情報メディアの活用	Ａ２	司教		
学校図書館サービス論	Ａ２		学司	
学校図書館情報サービス論	Ａ２		学司	
学校教育概論	Ａ２		学司	

第 16 条　司書・司書教諭・学校司書の資格を取得するためには、図書館法・学校図書館法の定めるところに従い、司書・司書教諭・学校司書に関する科目の単位を修得しなければならない。

第７章　日本語教育に関する科目

第 16 条の２　本学に日本語教育に関する科目を置く。

第 16 条の３　日本語教育に関する科目を下記の通りとする。

【日本語教育に関する科目】（数字は単位数）

（言語）

日本語学	Ａ２	日	
日本語文法	Ａ２	日	
日本語音声学	Ａ２		
日本語の歴史	Ａ２		
日本語学史	Ａ２		中４単位日
言語学概論	Ａ２		
言語とコミュニケーション	Ａ２		
言語の歴史と類型	Ａ２		
中国語Ⅰ	Ｂ１		
中国語Ⅱ	Ｂ１		
韓国・朝鮮語Ⅰ	Ｂ１		
韓国・朝鮮語Ⅱ	Ｂ１		中１単位日
新聞で学ぶ日本語Ａ	Ｂ１		
新聞で学ぶ日本語Ｂ	Ｂ１		
生活の中の日本語Ａ	Ｂ１		
生活の中の日本語Ｂ	Ｂ１		

（言語と社会）

地球と社会の歩き方	Ａ２	中４単位日
社会言語学	Ａ２	
日本文化論	Ａ２	
アジアの言語・文化を知る	Ｂ１	

（言語と心理）

児童心理学	Ａ２	中２単位日
子どもの心理と教育	Ａ２	
教育心理学	Ａ２	
教育・学校心理学	Ａ２	
知覚・認知心理学	Ａ２	
異文化理解論	Ａ２	
第二言語習得論	Ａ２	

（言語と教育）

日本語教授法	Ａ２	日
日本語教材論	Ａ２	中４単位日
日本語教育学演習Ａ	Ｂ１	
日本語教育学演習Ｂ	Ｂ１	
情報と社会	Ａ２	
著作権概説	Ａ２	
暮らしとAI・データサイエンス	Ａ２	
年少者のための日本語教育	Ａ２	
日本語教育実習Ａ	Ｃ１	中１単位日
日本語教育実習Ｂ	Ｃ１	

（社会・文化・地域）

日本語教育学概論	Ａ２	中２単位日
国際関係論	Ａ２	
比較文化学概論	Ａ２	
文学の読み方	Ａ２	
歴史の読み方	Ａ２	
ポップカルチャー論	Ａ２	
地域課題とボランティア活動	Ａ２	

第 16 条の４　日本語教育施設の教員資格を取得するためには、本学を卒業し、かつ別に定めるところに従い、日本語教育に関する科目の単位を修得しなければならない。

第７章の２　フードスペシャリスト

第 16 条の５　フードスペシャリストの資格を取得するためには、健康栄養学部健康栄養学科食物栄養専攻を卒業し、かつ第３条に規定する科目のうち、日本フードスペシャリスト協会の定めるところに従い、所定の科目の単位を修得するとともに、資格認定のための認定試験に合格しなければならない。

第８章　管理栄養士

第 17 条　管理栄養士の免許を取得するためには、健康栄養学部健康栄養学科管理栄養士専攻を卒業し、かつ第 3 条に規定する科目のうち、栄養士法の定めるところに従い所定の単位を修得するとともに、管理栄養士国家試験に合格し

なければならない。

第８章の２　栄養士

第 17 条の２　栄養士の資格を取得するためには、健康栄養学部健康栄養学科を卒業し、かつ第 3 条に規定する科目のうち、栄養士法の定めるところに従い、所定の科目の単位を修得しなければならない。

第８章の３　保育士

第 17 条の 3　保育士の資格を取得するためには、児童教育学部児童教育学科を卒業し、かつ厚生労働大臣の定めるところに従い、所定の科目の単位を修得しなければならない。

第８章の４　精神保健福祉士

第 17 条の 4　精神保健福祉士の資格を取得するためには、学芸学部心理学科を卒業し、かつ第 3 条に規定する科目のうち、「精神保健福祉士法」に基づくところに従い所定の科目の単位を修得するとともに、精神保健福祉士試験に合格しなければならない。

第８章の５　公認心理師

第 17 条の 5　公認心理師試験受験資格を取得するためには、学芸学部心理学科を卒業し、かつ第 3 条に規定する科目のうち、「公認心理師法」に基づくところに従い所定の科目の単位を修得しなければならない。

第８章の６　スクールソーシャルワーカー

第 17 条の 6　スクールソーシャルワーカーの資格を取得するためには、学芸学部心理学科を卒業し、かつ第 3 条に規定する科目のうち、「社会福祉士等ソーシャルワークに関する国家資格有資格者を基盤としたスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業に関する規程」に基づくところに従い所定の科目の単位を修得するとともに、精神保健福祉士試験に合格しなければならない。

第８章の７　認定絵本士

第 17 条の 7　認定絵本士の資格を取得するためには、絵本専門士委員会の定めるところに従い、児童教育学部児童教育学科の所定の科目の単位を修得しなければならない。

第９章　別科

第 18 条　本学に別科を置く。
第 19 条　別科は実際生活に即した専門的知識技能を授くると共に、高き知性と豊かなる情操とに富む品性高き女性を養成するをもって目的とする。
第 20 条　別科の修業年限を２年とし、生活専修、被服専修の２専修を置く。
第 21 条　別科の授業科目を別表（４）の通りとする。
第 22 条　別科は時間制を採用する。
第 23 条　別科は毎年春期・秋期の２期に試験を行なう。
第 24 条　別科に２年以上在学し、必修科目を含み、次表に定める最低履修時間数の授業科目を履修し、所定の試験に合格した者は修了とし、修了証書を授与する。

		生活専修		被服専修
		食物コース	語学コース	
共通科目	最低履修時間数	20	20	16
専門科目	最低履修時間数	28	28	32
合計最低履修時間数		48	48	48

第１０章　入学、編入学、退学、休学、復学、原級留置、除籍、転籍及び転学

第 25 条　入学に関しては下記の通りとする。

（1）　入学の時期は毎年 4 月とする。

（2）　本学に入学することのできる者は高等学校を卒業した者、もしくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）、又はこれと同等以上の学力があると認められた者、即ち下記の各号の一に該当する者とする。

① 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者、又はこれに準ずるもので文部科学大臣の指定した者

② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

③ 文部科学大臣の指定した者

④ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者

⑤他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、十八歳に達した者

（3）　入学志願者に対しては検定を行なう。

（4）　入学検定試験に合格した者は、別に定める入学手続き要項により、誓約書、保証書、その他大学の必要とする書類を指定の期日までに提出しなければならない。

（5）　保証書の保証人は、父または母とし、学生の在学中に関する一切の事項について、別に定める極度額の範囲で、連帯して保証しなければならない。ただし、父または母が保証人となることのできない場合は、これに代わり、保証人としての責務を果たすことができる者とする。

（6）　保証人が死亡､又はその他の理由によって資格を失ったときは､新たに保証人を定めて届け出なければならない。

第 26 条　退学及び休学、復学に関しては下記の通りとする。

（1）　疾病または止むを得ない事故のある時は、学長の許可を得て退学することができる。

（2）　学生で疾病その他の事由によって、３ヶ月以上修学を中止しようとする者は、学長の許可を得て１年以内休学することができる。ただし、特別の事由がある場合は１年を限度として学長は休学期間の延長を認めることができる。

（3）　前項の事由が解消したときは、学長の許可を得て復学することができる。

（4）　休学の期間は第４条の在学年数に算入しない。

（5）　休学の期間は通算して４年を超えることができない。

第 26 条の２　進級または卒業の要件を満たしているに関わらず原級に留まることを希望する者にはこれを認めることがある。

第 26 条の３　次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

（1）　第４条に定める最長在学年限を超えた者

（2）　第 26 条第１項第５号に定める休学の期間を超えてなお修学できない者

（3）　授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

（4）　長期間にわたり、行方不明の者

2　前項第３号により除籍した者の最終在学日付は、既に授業料等納付金を納入した学期の末日とする。

3　第１項第３号により除籍した者が除籍後２年以内に授業料等納付金を完納し、再入学を願い出た場合は、許可することがある。

4　前項により再入学を許可された者の既に履修した科目の単位の取扱い並びに修業年限は教授会において定める。

第 26 条の４　学生が所属する学部、学科、専攻から、他の学部、学科、専攻へ転籍を希望する場合、転籍先の収容定員に余裕があり、転籍試験に合格したときは、これを認めることがある。

２　転籍試験は、第１年次および第２年次の秋期に行う。

第 27 条　本学から他の大学へ、もしくは他の大学から本学へ転学を志望する学生で、正当の事由があると認めた場合には許可することがある。ただし、その場合は大学長の転学許可書と共に修業年限、既得単位の証明書によって転籍事実を明らかにしなければならない。

２　前項により、他の大学から本学へ転学を許可された学生には、別に定めるところにより、他の大学において修得した授業科目とその単位数の一部又は全部を本学における授業科目と単位数に換算し、認定することができる。

３　本学を退学した者で、その事由が解消し再入学を希望する者は修業の見込があると認めた場合には許可することがある。

第 27 条の２　短期大学又は高等専門学校を卒業した者、又は文部科学大臣の定める専修学校の専門課程を修了した者で、本学に編入学を志望する者があるときは、選考のうえ相当年次に入学を許可する。

２　前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い、並びに在学すべき年数については、当該学部の教授会の議を経て、学長が決定する。

第 11 章　納付金

第 28 条　授業料、施設費、学籍管理料（以下、この章において「授業料等納付金」という。）、入学検定料、入学金等の納付金については、学校法人樟蔭学園学生等納付金規則に定める通りとする。

２　納付金の改定を行なう場合、在学生にもこれを適用する。

３　納付金の納付方法等その他必要事項は、別に定める。

第 29 条　授業料等納付金は、毎年４月、１０月の２期に、指定された期日までに納付しなければならない。

第 30 条　授業料等納付金は、欠席又は停学中であってもこれを減免しない。また、退学除籍の者であっても、未納のときは、直ちに納付しなければならない。

第 31 条　第 26 条第２号によって休学した者に限り、授業料、施設費に替え、学籍管理料を納付しなければならない。

第 32 条　授業料等納付金を滞納し、督促してもなお納付しないときは除籍する。

第 33 条　入学志願者は、入学願書提出と同時に入学検定料を納付しなければ入学試験を受けることができない。

２　一旦納付した入学検定料は、理由の如何を問わずこれを返戻しない。

第 34 条　合格者は、保証書等の提出と同時に入学金等入学手続時納付金を、指定された期日までに納付しなければ、入学を認めない。

第 35 条　各種資格課程履修に際して必要となる実習費・登録費等の費用、海外演習に必要な費用については、別途これを納付しなければならない。

第 36 条　別に定める場合を除き、既納の納付金は理由の如何を問わず返戻しない。

第 12 章　教育研究実施組織

第 37 条　本学に学長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員を置く。ただし、教育研究上の組織編成として適切と認められる場合には、准教授、助教又は助手を置かないことができる。

２　前項のほか、副学長、学部長、講師、技術職員その他必要な職員を置くことができる。

３　学長は、校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

４　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

５　学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

６　教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

７　准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

８　助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

９　助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

10　講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

11　本学は、教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編成するものとする。

12　教職員に関する規定は、別にこれを定める

第 38 条　各教育課程上主要と認める授業科目は、原則として基幹教員が担当するものとする。

第 39 条　本学において教育上、学術上又は教育行政上の功績ある者には、教授会の推薦により名誉教授の称号を与えることがある。名誉教授推薦に関する規定は、別にこれを定める。

第 13 章　会議

第 40 条　本学に教授会を置く。教授会の運営細則は別にこれを定める。

2　教授会は、学長、副学長及び本学の基幹教員をもって組織する。

3　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

（1）　学生の入学、卒業及び課程の修了

（2）　学位の授与

（3）　前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

4　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第 41 条　本学に委員会を置くことができる。

2　各委員会に関する規定は、別にこれを定める。

第 14 章　収容定員

第 42 条　本学の定員は下記の通りとする。

学　部	学　科	専　攻	入学定員（名）	収容定員（名）
学芸学部	リベラルアーツ学科	－	40	160
	国文学科	－	40	160
	国際英語学科	－	30	120
	心理学科	－	60	240
	ライフプランニング学科	－	40	160
	化粧ファッション学科	－	140	560
	計		350	1,400
児童教育学部	児童教育学科	－	50	200
	計		50	200
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	80	320
		食物栄養専攻	20	80
	計		100	400
別　科	生活専修	－	50	100
	被服専修	－	50	100
	計		100	200
合　計			600	2,200

第 15 章　附属施設

第 43 条　本学に下記の附属施設を置く。

（1）　図書館

（2）　附属幼稚園

（3）　子ども研究所

（4）　田辺聖子文学館

（5） しょういん子育て絵本館
（6） 樟蔭美科学研究所
（7） 大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻附属カウンセリングセンター（心理臨床相談室）
（8） 大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科人間栄養学専攻附属健康栄養センター（くすのき健康栄養センター）
2 各附属施設の細則は、別に定めるところによる。

第 16 章 科目等履修生・聴講生・特別課程履修生・研修員・外国人留学生

第 44 条 本学の学生以外の者を科目等履修生として、別に定めるところにより、一又は複数の授業科目の履修を認めることがある。
2 前項の授業科目としては、学則第３条第４項、第 12 条、第 13 条の３、第 13 条の６、第 15 条、第 16 条の３に定める科目の他、以下の科目とする。

ドイツ語Ａ	Ｂ１
ドイツ語Ｂ	Ｂ１
フランス語Ａ	Ｂ１
フランス語Ｂ	Ｂ１
中国語Ａ	Ｂ１
中国語Ｂ	Ｂ１
朝鮮語Ａ	Ｂ１
朝鮮語Ｂ	Ｂ１

第 44 条の２ 聴講生の取扱に関しては、下記の通り定める。
（1） 本学の授業科目の一部を聴講しようとする者があるときは、学生定員に余裕がある場合に限り、教授会において資格を判定し聴講を許可することがある。
（2） 聴講生の入学については第 25 条の規定を準用する。
（3） 聴講生が希望によりその聴講した科目の試験を受けこれに合格したときは、その科目の履修証明書を交付する。
（4） 聴講生が在籍した年数及び履修した科目は、大学の正規の課程による在学年数又は履修単位として認定することができない。
（5） 聴講生は聴講する科目１単位につき 10,000 円の聴講料を納付するものとする。聴講料の納付については、学則第 29 条、第 30 条、第 32 条及び第 36 条を準用する。
（6） 聴講生に対しては、本条に定めるもの以外の学則は準用しない。
第 44 条の３ 学校教育法第 105 条に定める特別課程を履修しようとする者があるときは、選考の上、特別課程履修生として履修を許可することがある。
2 特別課程履修生が所定の課程を履修したときは、学校教育法第 105 条に定める履修証明書を交付する。
3 特別課程履修生に関する規定は、別に定める。
第 45 条 特定事項に関する研究に従事することを希望する者があるときは、選考のうえ、研修員として許可することがある。研修員に関する規定は、別にこれを定める。
2 研修員の研修費は月額 5,000 円とし、当該年度の研修期間について、その全額を前納するものとする。
3 研修員に対しては、本条に定めるもの以外の学則は準用しない。
第 46 条 学則第 25 条第２項第１号に定める資格を有する外国人で、本学において教育を受けることを希望するものがあるときは、選考の上、外国人留学生として入学又は一部の授業科目の履修を許可することがある。外国人留学生に関する規定は別にこれを定める。
2 前項の授業科目としては、学則第３条第４項、第 12 条、第 13 条の３、第 13 条の６、第 15 条、第 16 条の３に定める科目の他、以下の科目とする。

日本語Ａ	Ｂ１
日本語Ｂ	Ｂ１
日本語Ｃ	Ｂ１
日本語Ｄ	Ｂ１
日本事情Ａ	Ａ２
日本事情Ｂ	Ａ２
日本語・日本文化研究Ａ	Ｂ１

第 17 章　学年、学期及び休業日

第 47 条　本学の学年、学期及び休業日は下記の通りである。

（１）　学年は、４月１日に始まって翌年３月 31 日に終わる。

（２）　学年を２期に分ける。

春期は４月１日から９月 30 日まで

秋期は 10 月１日から翌年３月 31 日まで

（３）　学年中の定期休業日は、下記の通りである。

(ア)　日曜日

(イ)　国民の祝日に関する法律に規定する休日

(ウ)　本学創立記念日　４月 28 日

(エ)　春期、夏期及び冬期休業に関しては、別に定める本学の学年暦による。

（４）　学長は、教授会の議を経て休業日を変更又は臨時に休業日を定めることができる。

第 18 章　賞罰

第 48 条　学生でとくに学業、操行優秀で他の模範となる者に対しては、これを表彰することがある。

第 49 条　学生で本学の教育方針に違反し、学生の本分にもとる行為をした者に対しては、学長が教授会の議を経て、これを懲戒することができる。懲戒は訓告、停学及び退学とする。ただし、退学は次の者に限る。

（１）　性行不良で改善の見込がないと認められる者

（２）　学力劣等で成業の見込がないと認められる者

（３）　正当の理由なくて出席常でない者

（４）　学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

附　則

１　　本学則は昭和 24 年４ 月１ 日から施行する。

2～96　（略）

97　　この改正は令和７年４月１日から施行する。

98　　本則第２条及び第 42 条の規定に係わらず、令和７年度から令和９年度の大阪樟蔭女子大学の定員は次の通りとする。

令和７年度

学部	学　科	専　攻	入学定員(名)	収容定員(名)
学芸学部	リベラルアーツ学科	—	40	40
	国文学科	—	40	220
	国際英語学科	—	30	150
	心理学科	—	60	300
	ライフプランニング学科	—	40	220
	化粧ファッション学科	—	140	540
	計		350	1,470
児童教育学部	児童教育学科	—	50	460
	計		50	460
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	80	440
		食物栄養専攻	20	140
	計		100	580

令和８年度

学部	学　科	専　攻	入学定員(名)	収容定員(名)
学芸学部	リベラルアーツ学科	—	40	80
	国文学科	—	40	200
	国際英語学科	—	30	140
	心理学科	—	60	280
	ライフプランニング学科	—	40	200
	化粧ファッション学科	—	140	560
	計		350	1,460
児童教育学部	児童教育学科	—	50	340
	計		50	340
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	80	400
		食物栄養専攻	20	120
	計		100	520

令和９年度

学部	学　科	専　攻	入学定員(名)	収容定員(名)
学芸学部	リベラルアーツ学科	—	40	120
	国文学科	—	40	180
	国際英語学科	—	30	130
	心理学科	—	60	260
	ライフプランニング学科	—	40	180
	化粧ファッション学科	—	140	560
	計		350	1,430
児童教育学部	児童教育学科	—	50	270
	計		50	270
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	80	360
		食物栄養専攻	20	100
	計		100	460

学芸学部【学士課程基幹教育科目】

別表(1)第3条関係

授業科目名			授業方法/単位数	選択必修区分	配当学年
樟蔭基礎科目	樟蔭への誘い	樟蔭の窓	A 1	必	1
	これからの女性	女性のライフサイクル	A 2	中4単位選必	1〜4
		ジェンダーを考える	A 2		1〜4
		現代に生きる女性たち	A 2		1〜4
	豊かな情操	笑いは人をつなぐ	A 2		2〜4
		感性の技法	A 2		2〜4
		うつくしいという体験を考える	A 2		2〜4
言語科目	コミュニケーション（日本語リテラシー）	アカデミック・スキルズA	B 1	必	1
		アカデミック・スキルズB	B 1	必	1
		新聞で学ぶ日本語A	B 1		1〜4
		新聞で学ぶ日本語B	B 1		1〜4
		生活の中の日本語A	B 1		2〜4
		生活の中の日本語B	B 1		2〜4
		論理トレーニング	B 1		1〜4
		言語とコミュニケーション	A 2		2〜4
	コミュニケーション（外国語）	Communicative English 1r	B 1	注① 注③ （教）	1〜4
		Communicative English 1o	B 1	注① 注③ （教）	1〜4
		Communicative English 2y	B 1	注① （教）	1〜4
		Communicative English 2g	B 1	注① （教）	1〜4
		Communicative English 3b	B 1	注④ （教）	1〜4
		Communicative English 3v	B 1	注④ （教）	1〜4
		Basic English bk	B 1		1〜4
		Basic English w	B 1		1〜4
		Basic English 1r	B 1	注① 注③	1〜4
		Basic English 1o	B 1	注① 注③	1〜4
		Basic English 2y	B 1	注①	1〜4
		Basic English 2g	B 1	注①	1〜4
		Basic English 3b	B 1	注④	1〜4
		Basic English 3v	B 1	注④	1〜4
		資格の英語A	B 1	中4単位選必（国際英語学科及び化粧ファッション学科美容コースを除く）	1〜4
		資格の英語B	B 1		1〜4
		旅行の英語	B 1		1〜4
		留学の英語	B 1		2〜4
		接客英会話	B 1		1〜4
		ニュースの英語	B 1		2〜4
		Conversation and Fluency A	B 1		3・4
		Conversation and Fluency B	B 1		3・4
		アジアの言語・文化を知る	B 1		2〜4
		海外外国語演習A	B 2		1〜4
		海外外国語演習B	B 2		1〜4
		海外外国語演習C	B 2		1〜4
		異文化演習	B 1		1〜4
		中国語Ⅰ	B 1	注②	1〜4
		中国語Ⅱ	B 1	注②	1〜4
		中国語Ⅲ	B 1	注②	2〜4
		中国語Ⅳ	B 1	注②	2〜4
		韓国・朝鮮語Ⅰ	B 1	注②	1〜4
		韓国・朝鮮語Ⅱ	B 1	注②	1〜4
		韓国・朝鮮語Ⅲ	B 1	注②	2〜4
		韓国・朝鮮語Ⅳ	B 1	注②	2〜4
		ドイツ語Ⅰ	B 1	注②	1〜4
		ドイツ語Ⅱ	B 1	注②	1〜4
		フランス語Ⅰ	B 1	注②	1〜4
		フランス語Ⅱ	B 1	注②	1〜4
		スペイン語Ⅰ	B 1	注②	1〜4
		スペイン語Ⅱ	B 1	注②	1〜4

授業科目名			授業方法/単位数	選択必修区分	配当学年
数理情報科目	情報リテラシー	情報と社会	A 2	必	1
		情報処理基礎A	C 1	必 教	1
		情報処理基礎B	C 1	必 教	1
		暮らしとAI・データサイエンス	A 2	中2単位選必（リベラルアーツ学科を除く） 注⑤	2〜4
		AI・データサイエンス（データと社会）	A 2		2〜4
		AI・データサイエンス（データ分析）	A 2		2〜4
		数学でわかるAIのエッセンス	A 2		1〜4
樟蔭教養科目	自然の理解	数学とは何か	A 2	注⑥	1〜4
		物理で考える暮らし	A 2	注⑥	1〜4
		化学で考える暮らし	A 2	注⑥	1〜4
		宇宙へ拡がる私たちの世界	A 2	注⑥	1〜4
		健康の科学	A 2	注⑥	1〜4
		ライフステージと栄養	A 2	注⑥	1〜4
		生命の成り立ち	A 2	注⑥	1〜4
		美しい地球を創る	A 2	注⑥	2〜4
	人文の探求	私たちはどう生きるか	A 2	注⑦	1〜4
		文学の読み方	A 2	注⑦	1〜4
		歴史の読み方	A 2	注⑦	1〜4
		自己の探求	A 2	注⑦	1〜4
		心のしくみ	A 2	注⑦	1〜4
		心の健康	A 2	注⑦	1〜4
		宗教と現代	A 2	注⑦	1〜4
		ポップカルチャー論	A 2	注⑦	1〜4
		表現するからだ、考えるからだ	A 2	注⑦	2〜4
	社会への視点	日本国憲法	A 2	注⑧ 教	1〜4
		日常生活と法	A 2	注⑧	1〜4
		家計・消費と経済	A 2	注⑧	1〜4
		現代社会と生活者の視点	A 2	注⑧	1〜4
		子育てを考える	A 2	注⑧	1〜4
		地域課題とボランティア活動	A 2	注⑧	1〜4
		地球と社会の歩き方	A 2	注⑧	2〜4
		国際社会と平和	A 2	注⑧	2〜4
		多様性社会を生きるとは	A 2	注⑧	2〜4
	体験の方法	和の伝統芸道	D 1		1〜4
		レクリエーションと健康	D 2		2〜4
		運動と健康A	D 1	教	1〜4
		運動と健康B	D 1	教	1〜4
キャリア系科目		キャリア設計	B 1		1・2
		キャリア開発	B 1		2
		キャリア研究	A 2		3
		キャリア実習A	C 2		2
		キャリア実習B	C 2		3
		キャリア実習C	C 2		4

（教）：教職課程2単位選択必修　　注①：国際英語学科のみ必修

注②：国際英語学科のみ2単位選択必修　　注③：化粧ファッション学科 美容コースのみ必修

注④：リベラルアーツ学科のみ2単位選択必修。それを含む4単位をコミュニケーション（外国語）から修得すること。
ただし英検2級以上を保持している者は、任意の4単位を必修とする。

注⑤：リベラルアーツ学科のみ必修

注⑥：リベラルアーツ学科のみ4単位選択必修

注⑦：リベラルアーツ学科のみ4単位選択必修

注⑧：リベラルアーツ学科のみ4単位選択必修

リベラルアーツ学科　専攻科目

授業科目名		授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
基礎科目	知への扉	A 2	必	1
	知の技法	A 2	必	1
PBL科目	実践演習基礎（Human）	B 2	必	1
	実践演習基礎（Society）	B 2	必	1
	人間科学実践演習Ⅰ	B 2	必	2
	地域課題実践演習Ⅰ	B 2	必	2
	人間科学実践演習Ⅱ	B 2	中2単位選必	3
	地域課題実践演習Ⅱ	B 2		3
	人間科学キャリア実践演習	B 2	中2単位選必	3
	地域課題調査実習	B 2	※注1	3
	卒業研究A	B 2	必	4
	卒業研究B	B 2	必	4
	卒業論文	6	必	4
コミュニケーション科目	社会とコミュニケーション	C 1	必	1
	心理学研究法	A 2	必	1
	心理学実験	C 2	必	1
	心理研究法演習（面接・観察）	B 2	必	2
	心理調査基礎実習	C 2	必	2
	知的生産とクリティカル・シンキング	B 2		2
	科学的思考実験	C 1		3
人間・地域理解科目	世界の中の日本	A 2	必	1
	心理学概論	A 2	必	1
	家族関係論	A 2	必	2
	東大阪学	A 2	必	1
	文化政策学	A 2	必	2
	消費者行動論	A 2		3
	脳科学とその応用	A 2		3
	文化遺産論	A 2		3
	国際関係論	A 2		3
	ソーシャルデザイン	A 2		2
	行動経済学	A 2		2
データスキル科目	プログラミング演習Ⅰ	B 1	必	1
	プログラミング演習ⅡA	B 1		2
	プログラミング演習ⅡB	B 1		2
	社会調査概説	A 2		1
	社会調査の方法	A 2		2
	サイバーセキュリティ	A 2		3
	基礎統計学	A 2		2
	データ解析の基礎	A 2		2
	量的データ解析実習	C 1		3

※注1：3年次春期に「人間科学実践演習Ⅱ」を選択した場合は「人間科学キャリア実践演習」を選択し、「地域課題実践演習Ⅱ」を選択した場合は「地域課題調査実習」を選択すること

国文学科　専攻科目

授業科目名			授業方法／単位数	選択必修区分 コース 国語・国文学	書道	創作表現	資格	配当学年
学科共通	基礎科目	読書へのいざない	Ｂ１	必	必	必		1
		国文学入門	Ａ２	必	必	必	国 書	1
		日本文学概論	Ａ２	必	必	必	国 書	1
		書物を学ぶ、書店で学ぶ	Ｄ２					2～4
	大阪・上方関連科目	大阪・上方のことば文化	Ａ２	必	必	必		1
		大阪ことば入門	Ａ２	必	必	必		1
		大阪文学入門	Ａ２	必	必	必		2
		上方文化入門	Ａ２	必	必	必		2
		大阪ことば研究	Ａ２					3･4
		上方文化研究	Ａ２					3･4
	演習科目	研究入門ゼミ	Ｂ１	必	必	必		2
		発展ゼミＡ	Ｂ１	必	必	必		3
		発展ゼミＢ	Ｂ１	必	必	必		3
		発展ゼミＣ	Ｂ１	必	必	必		4
		発展ゼミＤ	Ｂ１	必	必	必		4
		卒業論文・卒業制作	6	必	必	必		4
国語・国文学コース	基幹科目	日本語学概論	Ａ２	必			国	2
		日本語文法概論	Ａ２	必			国	2
		古典文学史	Ａ２	必		必	国	2
		近現代文学史	Ａ２	必		必	国	2
		ことば文化の世界（日本語学）	Ｄ２	中2単位選必	中2単位選必	中2単位選必		2～4
		ことば文化の世界（古典文学）	Ｄ２					2～4
		ことば文化の世界（近現代文学）	Ｄ２					2～4
		ことば文化の世界（上方文化）	Ｄ２					2～4
		ことば文化の世界（書道）	Ｄ２					2～4
		ことば文化の世界（創作表現）	Ｄ２					2～4
		文学作品講読(上代・中古)Ａ	Ｂ１	中4単位選必	中2単位選必	中2単位選必	中2単位国	2～4
		文学作品講読(上代・中古)Ｂ	Ｂ１					2～4
		文学作品講読(中世・近世)Ａ	Ｂ１					2～4
		文学作品講読(中世・近世)Ｂ	Ｂ１					2～4
		文学作品講読(近代・現代)Ａ	Ｂ１					2～4
		文学作品講読(近代・現代)Ｂ	Ｂ１					2～4
		日本語講読(現代語)	Ｂ１				国	2～4
		日本語講読(古典語)	Ｂ１				国	2～4
	発展科目	日本文学研究(上代・中古)Ａ	Ａ２	中8単位選必	中4単位選必	中4単位選必		3・4
		日本文学研究(上代・中古)Ｂ	Ａ２					3・4
		日本文学研究(中世・近世)Ａ	Ａ２					3・4
		日本文学研究(中世・近世)Ｂ	Ａ２					3・4
		日本文学研究(近代・現代)Ａ	Ａ２					3・4
		日本文学研究(近代・現代)Ｂ	Ａ２					3・4

授業科目名			授業方法／単位数	選択必修区分 コース 国語・国文学	書道	創作表現	資格	配当学年
書道コース	基幹科目	漢字書法Ａ	Ｂ１		必		書	2
		漢字書法Ｂ	Ｂ１		必		書	2
		仮名書法Ａ	Ｂ１		必		書	2
		仮名書法Ｂ	Ｂ１		必		書	2
		漢字仮名交じり書法Ａ	Ｂ１		必		書	2
	発展科目	漢字書法Ｃ	Ｂ１		必		書	3
		仮名書法Ｃ	Ｂ１		必		書	3
		漢字仮名交じり書法Ｂ	Ｂ１		必		書	3
		鑑賞法	Ａ２		必		書	3
		篆刻法	Ｂ１		必		書	3
		書論	Ａ２		必		書	3
		創作研究Ａ	Ａ２		必		書	3
		創作研究Ｂ	Ａ２		必		書	3
		創作研究Ｃ	Ａ２		必			4
		創作研究Ｄ	Ａ２		必			4
創作表現コース	基幹科目	出版編集企画論	Ａ２			必		2
		著作権概説	Ａ２			必		2
		創作理論と実践Ａ	Ａ２			必		2
		創作理論と実践Ｂ	Ａ２			必		2
	発展科目	創作演習（小説・エッセイ）	Ｂ１			中2単位選必		2～4
		創作演習（ライトノベル）	Ｂ１					2～4
		創作演習（コピーライティング）	Ｂ１					2～4
		創作演習（詩歌）	Ｂ１					2～4
		創作演習（朗読）	Ｂ１					2～4
		創作表現研究Ａ	Ａ２			必		3
		創作表現研究Ｂ	Ａ２			必		3
関連科目	教職関連科目	学校文法入門	Ａ２				国	1
		書写Ａ	Ｂ１				国 書	1
		書写Ｂ	Ｂ１				国 書	1
		漢文講読Ａ	Ｂ１				国	2
		漢文講読Ｂ	Ｂ１				国	2
		日本書道史	Ａ２				書	2
		中国書道史	Ａ２				書	2
		中国文学	Ａ２				国 書	3
		中国文学史	Ａ２				国 書	3

国際英語学科　専攻科目

授業科目名			授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
基礎スキル科目		Writing 1A	B 1	必　教	1
		Writing 1B	B 1	必　教	1
		Writing 1C	B 1	必　教	1
		Writing 1D	B 1	必　教	1
		Speaking/ listening１A	B 1	必　教	1
		Speaking/ listening１B	B 1	必　教	1
		Reading 1A	B 1	必　教	1
		Reading 1B	B 1	必　教	1
		Speaking/ listening 2	B 1	必　教	2
		Reading 2	B 1	必　教	2
		Writing 2A	B 1	必　教	2
		Writing 2B	B 1	必　教	2
		English Workshop A	B 1	中2単位選必	1～4
		English Workshop B	B 1	中2単位選必	1～4
		English Workshop C	B 1	中2単位選必	1～4
		English Workshop D	B 1	中2単位選必	1～4
基礎教養科目		English Fundamentals A	B 1	必　教	1
		English Fundamentals B	B 1	必　教	1
		国際教養入門	A 2	中8単位選必	1
		World Englishes	B 1	中8単位選必	1
		日本文化論	A 2	中8単位選必	1
		比較文化実習	D 1	中8単位選必	1
		World News	B 1	中8単位選必	1
		言語学概論	A 2	中8単位選必	1
		比較文化学概論	A 2	中8単位選必　教	1
		英語学概論A	A 2	中8単位選必　教	1
		英語学概論B	A 2	中8単位選必　教	2
		英米文学概論A	A 2	中8単位選必　教	1
		英米文学概論B	A 2	中8単位選必　教	2
		日本語教育学概論	A 2	中8単位選必	1
		日本語学	A 2	中8単位選必	1
		日本語音声学	A 2	中8単位選必	1
		日本語教授法	A 2	中8単位選必	1
		身近な韓国	D 2	中8単位選必	1～4
		東アジアの観光	A 2	中8単位選必	1～4
		韓国の文化と芸術	A 2	中8単位選必	1～4
グローバル実践科目		海外語学演習	B 16	必	2
		国際英語企業実習	C 2		2
基幹科目	グローバルコミュニケーション	観光学入門	A 2	注1①	2～4
		日本文化実習	C 1	注1①	2～4
		英語で学ぶ日本文化	B 1	注1①	2～4
		国際関係論	A 2	注1①	2～4
		海外留学事前演習	B 1	注1①	2・3
	コース共通	韓国・朝鮮語演習A	B 1		2～4
		韓国・朝鮮語演習B	B 1		2～4
	言語教育実践	英語音声学	A 2	注2①　教	2～4
		異文化理解論	A 2	注2①　教	2～4
		日本語文法	A 2	注2①　教	2～4
		日本語教材論	A 2	注2①　教	2～4
		日本語教育学演習A	B 1	注2①　教	2～4
		日本語教育学演習B	B 1	注2①　教	3・4

授業科目名			授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
発展科目	コース共通	Business Communication	B 1	必	3
		Essay Writing A	B 1	必	3
		Essay Writing B	B 1	必	3
		Advanced Reading A	B 1	必	3
		Advanced Reading B	B 1	必	3
	グローバルコミュニケーション	観光英語A	B 1	注1②	3・4
		観光英語B	B 1	注1②	3・4
		観光ホスピタリティー論	A 2	注1②	3・4
		観光地理	A 2	注1②	3・4
		世界遺産論	A 2	注1②	3・4
		Performance English	B 1	注1②	3・4
		グローバルビジネス論	A 2	注1②	3・4
		ビジネス・スタディーズA	B 1	注1②	3・4
		ビジネス・スタディーズB	B 1	注1②	3・4
		企業英語研究	A 2	注1②	3・4
		英語翻訳演習	B 1	注1②	3・4
		英語通訳演習	B 1	注1②	3・4
		現代韓国論	A 2	注1②	3・4
	言語教育実践	英語学研究A	A 2	注2②	3・4
		英語学研究B	A 2	注2②	3・4
		日英語比較論A	A 2	注2②	3・4
		日英語比較論B	A 2	注2②	3・4
		比較文学論	A 2	注2②	3・4
		第二言語習得論	A 2	注2②	3・4
		児童英語教育論	A 2	注2②	3・4
		English for Kids Ⅰ	B 1	注2②	3・4
		English for Kids Ⅱ	B 1	注2②	3・4
		小学校英語指導法	A 2	注2②	3・4
		言語の歴史と類型	A 2	注2②	3・4
		社会言語学	A 2	注2②	3・4
卒論演習科目		国際英語学演習Ⅰ	B 1	必	2・3
		国際英語学演習Ⅱ	B 1	必	3
		国際英語学演習Ⅲ	B 1	必	4
		国際英語学演習Ⅳ	B 1	必	4
		卒業論文	6	必	4

グローバルコミュニケーションコース：注１①の中から４単位選択必修、
注１②の中から８単位選択必修

言語教育実践コース：注２①の中から４単位選択必修、
注２②の中から８単位選択必修

心理学科　専攻科目

	授業科目名		授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
学科基礎科目	心理学概論		A 2	必 公 精	1
	臨床心理学概論		A 2	必 公	1
	心理学研究法		A 2	必 公	1
	心理学の現場		A 2	必	1
	心理学統計法		A 2	必 公	1
学科基礎実習	心理学実験		C 1	必 公	1
	心理的アセスメント（面接）		C 1	必 公	1
	心理的アセスメント（検査）		C 1	必 公	2
	心理調査基礎実習		C 1	必	2
学科基幹科目	神経・生理心理学	中17単位選必	A 2	公	2
	知覚心理学		A 2		2
	知覚・認知心理学		A 2	公	2
	感情心理学		A 2		2
	感情・人格心理学		A 2	公	2
	学習・言語心理学		A 2	公	2
	教育・学校心理学		A 2	公	2
	発達心理学		A 2	公	2
	社会・集団・家族心理学		A 2	公	2
	福祉心理学		A 2	公	2
	心理学的支援法		A 2	公	2
	精神疾患とその治療A		A 2	公 精	2
	健康・医療心理学		A 2	公	2
	産業・組織心理学		A 2	公	2
	モティベーションの心理学		A 2		2
	心理統計の応用		B 1		2
	心理学データ処理演習		B 1		2
	心理測定法演習		B 1		2
	心理学応用実験		B 1		2
	心理学文献講読		B 1		3
	外国語文献講読		B 1		3
	知的生産とクリティカル・シンキング		B 1		2
	プレゼンテーションの心理学		B 1		2
学科発展科目（共通）	心理科学研究法演習		B 1		3
	社会の中の心理学		B 1		3
	意識と無意識の心理学		A 2		3
	公認心理師の職責		A 2	公	3
	関係行政論		A 2	公	3
	心理演習		B 1	公	4
	心理実習		C 3	公	4
学科発展科目（総合心理）	音楽心理学	注①	A 2		3
	司法・犯罪心理学		A 2	公	3
	パフォーマンスの心理学		A 2		3
	芸術と表現の心理学		A 2		3
	ことばと記憶の心理学		A 2		3
	消費と広告の心理学		A 2		3
	組織と集団の心理学		A 2		3
	生涯発達心理学		A 2		3
	対人コミュニケーションの心理学		A 2		3
	メンタル・トレーニング演習		B 1		2

	授業科目名		授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
学科発展科目（臨床心理）	障害者・障害児心理学	注②	A 2	公	3
	家族とコミュニティの臨床心理学		A 2		3
	産業カウンセリング		A 2		3
	コーチングの心理学		A 2		2
	スクールカウンセリング		A 2		3
	病院臨床心理学		A 2		3
	描画と表現の臨床心理学		A 2		3
	心理療法演習		B 1		3
	投映法演習		B 1		3
精神保健福祉士関係科目	人体の構造と機能及び疾病		A 2	公 精	1
	社会学と社会システム		A 2	精	1
	社会福祉の原理と政策Ⅰ		A 2	精	1
	社会福祉の原理と政策Ⅱ		A 2	精	1
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		A 2	精	3
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		A 2	精	3
	社会保障Ⅰ		A 2	精	2
	社会保障Ⅱ		A 2	精	2
	障害者福祉		A 2	精	4
	権利擁護を支える法制度		A 2	精	3
	刑事司法と福祉		A 2	精	3
	社会福祉調査の基礎		A 2	精	4
	精神疾患とその治療B		A 2	精	2
	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ		A 2	精	3
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ		A 2	精	3
	ソーシャルワークの基盤と専門職		A 2	精	1
	精神保健福祉の原理Ⅰ		A 2	精	1
	精神保健福祉の原理Ⅱ		A 2	精	1
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		A 2	精	2
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		A 2	精	2
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ		A 2	精	3
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ		A 2	精	3
	精神障害リハビリテーション論		A 2	精	4
	精神保健福祉制度論		A 2	精	2
	ソーシャルワーク演習		B 1	精	2
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ		B 1	精	3
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ		B 1	精	3
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ		B 1	精	4
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		A 2	精	3
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		A 4	精	4
	ソーシャルワーク実習Ⅰ		C 3	精	3
	ソーシャルワーク実習Ⅱ		C 4	精	4
	精神保健福祉士演習		B 1		4
スクールソーシャルワーカー関係科目	スクールソーシャルワーク論		A 2	Sc	3
	スクールソーシャルワーク演習		B 1	Sc	4
	スクールソーシャルワーク実習指導		A 1	Sc	4
	スクールソーシャルワーク実習		C 3	Sc	4
	児童・家庭福祉		A 2	Sc	4
	貧困に対する支援		A 2	Sc	4
	演習Ⅰ		B 1	必	3
	演習Ⅱ		B 1	必	3
	演習Ⅲ		B 1	必	4
	演習Ⅳ		B 1	必	4
	卒業論文		6	必	4

注①：総合心理コースは中７単位選択必修

注②：臨床心理コースは中７単位選択必修

ライフプランニング学科　専攻科目

	授業科目名	授業方法/単位数	選択必修区分	配当学年
学科基礎	現代社会論	Ａ２	必	1
	現代女性論	Ａ２	必	1
	生活設計論	Ａ２	必　教	1
	ファイナンシャル・プランニング概論	Ａ４	必	1
	食生活概論	Ａ２	必	1
	日本の食と文化	Ａ２	必	1
	経済学入門	Ａ２	必	2
	経営学入門	Ａ２	必	2
	エコロジー論	Ａ２	教	1
	ファイナンシャル・プランニング演習Ａ	Ｂ１		1
	フードスタディ基礎実習Ａ	Ｃ１		1
	フードスタディ基礎実習Ｂ	Ｃ１		1
ライフデザイン	ファイナンシャル・プランニング特論	Ａ２		1
	ファイナンシャル・プランニング演習Ｂ	Ｂ１		1
	ファイナンシャル・プランニング演習Ｃ	Ｂ１		2
	金融システム論	Ａ２		3
	資産の運用と管理	Ａ２		3
	生活経済学	Ａ２	教	3
	リスクマネジメント論	Ａ２		2
	生活と税	Ａ２	教	2
	生活と法	Ａ２		3
	家族関係論	Ａ２	教	2
	家族問題論	Ａ２	教	3
	社会保障論	Ａ２		3
	ライフデザイン総合研究	Ｄ２		3
フードスタディ	English for Food Studies	Ｃ１		2
	食の伝統と文化	Ａ２		2
	グローバル化と食	Ａ２		3
	食の安全・安心	Ａ２		2
	フードスタイリング	Ａ２		3
	フードコーディネート研究	Ａ２		2
	フードビジネス論	Ａ２		3
	フードメディア演習	Ｂ１		3
	フードスタディ実習Ａ	Ｃ２		2
	フードスタディ実習Ｂ	Ｃ４		3
	フードスタディ総合研究	Ｄ２		3

	授業科目名	授業方法/単位数	選択必修区分	配当学年
学科総合	簿記	Ａ４		2
	会計学	Ａ２		3
	広告論	Ａ２		2
	マーケティング論	Ａ２		2
	企業経営論	Ａ２		3
	企業活動と法	Ａ２		3
	現代ビジネス論	Ａ２		3
	企業活動とキャリア研究	Ａ２		3
	ビジネス・コミュニケーションＡ	Ａ２		2
	ビジネス・コミュニケーションＢ	Ａ２		3
	ビジネス・サービス論	Ａ２		3
	ライフスタイルと環境	Ａ２		2
	消費者行動論	Ａ２		3
	家族と地域社会	Ａ２		2
	少子高齢社会とコミュニティ	Ａ２	教	3
	地域福祉論	Ａ２		3
	都市生活論	Ａ２		3
	生涯学習概論Ⅰ	Ａ２	社	1～4
	生涯学習概論Ⅱ	Ａ２	社	2～4
社会調査	社会調査概説	Ａ２		1
	基礎統計学	Ａ２		2
	社会調査の方法	Ａ２		2
	データ解析の基礎	Ａ２		2
	量的データ解析実習	Ｃ１		3
	質的データ解析実習	Ｃ１		3
	社会調査実習Ⅰ	Ｃ２		3
	社会調査実習Ⅱ	Ｃ２		3
教職関係科目	住居学（製図を含む。）	Ａ２	教	2
	食物学（栄養学、食品学を含む。）	Ａ２	教	3
	被服学	Ａ２	教	3
	家庭電気・機械(情報処理を含む。)	Ａ２	教	3
	保育学（家庭看護を含む。）	Ａ２	教	3
	〔被服構成学実習〕	Ｃ１	教	3
	小児保健学実習	Ｃ１	教	3
	〔調理学実習〕	Ｃ２	教	3
ゼミ	基礎演習Ａ	Ｂ１	必	1
	基礎演習Ｂ	Ｂ１	必	1
	基礎演習Ｃ	Ｂ１	必	2
	基礎演習Ｄ	Ｂ１	必	2
	演習Ａ	Ｂ１	必	3
	演習Ｂ	Ｂ１	必	3
	演習Ｃ	Ｂ１	必	4
	演習Ｄ	Ｂ１	必	4
	卒業論文	6	必	4

注:〔　〕の科目は第6条第4項の再掲

化粧ファッション学科

	授業科目名	授業方法／単位数	選択必修区分	資格	配当学年
学科基礎科目	基礎演習Ａ	Ｂ１			1
	基礎演習Ｂ	Ｂ１			1
	基礎演習	Ｂ２			1
	化粧ファッション学基礎演習	Ｂ１	必		2
学科基幹科目	ファッション学概論	Ａ２		教	1
	化粧学概論	Ａ２	必		1
	服飾文化論	Ａ２	必	教	1
	化粧文化論	Ａ２	必		2
	色彩学	Ａ２			1
	デザイン論	Ａ２		教	1
	現代モード論	Ａ２			1
	メイクデザイン論	Ａ２	必		1
	装いと化粧の心理学Ａ	Ａ２			1
学科総合科目	化粧ファッション基礎科学	Ａ２			1
	人体の構造と表情(ﾃﾞｯｻﾝ)	Ｃ１			1
	身体とジェンダー	Ａ２			2
	装いと化粧の心理学Ｂ	Ａ２			2
	品質官能評価法	Ａ２			2
	ファッション生理衛生学	Ａ２			2
	ファッション企画	Ａ２			2
	デザイン史	Ａ２			2
	カラーコーディネート実習	Ｃ１			2
	デザイン基礎演習	Ｂ１			2
	コンピュータデザインＡ	Ｃ１			2
	コンピュータデザインＢ	Ｃ１			2
	身体美学	Ａ２			3
	ビジュアルコミュニケーション	Ｄ２			3
	人間関係論	Ａ２			3
	消費者行動論	Ａ２			3
	ファッションマーケティング論	Ａ２			3
	ファッションビジネス論	Ａ２			3
	ファッション情報学	Ａ２			3
	ファッションミュージアムスタディ	Ｃ１			3
	人物撮影法	Ｃ１			3
	化粧ファッションビジネススタディ	Ｃ２			2～4
学科専門科目	被服構成学Ⅰ	Ａ２		教	1
	被服構成学Ⅱ	Ａ２		教	1
	被服構成学実習Ⅰ	Ｃ１		教	1
	被服構成学実習Ⅱ	Ｃ１			2
	被服材料学	Ａ２		教	2
	被服整理学	Ａ２		教	2
	ファッションの歴史Ａ	Ａ２			2
	ファッションの歴史Ｂ	Ａ２			2
	被服構成学実習Ⅲ	Ｃ１			2
	ドレーピング	Ｃ１			3
	アパレル生産実習	Ｃ１			3
	アパレルＣＡＤ	Ｃ１			3
	被服材料学実験	Ｃ１			2
	繊維学実験	Ｃ１			3
	被服整理学実験	Ｃ１			2
	染色加工学	Ｄ２			3
	服飾美学	Ａ２			3
	染織史	Ａ２			3
	舞台衣装論	Ａ２			3
	ファッションドローイング	Ｃ１			2
	ファッション造形Ａ	Ｃ１			3
	ファッション造形Ｂ	Ｃ１			3
	ファッション造形Ｃ	Ｃ１			3
	ファッション商品学	Ａ２			2
	ファッション製品消費科学	Ａ２		教	2
	ファッション製品消費科学演習	Ｂ１			2
	ファッション学特論Ａ	Ｄ２			3
	ファッション学特論Ｂ	Ｄ２			3

	授業科目名	授業方法／単位数	選択必修区分	資格	配当学年
学科専門科目	メイクデザイン実習Ⅰ	Ｃ１			1
	メイクデザイン実習Ⅱ	Ｃ１			2
	化粧品基礎科学	Ａ２			1
	顔学概論	Ａ２			2
	化粧の歴史Ａ	Ａ２			2
	化粧の歴史Ｂ	Ａ２			2
	美容福祉論	Ａ２			2
	ネイルアート実習Ⅰ	Ｃ１			2
	ネイルアート実習Ⅱ	Ｃ１			2
	メイクデザイン実習ⅢＡ	Ｃ１			2
	メイクデザイン実習ⅢＢ	Ｃ１			3
	メイクデザイン実習ⅢＣ	Ｃ１			3
	化粧品基礎科学実験Ⅰ	Ｃ１			2
	化粧品基礎科学実験Ⅱ	Ｃ１			2
	美粧と社会	Ａ２			3
	顔・スカルプチュア	Ｃ１			2
	ヘアスタイリング実習	Ｃ１			3
	エステ論	Ａ２			3
	エステ実習	Ｃ１			3
	香りの美学(ﾌﾚｸﾞﾗﾝｽ概論)	Ａ２			3
	化粧学特論Ａ	Ｄ２			2
	化粧学特論Ｂ	Ｄ２			3
	美の法規	Ａ２			3
	美と衛生学Ａ	Ａ２			1
	美と衛生学Ｂ	Ａ２			1
	環境とデザイン設計	Ａ２			1
	美と健康	Ａ２			2
	人体の美と科学Ａ	Ａ２			3
	人体の美と科学Ｂ	Ａ２			3
	香粧品の化学Ａ	Ａ２			1
	香粧品の化学Ｂ	Ａ２			2
	美容文化論Ａ	Ａ２			2
	美容文化論Ｂ	Ａ２			2
	表現の技術Ａ	Ａ２			1
	表現の技術Ｂ	Ａ２			1
	表現の技術Ｃ	Ａ２			2
	表現の技術Ｄ	Ａ２			2
	表現の技術Ｅ	Ａ２			3
	美の経営論	Ａ２			3
	デザイン表現基礎Ａ	Ｃ４			1
	デザイン表現基礎Ｂ	Ｃ４			2
	デザイン表現基礎Ｃ	Ｃ４			3
	応用デザインＡ	Ｃ４			2
	応用デザインＢ	Ｃ４			3
	応用デザインＣ	Ｃ４			4
	トータルファッション演習Ａ	Ｃ３			3
	トータルファッション演習Ｂ	Ｃ３			3
	メイクデザイン実習	Ｃ２			2
	ネイルアート実習	Ｃ２			2
	エステ演習	Ｃ２			3
	美容実践演習	Ｃ２			4
卒業研究科目	演習ＩＡ	Ｂ１			3
	演習ＩＢ	Ｂ１			3
	演習Ⅰ	Ｂ２			3
	演習ⅡＡ	Ｂ１	必		4
	演習ⅡＢ	Ｂ１	必		4
	卒業論文・卒業制作	6	必		4
教職関係科目	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	Ａ２		教	3
	住居学(製図を含む。)	Ａ２		教	2
	家庭電気・機械(情報処理を含む。)	Ａ２		教	2
	保育学(家庭看護を含む。)	Ａ２		教	3
	食物学(栄養学、食品学を含む。)	Ａ２		教	3
	小児保健学実習	Ｃ１		教	3
	〔調理学実習〕	Ｃ２		教	3

注：〔　〕の科目は第６条第３項の再掲

児童教育学部【学士課程基幹教育科目】

別表(2)第3条関係

授業科目名			授業方法 単位数	選択必修区分	配当学年
樟蔭基礎科目	樟蔭への誘い	樟蔭の窓	A1	必	1
	これからの女性	女性のライフサイクル	A2	中4単位選必	1～4
		ジェンダーを考える	A2		1～4
		現代に生きる女性たち	A2		1～4
	豊かな情操	笑いは人をつなぐ	A2		2～4
		感性の技法	A2		2～4
		うつくしいという体験を考える	A2		2～4
言語科目	コミュニケーション（日本語リテラシー）	アカデミック・スキルズA	B1	必	1
		アカデミック・スキルズB	B1	必	1
		新聞で学ぶ日本語A	B1		1～4
		新聞で学ぶ日本語B	B1		1～4
		生活の中の日本語A	B1		2～4
		生活の中の日本語B	B1		2～4
		論理トレーニング	B1		1～4
		言語とコミュニケーション	A2		2～4
	コミュニケーション（外国語）	Communicative English 1r	B1	必保幼小中2単位	1～4
		Communicative English 1o	B1		1～4
		Communicative English 2y	B1		1～4
		Communicative English 2g	B1		1～4
		Communicative English 3b	B1		1～4
		Communicative English 3v	B1		1～4
		Basic English bk	B1	中2単位選必	1～4
		Basic English w	B1		1～4
		Basic English 1r	B1		1～4
		Basic English 1o	B1		1～4
		Basic English 2y	B1		1～4
		Basic English 2g	B1		1～4
		Basic English 3b	B1		1～4
		Basic English 3v	B1		1～4
		資格の英語A	B1		1～4
		資格の英語B	B1		1～4
		旅行の英語	B1		1～4
		留学の英語	B1		2～4
		接客英会話	B1		1～4
		ニュースの英語	B1		2～4
		Conversation and Fluency A	B1		3・4
		Conversation and Fluency B	B1		3・4
		アジアの言語・文化を知る	B1		2～4
		海外外国語演習A	B2		1～4
		海外外国語演習B	B2		1～4
		海外外国語演習C	B2		1～4
		異文化演習	B1		1～4
		中国語Ⅰ	B1		1～4
		中国語Ⅱ	B1		1～4
		中国語Ⅲ	B1		2～4
		中国語Ⅳ	B1		2～4
		韓国・朝鮮語Ⅰ	B1		1～4
		韓国・朝鮮語Ⅱ	B1		1～4
		韓国・朝鮮語Ⅲ	B1		2～4
		韓国・朝鮮語Ⅳ	B1		2～4
		ドイツ語Ⅰ	B1		1～4
		ドイツ語Ⅱ	B1		1～4
		フランス語Ⅰ	B1		1～4
		フランス語Ⅱ	B1		1～4
		スペイン語Ⅰ	B1		1～4
		スペイン語Ⅱ	B1		1～4

授業科目名			授業方法 単位数	選択必修区分	配当学年
数理情報科目	情報リテラシー	情報と社会	A2	必保	1
		情報処理基礎A	C1	必保幼小中	1
		情報処理基礎B	C1	必保幼小中	1
		暮らしとAI・データサイエンス	A2	選必中2単位	2～4
		AI・データサイエンス（データと社会）	A2		2～4
		AI・データサイエンス（データ分析）	A2		2～4
		数学でわかるAIのエッセンス	A2		1～4
樟蔭教養科目	自然の理解	数学とは何か	A2		1～4
		物理で考える暮らし	A2		1～4
		化学で考える暮らし	A2		1～4
		宇宙へ拡がる私たちの世界	A2		1～4
		健康の科学	A2		1～4
		ライフステージと栄養	A2		1～4
		生命の成り立ち	A2		1～4
		美しい地球を創る	A2		2～4
	人文の探求	私たちはどう生きるか	A2		1～4
		文学の読み方	A2		1～4
		歴史の読み方	A2		1～4
		自己の探求	A2		1～4
		心のしくみ	A2		1～4
		心の健康	A2		1～4
		宗教と現代	A2		1～4
		ポップカルチャー論	A2		1～4
		表現するからだ,考えるからだ	A2		2～4
	社会への視点	日本国憲法	A2	保幼小中	1～4
		日常生活と法	A2		1～4
		家計・消費と経済	A2		1～4
		現代社会と生活者の視点	A2		1～4
		子育てを考える	A2		1～4
		地域課題とボランティア活動	A2		1～4
		地球と社会の歩き方	A2		2～4
		国際社会と平和	A2		2～4
		多様性社会を生きるとは	A2		2～4
	体験の方法	和の伝統芸道	D1		1～4
		レクリエーションと健康	D2		2～4
		運動と健康A	D1	保幼小中	1～4
		運動と健康B	D1	保幼小中	1～4
キャリア系科目		キャリア設計	B1		1・2
		キャリア開発	B1		2
		キャリア研究	A2		3
		キャリア実習Ａ	C2		2
		キャリア実習Ｂ	C2		3
		キャリア実習Ｃ	C2		4

【専攻科目】

児童教育学科

	授業科目名	授業方法/単位数	コース※ 幼児教育保育	コース※ 学校教育	資格	配当学年
学科基礎・基幹科目	児童教育学概論	A 2	必	必		1
	演習A	B 1	必	必		3
	演習B	B 1	必	必		3
	演習C	B 1	必	必		4
	演習D	B 1	必	必		4
	卒業論文・卒業制作	6	必	必		4
学科共通科目 教育・保育の内容	国語	A 2		必	(幼) 小※	1
	書写	A 2			(幼) 小※	2
	社会	A 2		必	(幼) 小※	1
	算数	A 2		必	(幼) 小※	1
	理科	A 2		必	(幼) 小※	1
	生活	A 2			(幼) 小※	1
	音楽表現Ⅰ	B 2			保 幼 小※	1
	音楽表現Ⅱ	B 2			(保) (幼) 小※	2
	造形表現	B 2			保 幼 小※	3
	家庭	A 2			(幼) 小※	2
	身体表現（体育）	B 2			保 幼 小※	2
	外国語（英語）	A 2		必	(幼) 小※	2
	幼児理解	A 2	必		(保) 幼	3
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	B 2	必		保 幼 (小)	2
	特別支援教育	B 2		必	(小) 中	2
	子ども家庭相談援助演習	B 1				3
	子どもの心理と教育	A 2				2
	地域子育て支援論	A 2				2
	地域子育て支援実践	B 1				2
	海外保育実習A	C 1				2
	海外保育実習B	C 2				2
	学校教育とICT・AI	B 2		必	(小) (中)	2
	Kids English A	B 2	中1科目選必		(小) (中)	2
	児童文学の世界	A 2				2
	子どもとワークショップ	B 2				2
	インクルーシブ教育の理論と実践	A 2	中1科目選必	必	(小) (中)	3
	実践リトミック	B 2				3
	音楽とこころ	A 2				3
	Kids English B	B 2			(小) (中)	2
	子どもと絵本A	B 1				2・3
	子どもと絵本B	B 1				2・3
教育の理解・実践	教育原理	A 2	必	必	保 幼 小 中	1
	教職概論	A 2	必	必	幼 小 中	1
	教育社会学	A 2	必	必	幼 小 中	2
	人権・同和教育の研究	A 2			(保) (幼) (小) (中)	3
	教育心理学	A 2		必	(保) 小 中	1
	カリキュラム論	A 2	必	必	幼 小 中	3
	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	A 2	必	必	幼 小 中	3
	教育相談論	A 2	必	必	幼 小 中	3
	教職研究	B 1				4
	学校園体験活動A	C 2	必	必	(幼) (小) (中)	1
	学校園体験活動B	C 2			(幼) (小) (中)	1
	学校園体験活動C	C 2			(幼) (小) (中)	2
	学校園体験活動D	C 2			(幼) (小) (中)	2

※履修上、幼児教育保育コース、学校教育コースを設け、1年次秋期にコースを選択

保：保育士関係必修科目　　(保)：保育士関係選択必修科目（6単位以上）

幼：幼稚園教諭関係必修科目　　(幼)：幼稚園教諭関係選択科目

小：小学校教諭関係必修科目　　(小)：小学校教諭関係選択科目

小※：小学校教諭関係選択必修科目（10単位以上）

中：中学校教諭関係必修科目　　(中)：中学校教諭関係選択科目

中※：中学校教諭関係選択必修科目（10単位以上）

	授業科目名	授業方法/単位数	コース※ 幼児教育保育	コース※ 学校教育	資格	配当学年
学科領域科目（幼児教育・保育）	保育原理	A 2			保	1
	子どもの保健	A 2			保	1
	子ども家庭支援の心理学	A 2			保	2
	社会福祉学	A 2			保	1
	子どもと言葉	B 2			保	1
	保育実習Ⅰ(保育所)	C 2			保	2
	保育実習指導Ⅰ(保育所)	B 1			保	2
	保育実習Ⅰ(施設)	C 2			保	3
	保育実習指導Ⅰ(施設)	B 1			保	3
	保育実習Ⅱ(保育所)	C 2			中２科目３単位保	3
	保育実習指導Ⅱ	B 1			中２科目３単位保	3
	保育実習Ⅲ(施設)	C 2			中２科目３単位保	3
	保育実習指導Ⅲ	B 1			中２科目３単位保	3
	保育者論	A 2			保	1
	乳児保育Ⅰ	A 2			保	2
	乳児保育Ⅱ	B 1			保	2
	社会的養護Ⅰ	A 2			保	2
	社会的養護Ⅱ	B 1			保	3
	障害児保育	B 2			保	2
	子どもの食と栄養	B 2			保	2
	子どもの健康と安全	B 1			保	3
	子ども家庭支援論	A 2			保	2
	子育て支援	B 1			保	3
	子ども家庭福祉	A 2			保	3
	児童心理学	A 2	必		保 幼	2
	保育指導法(表現・音楽とリズム)	B 1	必		保 幼	2
	保育指導法(言葉)	B 1	必		保 幼	2
	保育指導法(人間関係)	B 1	必		保 幼	2
	保育指導法(環境)	B 1	必		保 幼	1
	保育指導法(健康)	B 1	必		保 幼	1
	総合的指導法	B 1	必		保 幼	3
	幼児と健康	A 2			(保) 幼	2
	幼児と人間関係	A 2			(保) 幼	2
	幼児と環境	A 2			(保) 幼	2
	幼児と言葉	A 2			(保) 幼	3
	幼児と表現	A 2			(保) 幼	2
	保育指導法(表現・造形)	B 2			(保) 幼	2
	保育指導法(表現・身体表現)	B 2			(保) 幼	1
	幼児教育課程論	A 2	必		保 幼	3
	子どもの発達と援助	B 1	必		保 幼	1
	母子保健学	B 1				3
	幼稚園教育実習	C 4			幼	4
	教育実習指導(幼稚園)	A 1			幼	4
	保育・教職実践演習	B 2			保 幼	4
学科領域科目（学校教育）	初等教科教育法(国語)	A 2		必	小	2
	初等教科教育法(社会)	A 2			小	2
	初等教科教育法(算数)	A 2		必	小	2
	初等教科教育法(理科)	A 2		必	小	2
	初等教科教育法(生活)	A 2			小	2
	初等教科教育法(音楽)	A 2			小	3
	初等教科教育法(図画工作)	A 2			小	3
	初等教科教育法(家庭)	A 2			小	3
	初等教科教育法(体育)	A 2			小	3
	初等教科教育法（外国語）	A 2		必	小	3
	道徳の理論及び指導法	A 2		必	小 中	3
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	A 2		必	小 中	3
	生徒・進路指導論	A 2		必	小 中	2
	介護等の体験の事前指導	D 1			小 中	3
	介護等の体験	C 1			(小) 中	3
	英語学概論	A 2			中	1
	英語学特論	A 2			中※	2
	英語学講読	A 2			中※	2
	英語音声学	A 2		必	中※	1
	英米文学概論	A 2			中	1
	英米文学講読A	A 2			中※	2
	英米文学講読B	A 2			中※	2
	英語コミュニケーションA	B 1		必	中	1
	英語コミュニケーションB	B 1			中	1
	英語コミュニケーションC	B 1			中※	2
	英語コミュニケーションD	B 1			中※	2
	異文化理解A	A 2		必	中	2
	異文化理解B	A 2			中※	3
	比較文化論A	A 2			中	2
	比較文化論B	A 2			中※	3
	英語科教科教育法A	A 2			中	2
	英語科教科教育法B	A 2			中	2
	英語科教科教育法C	A 2			中	3
	英語科教科教育法D	A 2			中	3
	英語音声クリニック	B 1				4
	現代英米文学特講	A 2				3
	現代英文法特講	A 2				3
	Active English	B 1				2
	English Presentation	B 1				3
	小学校教育実習	C 4			小	3・4
	教育実習指導(小学校)	A 1			小	3・4
	中学校教育実習	C 4			中	3・4
	教育実習指導（中学校）	A 1			中	3・4
	教職実践演習（小・中）	B 2			小 中	4

健康栄養学部【学士課程基幹教育科目】

別表(3)第3条関係

授業科目名			授業方法 単位数	選択必修区分	配当学年
樟蔭基礎科目	樟蔭への誘い	樟蔭の窓	A1	必	1
	これからの女性	女性のライフサイクル	A2	中4単位選必	1〜4
		ジェンダーを考える	A2		1〜4
		現代に生きる女性たち	A2		1〜4
	豊かな情操	笑いは人をつなぐ	A2		2〜4
		感性の技法	A2		2〜4
		うつくしいという体験を考える	A2		2〜4
言語科目	コミュニケーション（日本語リテラシー）	アカデミック・スキルズA	B1	必	1
		アカデミック・スキルズB	B1	必	1
		新聞で学ぶ日本語A	B1		1〜4
		新聞で学ぶ日本語B	B1		1〜4
		生活の中の日本語A	B1		2〜4
		生活の中の日本語B	B1		2〜4
		論理トレーニング	B1		1〜4
		言語とコミュニケーション	A2		2〜4
	コミュニケーション（外国語）	Communicative English 1r	B1	(教)	1〜4
		Communicative English 1o	B1	(教)	1〜4
		Communicative English 2y	B1	(教)	1〜4
		Communicative English 2g	B1	(教)	1〜4
		Communicative English 3b	B1	(教)	1〜4
		Communicative English 3v	B1	(教)	1〜4
		Basic English bk	B1		1〜4
		Basic English w	B1		1〜4
		Basic English 1r	B1		1〜4
		Basic English 1o	B1		1〜4
		Basic English 2y	B1		1〜4
		Basic English 2g	B1		1〜4
		Basic English 3b	B1		1〜4
		Basic English 3v	B1		1〜4
		資格の英語A	B1		1〜4
		資格の英語B	B1		1〜4
		旅行の英語	B1		1〜4
		留学の英語	B1		2〜4
		接客英会話	B1		1〜4
		ニュースの英語	B1	中4単位選必	2〜4
		Conversation and Fluency A	B1		3・4
		Conversation and Fluency B	B1		3・4
		アジアの言語・文化を知る	B1		2〜4
		海外外国語演習A	B2		1〜4
		海外外国語演習B	B2		1〜4
		海外外国語演習C	B2		1〜4
		異文化演習	B1		1〜4
		中国語Ⅰ	B1		1〜4
		中国語Ⅱ	B1		1〜4
		中国語Ⅲ	B1		2〜4
		中国語Ⅳ	B1		2〜4
		韓国・朝鮮語Ⅰ	B1		1〜4
		韓国・朝鮮語Ⅱ	B1		1〜4
		韓国・朝鮮語Ⅲ	B1		2〜4
		韓国・朝鮮語Ⅳ	B1		2〜4
		ドイツ語Ⅰ	B1		1〜4
		ドイツ語Ⅱ	B1		1〜4
		フランス語Ⅰ	B1		1〜4
		フランス語Ⅱ	B1		1〜4
		スペイン語Ⅰ	B1		1〜4
		スペイン語Ⅱ	B1		1〜4

授業科目名			授業方法 単位数	選択必修区分	配当学年
数理情報科目	情報リテラシー	情報と社会	A2	必	1
		情報処理基礎A	C1	必教フ	1
		情報処理基礎B	C1	必教	1
		暮らしとAI・データサイエンス	A2	選必中2単位	2〜4
		AI・データサイエンス（データと社会）	A2		2〜4
		AI・データサイエンス（データ分析）	A2		2〜4
		数学でわかるAIのエッセンス	A2		1〜4
樟蔭教養科目	自然の理解	数学とは何か	A2		1〜4
		物理で考える暮らし	A2		1〜4
		化学で考える暮らし	A2		1〜4
		宇宙へ拡がる私たちの世界	A2		1〜4
		健康の科学	A2		1〜4
		ライフステージと栄養	A2		1〜4
		生命の成り立ち	A2		1〜4
		美しい地球を創る	A2		2〜4
	人文の探求	私たちはどう生きるか	A2		1〜4
		文学の読み方	A2		1〜4
		歴史の読み方	A2		1〜4
		自己の探求	A2		1〜4
		心のしくみ	A2		1〜4
		心の健康	A2		1〜4
		宗教と現代	A2		1〜4
		ポップカルチャー論	A2		1〜4
		表現するからだ,考えるからだ	A2		2〜4
	社会への視点	日本国憲法	A2	教	1〜4
		日常生活と法	A2		1〜4
		家計・消費と経済	A2		1〜4
		現代社会と生活者の視点	A2		1〜4
		子育てを考える	A2		1〜4
		地域課題とボランティア活動	A2		1〜4
		地球と社会の歩き方	A2		2〜4
		国際社会と平和	A2		2〜4
		多様性社会を生きるとは	A2		2〜4
	体験の方法	和の伝統芸道	D1		1〜4
		レクリエーションと健康	D2		2〜4
		運動と健康A	D1	教	1〜4
		運動と健康B	D1	教	1〜4
	キャリア系科目	キャリア設計	B1		1・2
		キャリア開発	B1		2
		キャリア研究	A2		3
		キャリア実習Ａ	C2		2
		キャリア実習Ｂ	C2		3
		キャリア実習Ｃ	C2		4

(教)：教職課程2単位選択必修

【専攻科目】

健康栄養学科　管理栄養士専攻

授業科目名			授業方法/単位数	選択必修区分	配当学年
基礎科目	学科基	化学	A２	必	1
		生物学	A２	必	1
専門基礎分野関連科目	社会・環境と健康	社会・環境と健康A	A２	必　管　栄	2
		社会・環境と健康B	A２	管	3
		社会・環境と健康C	A２	必　管　栄	3
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学A	A２	必　管　栄	1
		解剖生理学B	A２	管	2
		解剖生理学実験A	C１	管	2
		解剖生理学実験B	C１	管	3
		生化学A	A２	必　管　栄	1
		生化学B	A２	管	2
		生化学実験	C１	管	2
		薬と食	A２	必　管　栄	3
		臨床病態学総論	A２	必　管　栄	2
		臨床病態学各論	A２	管	3
		微生物学	A２	必　管　栄	2
	食べ物と健康	食品学	A２	必　管　栄	1
		基礎化学実験	C１	必　管　栄	1
		食品化学実験	C１	必　管　栄	1
		食品プロセス学	A２	必　管　栄	2
		食品プロセス学実験A	C１	必　管　栄	2
		食品プロセス学実験B	C１	管	3
		調理と食事設計	A２	必　管　栄	1
		基礎調理実習	C１	必　管　栄	1
		食事設計実習	C１	必　管　栄	2
		食品衛生学	A２	必　管　栄	2
		食品衛生学実験	C１	必　管　栄	3
		食品機能学	A２		3
専門分野関連科目	基礎栄養学	基礎栄養学	A２	必　管　栄	1
		基礎栄養学実験	C１	必　管　栄	1
	応用栄養学	栄養マネジメント論	A２	必　管　栄	1
		栄養マネジメント実習	C１	必　管　栄	2
		応用栄養学A	A２	必　管　栄	2
		応用栄養学B	A２	必　管　栄	2
		応用栄養学実習	C１	必　管　栄	2
		運動栄養学	A２		2
		運動栄養学実習	C１		3
	栄養教育論	栄養教育論A	A２	必　管　栄	2
		栄養教育論B	A２	必　管　栄	2
		栄養教育論C	A２	必　管　栄	3
		栄養教育論実習	C１	必　管　栄	3
	臨床栄養学	臨床栄養学A	A２	必　管　栄	2
		臨床栄養学B	A２	管	2
		臨床栄養学C	A２	管	3
		臨床栄養学D	A２	管	3
		臨床栄養学実習A(学内)	C１	必　管　栄	3
		臨床栄養学実習B(学内)	C１	管	3
	公衆栄養学	公衆栄養学A	A２	必　管　栄	3
		公衆栄養学B	A２	管	3
		公衆栄養学実習A(学内)	C１	必　管　栄	4
	給食経営管理論	給食経営管理論A	A２	必　管　栄	2
		給食経営管理論B	A２	必　管　栄	2
		給食経営管理実習A(学内)	C１	必　管　栄	3

授業科目名			授業方法/単位数	選択必修区分	配当学年
専門分野関連科目	総合演習	実践栄養管理研究	D２		3
		健康栄養研究	D２	管	3・4
		管理栄養士演習A	D４	管	4
		管理栄養士演習B	D４	管	4
	臨地実習	給食経営管理実習B(学外)	C１	必　管　栄	3
		臨床栄養学実習C(学外)	C２	管	3
		公衆栄養学実習B(学外)	C１	管	4
卒業論文関連科目		演習Ⅰ	B２	必	4
		演習Ⅱ	B２	必	4
		卒業論文	6	必	4
教職関連科目	栄養教諭	学校食教育概論	A２	《栄教》	2
		学校食教育実践論	A２	《栄教》	3

健康栄養学科　食物栄養専攻

授業科目名			授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
専門分野関連科目	基礎学科目	化学	Ａ２	必	1
		生物学	Ａ２	必	1
	社会生活と健康	社会福祉概論	Ａ２	必　栄	2
		公衆衛生学	Ａ２	必　栄	2
	人体の構造と機能	生化学	Ａ２	必《家庭》栄	1
		解剖生理学	Ａ２	必　栄	1
		運動生理学	Ａ２	栄	2
		臨床病態学	Ａ２	必　栄	2
		微生物学	Ａ２	栄	2
	食品と衛生	食品学	Ａ２	必《家庭》栄　フ	1
		基礎食品実験	Ｃ１	栄　フ	1
		食品化学実験	Ｃ１	栄　フ	1
		食品プロセス学	Ａ２	必《家庭》栄　フ	2
		食品プロセス学実習	Ｃ１	栄	3
		食品衛生学	Ａ２	必　栄　フ	3
		食品衛生学実験	Ｃ１	栄	3
		食品機能学	Ａ２	フ	3
		食品の官能評価・鑑別論	Ａ２	フ	2
	栄養と健康	基礎栄養学	Ａ２	必《家庭》栄　フ	1
		基礎栄養学実験	Ｃ１	栄	1
		応用栄養学Ａ	Ａ２	必《家庭》栄	1
		応用栄養学Ｂ	Ａ２	栄	2
		応用栄養学実習	Ｃ１	栄	2
		運動栄養学	Ａ２		2
		運動栄養学実習	Ｃ１		3
		臨床栄養学	Ａ２	必　栄	3
		臨床栄養学実習	Ｃ１	栄	3
	栄養の指導	栄養教育論Ａ	Ａ２	必　栄	2
		栄養教育論Ｂ	Ａ２	栄	2
		栄養教育論実習Ａ	Ｃ１	栄	3
		栄養教育論実習Ｂ	Ｃ１	栄	3
		公衆栄養学	Ａ２	必　栄	2
		公衆栄養学実習	Ｃ１	栄	3
	給食の運営	給食経営管理論	Ａ２	必　栄	3
		給食経営管理実習Ａ(学内)	Ｃ１	栄	3
		給食経営管理実習Ｂ(学外)（事前事後指導を含む）	Ｃ１	栄	4
		調理学	Ａ２	必《家庭》栄　フ	1
		調理学実習Ａ	Ｃ１	《家庭》栄　フ	1
		調理学実習Ｂ	Ｃ１	《家庭》栄　フ	2
		食料経済学	Ａ２	栄　フ	2
	総合演習	実践栄養管理研究	Ｄ２		3
		健康栄養研究	Ｄ２	必	3・4

授業科目名			授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
卒業論文関連科目		演習Ⅰ	Ｂ２	必	4
		演習Ⅱ	Ｂ２	必	4
		卒業論文	6	必	4
フードスペシャリスト関連科目		フードスペシャリスト論	Ａ２	フ	2
		フードコーディネート論	Ｂ１	フ	2
		フードコーディネートＡ	Ｂ１	フ	3
		フードコーディネートＢ	Ｂ１	フ	3
教職関連科目	栄養教諭	学校食教育概論	Ａ２	《栄教》	2
		学校食教育実践論	Ａ２	《栄教》	3
	中・高教諭（家庭）	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	Ａ２	《家庭》	3
		住居学(製図を含む。)	Ａ２	《家庭》	2
		家庭電気・機械(情報処理を含む。)	Ａ２	《家庭》	3
		被服学	Ａ２	《家庭》	3
		〔被服構成学実習〕	Ｃ１	《家庭》	3
		保育学(家庭看護を含む。)	Ａ２	《家庭》	3
		小児保健学実習	Ｃ１	《家庭》	3

注：〔　〕の科目は第６条の３第３項の再掲

別　　科

生活専修

別表（4）

	授業科目名	時間数	選択必修区分 食物コース	選択必修区分 語学コース
共通科目	スポーツ実習	2	中20時間選択必修	中20時間選択必修
	話し言葉と書き言葉	2		
	ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ	2		
	ドイツ語Ⅰ	1		
	ドイツ語Ⅱ	1		
	フランス語Ⅰ	1		
	フランス語Ⅱ	1		
	こころの科学	2		
	育児の科学	2		
	書道	2		
	秘書実務	2		
	福祉とﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動	2		
	文化人類学入門	2		
	暮らしと装い	2		
	情報の整理と利用Ⅰ	1		
	情報の整理と利用Ⅱ	1		
	人生論	2		
	美術鑑賞	2		
	音楽鑑賞	1		
	暮らしと法律	2		
	生活文化史Ⅰ	1		
	生活文化史Ⅱ	1		
	世界の文学	2		
	暮らしと住まいⅠ	1		
	暮らしと住まいⅡ	1		
	たべものの科学	2		
	情報の整理と利用Ⅲ	1		
	情報の整理と利用Ⅳ	1		
	海外英語演習	2		
	海外ドイツ語演習	2		
	海外フランス語演習	2		

	授業科目名	時間数	選択必修区分 食物コース	選択必修区分 語学コース
専門科目	〔食物コース〕			
	食品学概論	2	中28時間選択必修	
	食品材料学	2		
	食品加工概論	2		
	基礎調理理論	2		
	基礎調理実習	2		
	食品学実験	2		
	応用生物学	2		
	食品基礎化学	2		
	食品衛生学	2		
	食生活情報演習	2		
	食品学各論	2		
	栄養学	2		
	応用調理	4		
	栄養学各論	2		
	特殊食品学	2		
	食品加工実習	2		
	自然(生活)科学概論	2		
	暮らしと経済Ⅰ	1		
	暮らしと経済Ⅱ	1		
	発酵食品学実習	2		
	〔語学コース〕			
	英語	6		必
	ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝ	4		必
	ｵｰﾗﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	18		必

被服専修

	授業科目名	時間数	選択必修区分
共通科目	スポーツ実習	2	
	話し言葉と書き言葉	2	
	ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ･ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ	2	
	ドイツ語Ⅰ	1	
	ドイツ語Ⅱ	1	
	フランス語Ⅰ	1	
	フランス語Ⅱ	1	
	こころの科学	2	
	育児の科学	2	
	書道	2	
	秘書実務	2	
	福祉とﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動	2	中16時間選択必修
	文化人類学入門	2	
	暮らしと装い	2	
	情報の整理と利用Ⅰ	1	
	情報の整理と利用Ⅱ	1	
	人生論	2	
	美術鑑賞	2	
	音楽鑑賞	1	
	暮らしと法律	2	
	生活文化史Ⅰ	1	
	生活文化史Ⅱ	1	
	世界の文学	2	
	暮らしと住まいⅠ	1	
	暮らしと住まいⅡ	1	
	たべものの科学	2	
	情報の整理と利用Ⅲ	1	
	情報の整理と利用Ⅳ	1	
	海外英語演習	2	
	海外ドイツ語演習	2	
	海外フランス語演習	2	

	授業科目名	時間数	選択必修区分
専門科目	被服構成Ⅰ－１	2	
	被服構成Ⅱ－１	2	
	デザイン	2	
	色彩演習Ⅰ	1	
	色彩演習Ⅱ	1	
	被服整理学	2	
	被服材料学	2	
	服飾史	2	
	染色学	2	
	生活情報論Ⅰ	1	
	生活情報論Ⅱ	1	
	英文ファッション誌講読Ⅰ	1	
	英文ファッション誌講読Ⅱ	1	中32時間選択必修
	被服科学	2	
	被服構成Ⅰ－２	4	
	被服構成Ⅱ－２	4	
	コンピュータ造形Ⅰ	1	
	コンピュータ造形Ⅱ	1	
	消費心理学Ⅰ	1	
	消費心理学Ⅱ	1	
	アパレル産業論Ⅰ	1	
	アパレル産業論Ⅱ	1	
	スタイル画	2	
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ･ﾃﾞｻﾞｲﾝ	2	
	被服整理実習Ⅰ	1	
	被服整理実習Ⅱ	1	
	被服材料実験Ⅰ	1	
	被服材料実験Ⅱ	1	
	染色工芸論Ⅰ	1	
	染色工芸論Ⅱ	1	
	服飾工芸Ⅰ	2	
	服飾工芸Ⅱ	2	

変更事項を記載した書類

＜変更の事由＞

入学定員超過率の早期適正化を目的として、学芸学部国文学科の入学定員を 20 人、国際英語学科の入学定員を 10 人、心理学科の入学定員を 20 人、ライフプランニング学科の入学定員を 20 人、児童教育学部児童教育学科の入学定員を 70 人、健康栄養学部健康栄養学科の入学定員を 60 人減らす。

なお、学芸学部リベラルアーツ学科設置認可申請（令和 6 年 3 月申請）に係る学則変更についても下記の通り反映している。

また、令和 4 年度改正の大学設置基準に対応するため、下記の通り学則を変更する。

＜変更点＞

1. 教育研究上の目的にリベラルアーツ学科を追加。（学則第 2 条）

2. 大学設置基準の改正に伴い、1 年間の授業を行なう期間について改正。（学則第 4 条第 2 項）

3. 一部の授業科目についてメディアを利用して授業を行う場合について、学則に明記。（学則第 5 条の 2 第 2 項、第 3 項）

4. 学芸学部リベラルアーツ学科の卒業要件を追加。（学則第 6 条の 2）

5. 学士課程基幹教育科目の学則改正に伴い、社会教育主事に関する科目、日本語教育に関する科目を改正。（学則第 13 条の 6、第 16 条の 3）

6. 大学設置基準の改正に伴い、「教職員組織」を「教育研究実施組織」に改正。（学則第 12 章）

7. 大学設置基準の改正に伴い、専任教員に関する文言を「基幹教員」に改正。（学則第 38 条、第 40 条）

8. 学芸学部リベラルアーツ学科の収容定員を追加。（学則第 42 条、附則）

9. 学芸学部国文学科、国際英語学科、心理学科、ライフプランニング学科、児童教育学部児童教育学科、健康栄養学部健康栄養学科の入学定員、収容定員を下記の通り改正。（学則第 42 条、附則）

学科	入学定員 （改正前）	収容定員 （改正前）	入学定員 （改正後）	収容定員 （改正後）
国文学科	60	240	40	160
国際英語学科	40	160	30	120
心理学科	80	320	60	240
ライフプランニング学科	60	240	40	160
児童教育学科	120	480	50	200
健康栄養学科	160	640	100	400

10. 学芸学部、児童教育学部、健康栄養学部の学士課程基幹教育科目を改正。（学則別表（1）、（2）、（3））

11. 学芸学部リベラルアーツ学科の専攻科目を追加。（学則別表（1））

改 正 案 （令和７年度）

略

第２章　学部及び学科等の組織

第２条　本学は、大阪樟蔭女子大学と称し、下記の学部及び学科並びに専攻を置く。

学部	学科	専　攻	教育研究上の目的
学芸学部			リベラルアーツ学科及び人文系の国文学科、国際英語学科、心理学科と生活環境系のライフプランニング学科、化粧ファッション学科の６学科で構成し、学士課程基幹教育に加えて、それぞれに特色ある専門分野の学習を通じて、広い視野と深い教養をもった人材を育成することを目的とする。
	リベラルアーツ学科	—	人間の心理やコミュニケーションに関する高度な知識、社会・文化の多様性を尊重し実証的・科学的に探究する力、人間理解に立脚した社会貢献を果たす意欲と行動力を身につけた人材の育成を目的とする。
	国文学科	—	日本の言語・文学に関する幅広い知識を教授することにより、日本文化に対する造詣を深め、豊かな情操を涵養し、言語運用能力を養成する。日本文化を継承・発展させ発信する能力を以って、異文化間の交流を視野に入れつつ、社会で活躍できる人材の育成を目的とする。
	国際英語学科	—	国際語としての英語の役割を認識し、国際理解に貢献する高度で実践的な英語運用力の育成を図るとともに、英米文化圏に限定することなく、多文化社会に適応できる、広い視野と深い教養をもった人材を育成することを目的とする。特に、自国の言語・文化を国際的な視点から客観的に捉えることができる分析力と、それを世界に向けて発信する豊かな表現力・実践力を身につけた国際人を養成する。
	心理学科	—	人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。
	ライフプランニング学科	—	現代に生きる女性がその人生において経験するライフ・イベントに主体的に対処していくために必要な知識と技能を養い、家庭と職場の双方において活躍できるバランス感覚の優れた人材の育成を目的とする。また、日々の暮らしを真の意味で豊かにする食に関する先進的な知識と技能を身につけ、食の伝統と文化を理解した上で自らの

現 行（令和６年度）

略

第２章　学部及び学科等の組織

第２条　本学は、大阪樟蔭女子大学と称し、下記の学部及び学科並びに専攻を置く。

学部	学科	専　攻	教育研究上の目的
学芸学部			人文系の国文学科、国際英語学科、心理学科と生活環境系のライフプランニング学科、化粧ファッション学科の５学科で構成し、学士課程基幹教育に加えて、それぞれに特色ある専門分野の学習を通じて、広い視野と深い教養をもった人材を育成することを目的とする。
	国文学科	—	日本の言語・文学に関する幅広い知識を教授することにより、日本文化に対する造詣を深め、豊かな情操を涵養し、言語運用能力を養成する。日本文化を継承・発展させ発信する能力を以って、異文化間の交流を視野に入れつつ、社会で活躍できる人材の育成を目的とする。
	国際英語学科	—	国際語としての英語の役割を認識し、国際理解に貢献する高度で実践的な英語運用力の育成を図るとともに、英米文化圏に限定することなく、多文化社会に適応できる、広い視野と深い教養をもった人材を育成することを目的とする。特に、自国の言語・文化を国際的な視点から客観的に捉えることができる分析力と、それを世界に向けて発信する豊かな表現力・実践力を身につけた国際人を養成する。
	心理学科	—	人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。
	ライフプランニング学科	—	現代に生きる女性がその人生において経験するライフ・イベントに主体的に対処していくために必要な知識と技能を養い、家庭と職場の双方において活躍できるバランス感覚の優れた人材の育成を目的とする。また、日々の暮らしを真の意味で豊かにする食に関する先進的な知識と技能を身につ

			暮らしに役立て、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
	化粧ファッション学科	—	服飾・化粧を中心に、よそおいに関する幅広い専門的知識や技能、豊かな感性を養い、ファッション関連産業で活躍し得る人材の育成を目的とする。
児童教育学部			子どもを様々な角度から見つめることができ、教育、文化、福祉、保健、心理等に関する専門的知識及び技能を兼ね備えた子どもの専門家として、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
	児童教育学科	—	子どもを様々な角度から見つめることができ、教育、文化、福祉、保健、心理等に関する専門的知識及び技能を兼ね備えた子どもの専門家として、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
健康栄養学部			健康をキーワードに、医療を中心とした現場で栄養教育や指導ができる管理栄養士の育成、ならびに、食を中心とした正しい健康情報を広く国民に教育指導できる人材の育成を目的とする。
	健康栄養学科	管理栄養士専攻	栄養ケア・マネジメントに関する教育研究を通して、栄養ケア・マネジメントの基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、基本的な栄養管理に関する実践能力を有した管理栄養士の育成を行うことにより、地域社会の保健・医療・福祉サービスの発展と向上に寄与する。
		食物栄養専攻	食品、調理、栄養などの「食」に関する教育研究を通して、人々の健康な暮らしを支える専門知識と技術の確実な習得のもとに、食に関するさまざまな分野で活躍する人材の育成を行うことにより、地域社会の健康の保持・増進に寄与する。

2　本学の学芸学部化粧ファッション学科に美容師養成課程を置く。この養成課程の履修細則は、別に定める。

第２条の２　本学に、大学院を置く。

2　第４０条の２　(大学協議会)を除き、大学院に関する学則その他の規定は、別に定める。

略

第４章　履修方法、試験、卒業及び学位

第４条　修業年限を４年、最長在学年限を８年とする。ただし、編入学、転入学および再入学の場合の最長在学年限は、その者の在学す

			け、食の伝統と文化を理解した上で自らの暮らしに役立て、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
	化粧ファッション学科	—	服飾・化粧を中心に、よそおいに関する幅広い専門的知識や技能、豊かな感性を養い、ファッション関連産業で活躍し得る人材の育成を目的とする。
児童教育学部			子どもを様々な角度から見つめることができ、教育、文化、福祉、保健、心理等に関する専門的知識及び技能を兼ね備えた子どもの専門家として、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
	児童教育学科	—	子どもを様々な角度から見つめることができ、教育、文化、福祉、保健、心理等に関する専門的知識及び技能を兼ね備えた子どもの専門家として、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
健康栄養学部			健康をキーワードに、医療を中心とした現場で栄養教育や指導ができる管理栄養士の育成、ならびに、食を中心とした正しい健康情報を広く国民に教育指導できる人材の育成を目的とする。
	健康栄養学科	管理栄養士専攻	栄養ケア・マネジメントに関する教育研究を通して、栄養ケア・マネジメントの基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、基本的な栄養管理に関する実践能力を有した管理栄養士の育成を行うことにより、地域社会の保健・医療・福祉サービスの発展と向上に寄与する。
		食物栄養専攻	食品、調理、栄養などの「食」に関する教育研究を通して、人々の健康な暮らしを支える専門知識と技術の確実な習得のもとに、食に関するさまざまな分野で活躍する人材の育成を行うことにより、地域社会の健康の保持・増進に寄与する。

2　本学の学芸学部化粧ファッション学科に美容師養成課程を置く。この養成課程の履修細則は、別に定める。

第２条の２　本学に、大学院を置く。

2　第４０条の２　(大学協議会)を除き、大学院に関する学則その他の規定は、別に定める。

略

第４章　履修方法、試験、卒業及び学位

第４条　修業年限を４年、最長在学年限を８年とする。ただし、編入学、転入学および再入学の場合の最長在学年限は、その者の在学す

べき年数の２倍に相当する年数を超えないものとする。

２　１年間の授業を行なう期間は、35 週にわたることを原則とする。

３　各授業科目の授業は、15 週にわたる期間を単位として行なうものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、この期間より短い特定の期間において授業を行なうことができる。

第５条　授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとする。ただし、実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲をもって 1 単位とする。

２ 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第５条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　前項に規定する授業の方法により修得する単位数は、60 単位を超えないものとする。

第６条　本学学芸学部（リベラルアーツ学科を除く）を卒業するためには、必修科目の単位を含み、最低次の単位を修得しなければならない。

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
32 単位以上	62 単位以上	124 単位以上

２　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて 30 単位を超えない範囲で、学士課程基幹教育科目の単位として計算する。

（１）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別に定める授業科目

（２）　教職に関する科目

（３）　学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目

（４）　日本語教育に関する科目

３　次表に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の授業科目について修得した単位については、第２項にかかわらず、第１項に定める「所属学科専攻科目」の単位とみなす。

所属学科	他学部他学科等の専攻科目（開設学科）
ライフプランニング学科	被服構成学実習　（学芸学部化粧ファッション学科） 調理学実習　（健康栄養学部健康栄養学科）
化粧ファッション学科	調理学実習　（健康栄養学部健康栄養学科）

べき年数の２倍に相当する年数を超えないものとする。

２　１年間の授業を行なう期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

３　各授業科目の授業は、15 週にわたる期間を単位として行なうものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、この期間より短い特定の期間において授業を行なうことができる。

第５条　授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとする。ただし、実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲をもって 1 単位とする。

２ 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第５条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

第６条　本学学芸学部を卒業するためには、必修科目の単位を含み、最低次の単位を修得しなければならない。

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
32 単位以上	62 単位以上	124 単位以上

２　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて 30 単位を超えない範囲で、学士課程基幹教育科目の単位として計算する。

（１）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別に定める授業科目

（２）　教職に関する科目

（３）　学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目

（４）　日本語教育に関する科目

３　次表に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の授業科目について修得した単位については、第２項にかかわらず、第１項に定める「所属学科専攻科目」の単位とみなす。

所属学科	他学部他学科等の専攻科目（開設学科）
ライフプランニング学科	被服構成学実習　（学芸学部化粧ファッション学科） 調理学実習　（健康栄養学部健康栄養学科）
化粧ファッション学科	調理学実習　（健康栄養学部健康栄養学科）

4　ライフプランニング学科、化粧ファッション学科の学生で中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望するものは、所属学科の区分に従い前項に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の科目の単位を修得しなければならない。

5　3年次に進級するためには、2年次末において卒業要件にかかる科目の単位を49単位以上修得し、かつGPA値が0.5以上でなければならない。

第６条の２　本学学芸学部リベラルアーツ学科を卒業するためには、別表に定める学士課程基幹教育科目、所属学科専攻科目の必修科目の単位を含み、最低124単位を修得しなければならない。

2　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて30単位を超えない範囲で、卒業要件にかかる単位として計算する。

（1）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別に定める授業科目

（2）　教職に関する科目

（3）　学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目

（4）　日本語教育に関する科目

3　3年次に進級するためには、2年次末において卒業要件にかかる科目の単位を49単位以上修得し、かつGPA値が0.5以上でなければならない。

第６条の３　本学児童教育学部を卒業するためには、必修科目の単位を含み、最低次の単位を修得しなければならない。

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
18単位以上	76単位以上	124単位以上

2　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて14単位を超えない範囲で、学士課程基幹教育科目の単位として計算する。

（1）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別に定める授業科目

（2）　学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目

（3）　日本語教育に関する科目

3　3年次に進級するためには、2年次末において卒業要件にかかる科目の単位を49単位以上修得し、かつGPA値が0.5以上でなければならない。

第６条の４　本学健康栄養学部を卒業するためには、必修科目の単位を含み、最低次の単位を修得しなければならない。

（健康栄養学科管理栄養士専攻）

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
18単位以上	72単位以上	124単位以上

（健康栄養学科食物栄養専攻）

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
18単位以上	62単位以上	124単位以上

2　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて30単位を超えない範囲で、学士課程基幹教育科目の単位として計算する。

（1）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別

4　ライフプランニング学科、化粧ファッション学科の学生で中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望するものは、所属学科の区分に従い前項に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の科目の単位を修得しなければならない。

5　3年次に進級するためには、2年次末において卒業要件にかかる科目の単位を49単位以上修得し、かつGPA値が0.5以上でなければならない。

第６条の２　本学児童教育学部を卒業するためには、必修科目の単位を含み、最低次の単位を修得しなければならない。

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
18単位以上	76単位以上	124単位以上

2　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて14単位を超えない範囲で、学士課程基幹教育科目の単位として計算する。

（1）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別に定める授業科目

（2）　学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目

（3）　日本語教育に関する科目

3　3年次に進級するためには、2年次末において卒業要件にかかる科目の単位を49単位以上修得し、かつGPA値が0.5以上でなければならない。

第６条の３　本学健康栄養学部を卒業するためには、必修科目の単位を含み、最低次の単位を修得しなければならない。

（健康栄養学科管理栄養士専攻）

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
18単位以上	72単位以上	124単位以上

（健康栄養学科食物栄養専攻）

学士課程基幹教育科目	所属学科専攻科目	合　　計
18単位以上	62単位以上	124単位以上

2　次の各号に定める授業科目について単位を修得した場合、合わせて30単位を超えない範囲で、学士課程基幹教育科目の単位として計算する。

（1）　所属学科以外の学科(他学部の学科を含む)の専攻科目で、別

に定める授業科目

（2） 教職に関する科目

（3） 学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目

（4） 日本語教育に関する科目

3 次表に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の授業科目について修得した単位については、第2項にかかわらず、第1項に定める「所属学科専攻科目」の単位とみなす。

所属学科	他学部他学科等の専攻科目（開設学
健康栄養学科食物栄養専攻	被服構成学実習 （学芸学部化粧ファッション学科）

4 健康栄養学科食物栄養専攻の学生で中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望するものは、所属学科の区分に従い前項に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の科目の単位を修得しなければならない。

5 3年次に進級するためには、2年次末において卒業要件にかかる科目の単位を49単位以上修得し、かつGPA値が0.5以上でなければならない。

第6条の5 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で、別に定めるところにより本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 教育上有益と認めるときは、次の各号に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることがある。

（1） 短期大学の専攻科における学修

（2） 高等専門学校の専攻科における学修

（3） その他文部科学大臣が別に定める学修

3 前項により与える単位数は、第1項により修得したとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

第6条の6 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、別に定めるところにより入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第2項に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることがある。

3 第1項により修得したものとみなし、又は前項により与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

第6条の7 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修できるようにするため、卒業要件として修得すべき単位数について、1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

2 前項の登録に関する手続等は別に定める。

―――― 略 ――――

に定める授業科目

（2） 教職に関する科目

（3） 学芸員、社会教育主事、司書・司書教諭・学校司書に関する科目

（4） 日本語教育に関する科目

3 次表に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の授業科目について修得した単位については、第2項にかかわらず、第1項に定める「所属学科専攻科目」の単位とみなす。

所属学科	他学部他学科等の専攻科目（開設学
健康栄養学科食物栄養専攻	被服構成学実習 （学芸学部化粧ファッション学科）

4 健康栄養学科食物栄養専攻の学生で中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望するものは、所属学科の区分に従い前項に定める「他学部他学科等の専攻科目」欄記載の科目の単位を修得しなければならない。

5 3年次に進級するためには、2年次末において卒業要件にかかる科目の単位を49単位以上修得し、かつGPA値が0.5以上でなければならない。

第6条の4 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で、別に定めるところにより本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 教育上有益と認めるときは、次の各号に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることがある。

（1） 短期大学の専攻科における学修

（2） 高等専門学校の専攻科における学修

（3） その他文部科学大臣が別に定める学修

3 前項により与える単位数は、第1項により修得したとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

第6条の5 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、別に定めるところにより入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第2項に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることがある。

3 第1項により修得したものとみなし、又は前項により与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

第6条の6 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修できるようにするため、卒業要件として修得すべき単位数について、1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

2 前項の登録に関する手続等は別に定める。

―――― 略 ――――

第５章の３　社会教育主事に関する科目

第 13 条の５　本学に社会教育主事に関する科目を置く。

第 13 条の６　社会教育主事に関する科目を下記の通りとする。

【社会教育主事に関する科目】（数字は単位数）

生涯学習概論Ⅰ	Ａ２	社	
生涯学習概論Ⅱ	Ａ２	社	
生涯学習支援論Ⅰ	Ａ２	社	
生涯学習支援論Ⅱ	Ａ２	社	
社会教育経営論Ⅰ	Ａ２	社	
社会教育経営論Ⅱ	Ａ２	社	
社会教育実習Ａ	Ｃ１	社	
社会教育演習	Ｂ１		中１単位社
社会教育課題研究	Ｂ１		
社会教育実習Ｂ	Ｃ２	社	
女性のライフサイクル	Ａ２		中８単位社
ジェンダーを考える	Ａ２		
情報と社会	Ａ２		
日本の食と文化	Ａ２		
地域課題とボランティア活動	Ａ２		
子育てを考える	Ａ２		
心のしくみ	Ａ２		
心の健康	Ａ２		
現代に生きる女性たち	Ａ２		
現代モード論	Ａ２		
国際社会と平和	Ａ２		
歴史の読み方	Ａ２		
美しい地球を創る	Ａ２		
博物館概論	Ａ２		
博物館情報・メディア論	Ａ２		
図書館概論	Ａ２		
図書館サービス概論	Ａ２		
児童サービス論	Ａ２		
日本文化論	Ａ２		
教育原理Ａ	Ａ２		
教育心理学	Ａ２		
同和教育の研究	Ａ２		
日本語学概論	Ａ２		
著作権概説	Ａ２		
日本語学	Ａ２		
学習・言語心理学	Ａ２		
教育・学校心理学	Ａ２		
発達心理学	Ａ２		
現代社会論	Ａ２		
現代女性論	Ａ２		
服飾文化論	Ａ２		
教育原理	Ａ２		

第５章の３　社会教育主事に関する科目

第 13 条の５　本学に社会教育主事に関する科目を置く。

第 13 条の６　社会教育主事に関する科目を下記の通りとする。

【社会教育主事に関する科目】（数字は単位数）

生涯学習概論Ⅰ	Ａ２	社	
生涯学習概論Ⅱ	Ａ２	社	
生涯学習支援論Ⅰ	Ａ２	社	
生涯学習支援論Ⅱ	Ａ２	社	
社会教育経営論Ⅰ	Ａ２	社	
社会教育経営論Ⅱ	Ａ２	社	
社会教育実習Ａ	Ｃ１	社	
社会教育演習	Ｂ１		中１単位社
社会教育課題研究	Ｂ１		
社会教育実習Ｂ	Ｃ２	社	
女性のライフサイクル	Ａ２		中８単位社
ジェンダーを考える	Ａ２		
情報と社会	Ａ２		
日本の食と文化	Ａ２		
地域課題とボランティア活動	Ａ２		
子育てを考える	Ａ２		
グローバル化する社会	Ａ２		
心のしくみ	Ａ２		
心の健康	Ａ２		
対人関係の心理学	Ａ２		
現代に生きる女性たち	Ａ２		
現代モード論	Ａ２		
国際社会と平和	Ａ２		
歴史の読み方	Ａ２		
美しい地球を創る	Ａ２		
博物館概論	Ａ２		
博物館情報・メディア論	Ａ２		
図書館概論	Ａ２		
図書館サービス概論	Ａ２		
児童サービス論	Ａ２		
日本文化論	Ａ２		
教育原理Ａ	Ａ２		
教育心理学	Ａ２		
同和教育の研究	Ａ２		
日本語学概論	Ａ２		
著作権概説	Ａ２		
日本語学	Ａ２		
学習・言語心理学	Ａ２		
教育・学校心理学	Ａ２		
発達心理学	Ａ２		
現代社会論	Ａ２		
現代女性論	Ａ２		
服飾文化論	Ａ２		
教育原理	Ａ２		

人権・同和教育の研究　　Ａ２ **第 13 条の７**　社会教育主事となる資格を取得するためには、本学を卒業し、かつ社会教育法・社会教育主事講習等規程の定めるところに従い、社会教育主事に関する科目の単位を修得しなければならない。 ２　前項の科目の単位を修得した者は、社会教育士（養成課程）と称することができる。 ――――― 略 ――――― **第７章　日本語教育に関する科目** **第 16 条の２**　本学に日本語教育に関する科目を置く。 **第 16 条の３**　日本語教育に関する科目を下記の通りとする。 【日本語教育に関する科目】（数字は単位数） （言語） 日本語学　Ａ２　日 日本語文法　Ａ２　日 日本語音声学　Ａ２ 日本語の歴史　Ａ２ 日本語学史　Ａ２ 言語学概論　Ａ２ 言語とコミュニケーション　Ａ２ 言語の歴史と類型　Ａ２　中４単位日 中国語Ⅰ　Ｂ１ 中国語Ⅱ　Ｂ１ 韓国・朝鮮語Ⅰ　Ｂ１ 韓国・朝鮮語Ⅱ　Ｂ１ 新聞で学ぶ日本語Ａ　Ｂ１ 新聞で学ぶ日本語Ｂ　Ｂ１ 生活の中の日本語Ａ　Ｂ１ 生活の中の日本語Ｂ　Ｂ１　中１単位日 （言語と社会） 地球と社会の歩き方　Ａ２ 社会言語学　Ａ２ 日本文化論　Ａ２ アジアの言語・文化を知る　Ｂ１　中４単位日 （言語と心理） 児童心理学　Ａ２ 子どもの心理と教育　Ａ２ 教育心理学　Ａ２ 教育・学校心理学　Ａ２ 知覚・認知心理学　Ａ２ 異文化理解論　Ａ２ 第二言語習得論　Ａ２　中２単位日 （言語と教育） 日本語教授法　Ａ２　日 日本語教材論　Ａ２ 日本語教育学演習Ａ　Ｂ１	人権・同和教育の研究　　Ａ２ **第 13 条の７**　社会教育主事となる資格を取得するためには、本学を卒業し、かつ社会教育法・社会教育主事講習等規程の定めるところに従い、社会教育主事に関する科目の単位を修得しなければならない。 ２　前項の科目の単位を修得した者は、社会教育士（養成課程）と称することができる。 ――――― 略 ――――― **第７章　日本語教育に関する科目** **第 16 条の２**　本学に日本語教育に関する科目を置く。 **第 16 条の３**　日本語教育に関する科目を下記の通りとする。 【日本語教育に関する科目】（数字は単位数） （言語） 日本語学　Ａ２　日 日本語文法　Ａ２　日 日本語音声学　Ａ２ 日本語の歴史　Ａ２ 日本語学史　Ａ２ 言語学概論　Ａ２ 言語とコミュニケーション　Ａ２ 言語の歴史と類型　Ａ２　中４単位日 中国語 101　Ｂ１ 中国語 102　Ｂ１ 韓国・朝鮮語 101　Ｂ１ 韓国・朝鮮語 102　Ｂ１ 新聞で学ぶ日本語Ａ　Ｂ１ 新聞で学ぶ日本語Ｂ　Ｂ１ 生活の中の日本語Ａ　Ｂ１ 生活の中の日本語Ｂ　Ｂ１　中１単位日 （言語と社会） 美しく生きるとは　Ａ２ 地球と社会の歩き方　Ａ２ グローバル化する社会　Ａ２ 社会言語学　Ａ２ 日本文化論　Ａ２ アジアの言語・文化を知る　Ｂ１　中４単位日 （言語と心理） 児童心理学　Ａ２ 子どもの心理と教育　Ａ２ 教育心理学　Ａ２ 教育・学校心理学　Ａ２ 知覚・認知心理学　Ａ２ 異文化理解論　Ａ２ 第二言語習得論　Ａ２　中２単位日 （言語と教育） 日本語教授法　Ａ２　日 日本語教材論　Ａ２ 日本語教育学演習Ａ　Ｂ１

日本語教育学演習Ｂ	Ｂ１	中４単位日
情報と社会	Ａ２	
著作権概説	Ａ２	
暮らしとAI・データサイエンス	Ａ２	
年少者のための日本語教育	Ａ２	
日本語教育実習Ａ	Ｃ１	中１単位日
日本語教育実習Ｂ	Ｃ１	
（社会・文化・地域）		
日本語教育学概論	Ａ２	中２単位日
国際関係論	Ａ２	
比較文化学概論	Ａ２	
文学の読み方	Ａ２	
歴史の読み方	Ａ２	
ポップカルチャー論	Ａ２	
地域課題とボランティア活動	Ａ２	

第 16 条の４　日本語教育施設の教員資格を取得するためには、本学を卒業し、かつ別に定めるところに従い、日本語教育に関する科目の単位を修得しなければならない。

―――――― 略 ――――――

第 12 章　教育研究実施組織

第 37 条　本学に学長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員を置く。ただし、教育研究上の組織編成として適切と認められる場合には、准教授、助教又は助手を置かないことができる。

２　前項のほか、副学長、学部長、講師、技術職員その他必要な職員を置くことができる。

３　学長は、校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

４　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

５　学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

６　教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

７　准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

８　助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

９　助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

10　講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

11　本学は、教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編成するものとする。

12　教職員に関する規定は、別にこれを定める

第 38 条　各教育課程上主要と認める授業科目は、原則として基幹教員が担当するものとする。

第 39 条　本学において教育上、学術上又は教育行政上の功績ある者に

日本語教育学演習Ｂ	Ｂ１	中４単位日
情報と社会	Ａ２	
著作権概説	Ａ２	
暮らしとAI・データサイエンス	Ａ２	
年少者のための日本語教育	Ａ２	
日本語教育実習Ａ	Ｃ１	中１単位日
日本語教育実習Ｂ	Ｃ１	
（社会・文化・地域）		
日本語教育学概論	Ａ２	中２単位日
国際関係論	Ａ２	
比較文化学概論	Ａ２	
文学の読み方	Ａ２	
歴史の読み方	Ａ２	
サブカルチャー論	Ａ２	
地域課題とボランティア活動	Ａ２	

第 16 条の４　日本語教育施設の教員資格を取得するためには、本学を卒業し、かつ別に定めるところに従い、日本語教育に関する科目の単位を修得しなければならない。

―――――― 略 ――――――

第 12 章　教職員組織

第 37 条　本学に学長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員を置く。ただし、教育研究上の組織編成として適切と認められる場合には、准教授、助教又は助手を置かないことができる。

２　前項のほか、副学長、学部長、講師、技術職員その他必要な職員を置くことができる。

３　学長は、校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

４　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

５　学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

６　教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

７　准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

８　助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

９　助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

10　講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

11　本学は、教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編成するものとする。

12　教職員に関する規定は、別にこれを定める

第 38 条　授業科目は、原則として専任の教授、准教授が担当するものとする。ただし、専任の講師、助教又は兼担、兼任の教授、准教授、講師又は助教が教授会の承認を経て担任又は分担することがある。

第 39 条　本学において教育上、学術上又は教育行政上の功績ある者に

は、教授会の推薦により名誉教授の称号を与えることがある。名誉教授推薦に関する規定は、別にこれを定める。

第 13 章　会議

第 40 条　本学に教授会を置く。教授会の運営細則は別にこれを定める。

2　教授会は、学長、副学長及び本学の基幹教員をもって組織する。

3　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

（1）　学生の入学、卒業及び課程の修了

（2）　学位の授与

（3）　前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

4　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第 41 条　本学に委員会を置くことができる。

2　各委員会に関する規定は、別にこれを定める。

第 14 章　収容定員

第 42 条　本学の定員は下記の通りとする。

学部	学科	専攻	入学定員（名）	収容定員（名）
学芸学部	リベラルアーツ学科	―	40	160
	国文学科	―	40	160
	国際英語学科	―	30	120
	心理学科	―	60	240
	ライフプランニング学科	―	40	160
	化粧ファッション学科	―	140	560
		計	350	1,400
児童教育学部	児童教育学科	―	50	200
		計	50	200
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	80	320
		食物栄養専攻	20	80
		計	100	400
別科	生活専修	―	50	100
	被服専修	―	50	100
		計	100	200
合　計			600	2,200

第 15 章　附属施設

第 43 条　本学に下記の附属施設を置く。

は、教授会の推薦により名誉教授の称号を与えることがある。名誉教授推薦に関する規定は、別にこれを定める。

第 13 章　会議

第 40 条　本学に教授会を置く。教授会の運営細則は別にこれを定める。

2　教授会は、学長、副学長及び本学の専任の教授、准教授、講師、助教をもって組織する。

3　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

（1）　学生の入学、卒業及び課程の修了

（2）　学位の授与

（3）　前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

4　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第 41 条　本学に委員会を置くことができる。

2　各委員会に関する規定は、別にこれを定める。

第 14 章　収容定員

第 42 条　本学の定員は下記の通りとする。

学部	学科	専攻	入学定員（名）	収容定員（名）
学芸学部				
	国文学科	―	60	240
	国際英語学科	―	40	160
	心理学科	―	80	320
	ライフプランニング学科	―	60	240
	化粧ファッション学科	―	140	560
		計	380	1,520
児童教育学部	児童教育学科	―	120	480
		計	120	480
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	120	480
		食物栄養専攻	40	160
		計	160	640
別科	生活専修	―	50	100
	被服専修	―	50	100
		計	100	200
合　計			760	2,840

第 15 章　付属施設

第 43 条　本学に下記の付属施設を置く。

（1） 図書館
（2） 附属幼稚園
（3） 子ども研究所
（4） 田辺聖子文学館
（5） しょういん子育て絵本館
（6） 樟蔭美科学研究所
（7） 大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻附属カウンセリングセンター（心理臨床相談室）
（8） 大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科人間栄養学専攻附属健康栄養センター（くすのき健康栄養センター）
2 各附属施設の細則は、別に定めるところによる。

略

附 則

1 本学則は昭和 24 年 4 月 1 日から施行する。
2～96 （略）

（1） 図書館
（2） 附属幼稚園
（3） 子ども研究所
（4） 田辺聖子文学館
（5） しょういん子育て絵本館
（6） 樟蔭美科学研究所
（7） 大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻附属カウンセリングセンター（心理臨床相談室）
（8） 大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科人間栄養学専攻附属健康栄養センター（くすのき健康栄養センター）
2 各付属施設の細則は、別に定めるところによる。

略

附 則

1 本学則は昭和 24 年 4 月 1 日から施行する。
2～94 （略）
95 この改正は令和 6 年 4 月 1 日から施行する。
96 本則第 2 条及び第 42 条の規定に係わらず、令和 6 年度から令和 7 年度の大阪樟蔭女子大学の定員は次の通りとする。

令和 6 年度

学部	学科	専攻	入学定員（名）	収容定員（名）
学芸学部	国文学科	—	60	240
	国際英語学科	—	40	160
	心理学科	—	80	320
	ライフプランニング学科	—	60	240
	化粧ファッション学科	—	140	520
	計		380	1,480
児童教育学部	児童教育学科	—	120	580
	計		120	580
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	120	480
		食物栄養専攻	40	160
	計		160	640

令和 7 年度

学部	学科	専攻	入学定員（名）	収容定員（名）
学芸学部	国文学科	—	60	240
	国際英語学科	—	40	160
	心理学科	—	80	320

	ライフプランニング学科	—	60	240
	化粧ファッション学科	—	140	540
	計		380	1,500
児童教育学部	児童教育学科	—	120	530
	計		120	530
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	120	480
		食物栄養専攻	40	160
	計		160	640

97　この改正は令和７年４月１日から施行する。

98　本則第２条及び第 42 条の規定に係わらず、令和７年度から令和９年度の大阪樟蔭女子大学の定員は次の通りとする。

令和７年度

学部	学科	専攻	入学定員（名）	収容定員（名）
学芸学部	リベラルアーツ学科	—	40	40
	国文学科	—	40	220
	国際英語学科	—	30	150
	心理学科	—	60	300
	ライフプランニング学科	—	40	220
	化粧ファッション学科	—	140	540
	計		350	1,470
児童教育学部	児童教育学科	—	50	460
	計		50	460
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	80	440
		食物栄養専攻	20	140
	計		100	580

令和８年度

学部	学科	専攻	入学定員（名）	収容定員（名）
学芸学部	リベラルアーツ学科	—	40	80
	国文学科	—	40	200
	国際英語学科	—	30	140
	心理学科	—	60	280
	ライフプランニ	—	40	200

	ング学科			
	化粧ファッション学科	―	140	560
	計		350	1,460
児童教育学部	児童教育学科	―	50	340
	計		50	340
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	80	400
		食物栄養専攻	20	120
	計		100	520

令和9年度

学部	学　科	専　攻	入学定員（名）	収容定員（名）
学芸学部	リベラルアーツ学科	―	40	120
	国文学科	―	40	180
	国際英語学科	―	30	130
	心理学科	―	60	260
	ライフプランニング学科	―	40	180
	化粧ファッション学科	―	140	560
	計		350	1,430
児童教育学部	児童教育学科	―	50	270
	計		50	270
健康栄養学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	80	360
		食物栄養専攻	20	100
	計		100	460

改 正 案（令和7年度）

学芸学部【学士課程基幹教育科目】

別表(2)第3条関係

		授業科目名	授業方法 単位数	選択必修区分	配当学年
樟蔭基礎科目	樟蔭への誘い	樟蔭の窓	A 1	必	1
	これからの女性	女性のライフサイクル	A 2	中4単位選必	1～4
		ジェンダーを考える	A 2		1～4
		現代に生きる女性たち	A 2		1～4
	豊かな情操	笑いは人をつなぐ	A 2		2～4
		感性の技法	A 2		2～4
		うつくしいという体験を考える	A 2		2～4
言語科目	コミュニケーション（日本語リテラシー）	アカデミック・スキルズA	B 1	必	1
		アカデミック・スキルズB	B 1	必	1
		新聞で学ぶ日本語A	B 1		1～4
		新聞で学ぶ日本語B	B 1		1～4
		生活の中の日本語A	B 1		2～4
		生活の中の日本語B	B 1		2～4
		論理トレーニング	B 1		1～4
		言語とコミュニケーション	A 2		2～4
	コミュニケーション（外国語）	Communicative English 1r	B 1	注① 注③ （教）	1～4
		Communicative English 1o	B 1	注① 注③ （教）	1～4
		Communicative English 2y	B 1	注① （教）	1～4
		Communicative English 2g	B 1	注① （教）	1～4
		Communicative English 3b	B 1	注④ （教）	1～4
		Communicative English 3v	B 1	注④ （教）	1～4
		Basic English bk	B 1		1～4
		Basic English w	B 1		1～4
		Basic English 1r	B 1	注① 注③	1～4
		Basic English 1o	B 1	注① 注③	1～4
		Basic English 2y	B 1	注①	1～4
		Basic English 2g	B 1	注①	1～4
		Basic English 3b	B 1	注④	1～4
		Basic English 3v	B 1	注④	1～4
		資格の英語A	B 1	中4単位選必（国際英語学科及び化粧ファッション学科美容コースを除く）	1～4
		資格の英語B	B 1		1～4
		旅行の英語	B 1		1～4
		留学の英語	B 1		2～4
		接客英会話	B 1		1～4
		ニュースの英語	B 1		2～4
		Conversation and Fluency A	B 1		3・4
		Conversation and Fluency B	B 1		3・4
		アジアの言語・文化を知る	B 1		2～4
		海外外国語演習A	B 2		1～4
		海外外国語演習B	B 2		1～4
		海外外国語演習C	B 2		1～4
		異文化演習	B 1		1～4
		中国語Ⅰ	B 1	注②	1～4
		中国語Ⅱ	B 1	注②	1～4
		中国語Ⅲ	B 1	注②	2～4
		中国語Ⅳ	B 1	注②	2～4
		韓国・朝鮮語Ⅰ	B 1	注②	1～4
		韓国・朝鮮語Ⅱ	B 1	注②	1～4
		韓国・朝鮮語Ⅲ	B 1	注②	2～4
		韓国・朝鮮語Ⅳ	B 1	注②	2～4
		ドイツ語Ⅰ	B 1	注②	1～4
		ドイツ語Ⅱ	B 1	注②	1～4
		フランス語Ⅰ	B 1	注②	1～4
		フランス語Ⅱ	B 1	注②	1～4
		スペイン語Ⅰ	B 1	注②	1～4
		スペイン語Ⅱ	B 1	注②	1～4
数理情報科目	情報リテラシー	情報と社会	A 2	必	1
		情報処理基礎A	C 1	必 教	1
		情報処理基礎B	C 1	必 教	1
		暮らしとAI・データサイエンス	A 2	注⑤	2～4
		AI・データサイエンス（データと社会）	A 2	中2単位選必（リベラルアーツ学科を除く）	2～4
		AI・データサイエンス（データ分析）	A 2		2～4
		数学でわかるAIのエッセンス	A 2		1～4

現 行（令和6年度）

学芸学部【学士課程基幹教育科目】

別表(2)第3条関係

		授業科目名	授業方法 単位数	選択必修区分	配当学年
樟蔭コア科目	学びのファーストステップ	アカデミック・スキルズA	B1	必	1
		アカデミック・スキルズB	B1	必	1
	樟蔭スピリット	樟蔭の窓	A2	必	1
	これからの女性	女性のライフサイクル	A2		1～4
		ジェンダーを考える	A2		1～4
	豊かな情操	笑いは人をつなぐ	A2		2～4
		表現するからだ、考えるからだ	A2		2～4
言語・情報科目	コミュニケーション（外国語）	Communicative English 101	B1	（教）注① 注③	1～4
		Communicative English 102	B1	（教）注① 注③	1～4
		Communicative English 201	B1	（教）注①	1～4
		Communicative English 202	B1	（教）注①	1～4
		Communicative English 301	B1	（教）	1～4
		Communicative English 302	B1	（教）	1～4
		Basic English 001	B1		1～4
		Basic English 002	B1		1～4
		Basic English 101	B1	注① 注③	1～4
		Basic English 102	B1	注① 注③	1～4
		Basic English 201	B1	注①	1～4
		Basic English 202	B1	注①	1～4
		Basic English 301	B1		1～4
		Basic English 302	B1		1～4
		資格の英語A	B1		1～4
		資格の英語B	B1		1～4
		資格の英語C	B1		1～4
		資格の英語D	B1	中4単位選必（国際英語学科及び化粧ファッション学科美容コースを除く）	2～4
		旅行の英語	B1		1～4
		留学の英語	B1		2～4
		接客英会話	B1		1～4
		ニュースの英語	B1		2～4
		創作の英語	B1		2～4
		英語プレゼンテーション	B1		2～4
		Conversation and Fluency A	B1		3・4
		Conversation and Fluency B	B1		3・4
		アジアの言語・文化を知る	B1		2～4
		海外外国語演習A	B2		1～4
		海外外国語演習B	B2		1～4
		海外外国語演習C	B1		1～4
		異文化演習	B1		1～4
		中国語101	B1	注②	1～4
		中国語102	B1	注②	1～4
		中国語201	B1	注②	2～4
		中国語202	B1	注②	2～4
		韓国・朝鮮語101	B1	注②	1～4
		韓国・朝鮮語102	B1	注②	1～4
		韓国・朝鮮語201	B1	注②	2～4
		韓国・朝鮮語202	B1	注②	2～4
		ドイツ語101	B1	注②	1～4
		ドイツ語102	B1	注②	1～4
		フランス語101	B1	注②	1～4
		フランス語102	B1	注②	1～4
		スペイン語101	B1	注②	1～4
		スペイン語102	B1	注②	1～4
	コミュニケーション（日本語リテラシー）	新聞で学ぶ日本語A	B1		1～4
		新聞で学ぶ日本語B	B1		1～4
		生活の中の日本語A	B1		2～4
		生活の中の日本語B	B1		2～4
		論理トレーニング	B1		1～4
		トータルプレゼンテーション	B1		2～4
	コミュニケーション（日本語のしくみ）	言語とコミュニケーション	A2		2～4
	情報リテラシー	情報処理基礎A	C1	必教	1
		情報処理基礎B	C1	必教	1
		情報と社会	A2	必	1
		暮らしとAI・データサイエンス	A2		2～4
		大学生のための数学	A2		2～4
主題別科目	①生活者・消費者・市民として生る	日常生活と法	A2		1～4
		日本国憲法	A2	教	1～4
		日常生活と科学	A2		1～4
		家計・消費と経済	A2		1～4
		日本の食と文化	A2		1～4
		著作権概説	A2		2～4
		現代社会と生活者の視点	A2		1～4
		地域課題とボランティア活動	A2		1～4
		子育てを考える	A2		1～4
		マナーとホスピタリティ	A2		1～4
		多様性社会を生きるとは	A2		2～4
		リスク社会に生きる	A2		2～4

樟蔭教養科目	自然の理解	数学とは何か	A 2	注⑥	1～4
		物理で考える暮らし	A 2	注⑥	1～4
		化学で考える暮らし	A 2	注⑥	1～4
		宇宙へ拡がる私たちの世界	A 2	注⑥	1～4
		健康の科学	A 2	注⑥	1～4
		ライフステージと栄養	A 2	注⑥	1～4
		生命の成り立ち	A 2	注⑥	1～4
		美しい地球を創る	A 2	注⑥	2～4
	人文の探求	私たちはどう生きるか	A 2	注⑦	1～4
		文学の読み方	A 2	注⑦	1～4
		歴史の読み方	A 2	注⑦	1～4
		自己の探求	A 2	注⑦	1～4
		心のしくみ	A 2	注⑦	1～4
		心の健康	A 2	注⑦	1～4
		宗教と現代	A 2	注⑦	1～4
		ポップカルチャー論	A 2	注⑦	1～4
		表現するからだ、考えるからだ	A 2	注⑦	2～4
	社会への視点	日本国憲法	A 2	注⑧ 教	1～4
		日常生活と法	A 2	注⑧	1～4
		家計・消費と経済	A 2	注⑧	1～4
		現代社会と生活者の視点	A 2	注⑧	1～4
		子育てを考える	A 2	注⑧	1～4
		地域課題とボランティア活動	A 2	注⑧	1～4
		地球と社会の歩き方	A 2	注⑧	2～4
		国際社会と平和	A 2	注⑧	2～4
		多様性社会を生きるとは	A 2	注⑧	2～4
	体験の方法	和の伝統芸道	D 1		1～4
		レクリエーションと健康	D 2		2～4
		運動と健康A	D 1	教	1～4
		運動と健康B	D 1	教	1～4
キャリア系科目		キャリア設計	B 1		1・2
		キャリア開発	B 1		2
		キャリア研究	A 2		3
		キャリア実習A	C 2		2
		キャリア実習B	C 2		3
		キャリア実習C	C 2		4

（教）：教職課程2単位選択必修
注①：国際英語学科のみ必修
注②：国際英語学科のみ2単位選択必修
注③：化粧ファッション学科 美容コースのみ必修
注④：リベラルアーツ学科のみ2単位選択必修。それを含む4単位を
コミュニケーション（外国語）から修得すること。
ただし英検2級以上を保持している者は、任意の4単位を必修とする。
注⑤：リベラルアーツ学科のみ必修
注⑥：リベラルアーツ学科のみ4単位選択必修
注⑦：リベラルアーツ学科のみ4単位選択必修
注⑧：リベラルアーツ学科のみ4単位選択必修

	き	グローバル化する社会	A2		2～4
	②心と体の健康を考える	生命の成り立ち	A2		1～4
		心のしくみ	A2		1～4
		ライフステージと栄養	A2		1～4
		自己の探求	A2		1～4
		心の健康	A2		1～4
		運動と健康A	D1	教	1～4
		運動と健康B	D1	教	1～4
		健康の科学	A2		1～4
		対人関係の心理学	A2		1～4
		レクリエーションと健康	D2		2～4
	③今を考える・未来を生きる	文学の読み方	A2		1～4
		現代に生きる女性たち	A2		1～4
		サブカルチャー論	A2		1～4
		国際教養入門	A2		1～4
		日本文化論	A2		1～4
		現代モード論	A2		1～4
		化粧学概論	A2		1～4
		美しく生きるとは	A2		2～4
		国際社会と平和	A2		2～4
		歴史の読み方	A2		1～4
		宗教と現代	A2		1～4
		美しい地球を創る	A2		2～4
		地球と社会の歩き方	A2		2～4
統合的学習経験		総合ゼミナールA	B1		4
		総合ゼミナールB	B1		4
キャリア系科目		キャリア設計	B1		1・2
		キャリア開発	B1		2
		キャリア研究	A2		3
		キャリア実習A	C2		2
		キャリア実習B	C2		3
		キャリア実習C	C2		4

（教）：教職課程2単位選択必修
注①：国際英語学科のみ必修
注②：国際英語学科のみ2単位選択必修
注③：化粧ファッション学科 美容コースのみ必修

改正案（令和7年度）

児童教育学部【学士課程基幹教育科目】

		授業科目名	授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
樟蔭基礎科目	樟蔭への誘い	樟蔭の窓	A 1	必	1
	これからの女性	女性のライフサイクル	A 2	選必 中4単位	1～4
		ジェンダーを考える	A 2		1～4
		現代に生きる女性たち	A 2		1～4
	豊かな情操	笑いは人をつなぐ	A 2		2～4
		感性の技法	A 2		2～4
		うつくしいという体験を考える	A 2		2～4
言語科目	コミュニケーション（日本語リテラシー）	アカデミック・スキルズA	B 1	必	1
		アカデミック・スキルズB	B 1	必	1
		新聞で学ぶ日本語A	B 1		1～4
		新聞で学ぶ日本語B	B 1		1～4
		生活の中の日本語A	B 1		2～4
		生活の中の日本語B	B 1		2～4
		論理トレーニング	B 1		1～4
		言語とコミュニケーション	A 2		2～4
	コミュニケーション（外国語）	Communicative English 1r	B 1	中必保幼小 中2単位	1～4
		Communicative English 1o	B 1		1～4
		Communicative English 2v	B 1		1～4
		Communicative English 2g	B 1		1～4
		Communicative English 3b	B 1		1～4
		Communicative English 3v	B 1		1～4
		Basic English bk	B 1	中2単位選必	1～4
		Basic English w	B 1		1～4
		Basic English 1r	B 1		1～4
		Basic English 1o	B 1		1～4
		Basic English 2y	B 1		1～4
		Basic English 2g	B 1		1～4
		Basic English 3b	B 1		1～4
		Basic English 3v	B 1		1～4
		資格の英語A	B 1		1～4
		資格の英語B	B 1		1～4
		旅行の英語	B 1		1～4
		留学の英語	B 1		2～4
		接客英会話	B 1		1～4
		ニュースの英語	B 1		2～4
		Conversation and Fluency A	B 1		3・4
		Conversation and Fluency B	B 1		3・4
		アジアの言語・文化を知る	B 1		2～4
		海外外国語演習A	B 2		1～4
		海外外国語演習B	B 2		1～4
		海外外国語演習C	B 2		1～4
		異文化演習	B 1		1～4
		中国語Ⅰ	B 1		1～4
		中国語Ⅱ	B 1		1～4
		中国語Ⅲ	B 1		2～4
		中国語Ⅳ	B 1		2～4
		韓国・朝鮮語Ⅰ	B 1		1～4
		韓国・朝鮮語Ⅱ	B 1		1～4
		韓国・朝鮮語Ⅲ	B 1		2～4
		韓国・朝鮮語Ⅳ	B 1		2～4
		ドイツ語Ⅰ	B 1		1～4
		ドイツ語Ⅱ	B 1		1～4
		フランス語Ⅰ	B 1		1～4
		フランス語Ⅱ	B 1		1～4
		スペイン語Ⅰ	B 1		1～4
		スペイン語Ⅱ	B 1		1～4
数理情報科目	情報リテラシー	情報と社会	A 2	必保	1
		情報処理基礎A	C 1	必保幼小中	1
		情報処理基礎B	C 1	必保幼小中	1
		暮らしとAI・データサイエンス	A 2	選必 中2単位	2～4
		AI・データサイエンス（データと社会）	A 2		2～4
		AI・データサイエンス（データ分析）	A 2		2～4
		数学でわかるAIのエッセンス	A 2		1～4

現行（令和6年度）

児童教育学部【学士課程基幹教育科目】

		授業科目名	授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
樟蔭コア科目	学びのファーストステップ	アカデミック・スキルズA	B1	必	1
		アカデミック・スキルズB	B1	必	1
	樟蔭スピリット	樟蔭の窓	A2	必	1
	これからの女性	女性のライフサイクル	A2		1～4
		ジェンダーを考える	A2		1～4
	豊かな情操	笑いは人をつなぐ	A2		2～4
		表現するからだ、考えるからだ	A2		2～4
言語・情報科目	コミュニケーション（外国語）	Communicative English 101	B1	中2単位必保幼小中	1～4
		Communicative English 102	B1		1～4
		Communicative English 201	B1		1～4
		Communicative English 202	B1		1～4
		Communicative English 301	B1		1～4
		Communicative English 302	B1		1～4
		Basic English 001	B1	中2単位必	1～4
		Basic English 002	B1		1～4
		Basic English 101	B1		1～4
		Basic English 102	B1		1～4
		Basic English 201	B1		1～4
		Basic English 202	B1		1～4
		Basic English 301	B1		1～4
		Basic English 302	B1		1～4
		資格の英語A	B1		1～4
		資格の英語B	B1		1～4
		資格の英語C	B1		1～4
		資格の英語D	B1		2～4
		旅行の英語	B1		1～4
		留学の英語	B1		2～4
		接客英会話	B1		1～4
		ニュースの英語	B1		2～4
		創作の英語	B1		2～4
		英語プレゼンテーション	B1		2～4
		Conversation and Fluency A	B1		3・4
		Conversation and Fluency B	B1		3・4
		アジアの言語・文化を知る	B1		2～4
		海外外国語演習A	B2		1～4
		海外外国語演習B	B2		1～4
		海外外国語演習C	B1		1～4
		異文化演習	B1		1～4
		中国語101	B1		1～4
		中国語102	B1		1～4
		中国語201	B1		2～4
		中国語202	B1		2～4
		韓国・朝鮮語101	B1		1～4
		韓国・朝鮮語102	B1		1～4
		韓国・朝鮮語201	B1		2～4
		韓国・朝鮮語202	B1		2～4
		ドイツ語101	B1		1～4
		ドイツ語102	B1		1～4
		フランス語101	B1		1～4
		フランス語102	B1		1～4
		スペイン語101	B1		1～4
		スペイン語102	B1		1～4
	コミュニケーション（日本語リテラシー）	新聞で学ぶ日本語A	B1		1～4
		新聞で学ぶ日本語B	B1		1～4
		生活の中の日本語A	B1		2～4
		生活の中の日本語B	B1		2～4
		論理トレーニング	B1		1～4
		トータルプレゼンテーション	B1		2～4
	コミュニケーション（日本語のしくみ）	言語とコミュニケーション	A2		2～4
	情報リテラシー	情報処理基礎A	C1	必保幼小中	1
		情報処理基礎B	C1	必保幼小中	1
		情報と社会	A2	必保	1
		暮らしとAI・データサイエンス	A2		2～4
		大学生のための数学	A2		2～4
主題別科目	生活者・消費者・市民として生る ①生活者・消費者・市民として生	日常生活と法	A2		1～4
		日本国憲法	A2	保幼小中	1～4
		日常生活と科学	A2		1～4
		家計・消費と経済	A2		1～4
		日本の食と文化	A2		1～4
		著作権概説	A2		2～4
		現代社会と生活者の視点	A2		1～4
		地域課題とボランティア活動	A2		1～4
		子育てを考える	A2		1～4
		マナーとホスピタリティ	A2		1～4
		多様性社会を生きるとは	A2		2～4
		リスク社会に生きる	A2		2～4

						き	グローバル化する社会	A2		2〜4
						②心と体の健康を考える	生命の成り立ち	A2		1〜4
							心のしくみ	A2		1〜4
							ライフステージと栄養	A2		1〜4
							自己の探求	A2		1〜4
							心の健康	A2		1〜4
							運動と健康A	D1	保幼小中	1〜4
							運動と健康B	D1	保幼小中	1〜4
							健康の科学	A2		1〜4
							対人関係の心理学	A2		1〜4
							レクリエーションと健康	D2		2〜4
						③今を考える・未来を生きる	文学の読み方	A2		1〜4
							現代に生きる女性たち	A2		1〜4
							サブカルチャー論	A2		1〜4
							国際教養入門	A2		1〜4
							日本文化論	A2		1〜4
							現代モード論	A2		1〜4
							化粧学概論	A2		1〜4
							美しく生きるとは	A2		2〜4
							国際社会と平和	A2		2〜4
							歴史の読み方	A2		1〜4
							宗教と現代	A2		1〜4
							美しい地球を創る	A2		2〜4
							地球と社会の歩き方	A2		2〜4
						統合的学習経験	総合ゼミナールA	B1		4
							総合ゼミナールB	B1		4
樟蔭教養科目	自然の理解	数学とは何か	A 2		1〜4					
		物理で考える暮らし	A 2		1〜4					
		化学で考える暮らし	A 2		1〜4					
		宇宙へ拡がる私たちの世界	A 2		1〜4					
		健康の科学	A 2		1〜4					
		ライフステージと栄養	A 2		1〜4					
		生命の成り立ち	A 2		1〜4					
		美しい地球を創る	A 2		2〜4					
	人文の探求	私たちはどう生きるか	A 2		1〜4					
		文学の読み方	A 2		1〜4					
		歴史の読み方	A 2		1〜4					
		自己の探求	A 2		1〜4					
		心のしくみ	A 2		1〜4					
		心の健康	A 2		1〜4					
		宗教と現代	A 2		1〜4					
		ポップカルチャー論	A 2		1〜4					
		表現するからだ、考えるからだ	A 2		2〜4					
	社会への視点	日本国憲法	A 2	保幼小中	1〜4					
		日常生活と法	A 2		1〜4					
		家計・消費と経済	A 2		1〜4					
		現代社会と生活者の視点	A 2		1〜4					
		子育てを考える	A 2		1〜4					
		地域課題とボランティア活動	A 2		1〜4					
		地球と社会の歩き方	A 2		2〜4					
		国際社会と平和	A 2		2〜4					
		多様性社会を生きるとは	A 2		2〜4					
	体験の方法	和の伝統芸道	D 1		1〜4					
		レクリエーションと健康	D 2		2〜4					
		運動と健康A	D 1	保幼小中	1〜4					
		運動と健康B	D 1	保幼小中	1〜4					
キャリア系科目		キャリア設計	B 1		1・2	キャリア系科目	キャリア設計	B1		1・2
		キャリア開発	B 1		2		キャリア開発	B1		2
		キャリア研究	A 2		3		キャリア研究	A2		3
		キャリア実習A	C 2		2		キャリア実習A	C2		2
		キャリア実習B	C 2		3		キャリア実習B	C2		3
		キャリア実習C	C 2		4		キャリア実習C	C2		4

改正案（令和7年度）

健康栄養学部【学士課程基幹教育科目】

		授業科目名	授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
樟蔭基礎科目	樟蔭への誘い	樟蔭の窓	A 1	必	1
	これからの女性	女性のライフサイクル	A 2	選必 中4単位	1〜4
		ジェンダーを考える	A 2		1〜4
		現代に生きる女性たち	A 2		1〜4
	豊かな情操	笑いは人をつなぐ	A 2		2〜4
		感性の技法	A 2		2〜4
		うつくしいという体験を考える	A 2		2〜4
言語科目	コミュニケーション（日本語リテラシー）	アカデミック・スキルズA	B 1	必	1
		アカデミック・スキルズB	B 1	必	1
		新聞で学ぶ日本語A	B 1		1〜4
		新聞で学ぶ日本語B	B 1		1〜4
		生活の中の日本語A	B 1		2〜4
		生活の中の日本語B	B 1		2〜4
		論理トレーニング	B 1		1〜4
		言語とコミュニケーション	A 2		2〜4
	コミュニケーション（外国語）	Communicative English 1r	B 1	(教)	1〜4
		Communicative English 1o	B 1	(教)	1〜4
		Communicative English 2y	B 1	(教)	1〜4
		Communicative English 2g	B 1	(教)	1〜4
		Communicative English 3b	B 1	(教)	1〜4
		Communicative English 3v	B 1	(教)	1〜4
		Basic English bk	B 1		1〜4
		Basic English w	B 1		1〜4
		Basic English 1r	B 1		1〜4
		Basic English 1o	B 1		1〜4
		Basic English 2y	B 1		1〜4
		Basic English 2g	B 1		1〜4
		Basic English 3b	B 1		1〜4
		Basic English 3v	B 1		1〜4
		資格の英語A	B 1		1〜4
		資格の英語B	B 1		1〜4
		旅行の英語	B 1		1〜4
		留学の英語	B 1		2〜4
		接客英会話	B 1		1〜4
		ニュースの英語	B 1	中4単位選必	2〜4
		Conversation and Fluency A	B 1		3・4
		Conversation and Fluency B	B 1		3・4
		アジアの言語・文化を知る	B 1		2〜4
		海外外国語演習A	B 2		1〜4
		海外外国語演習B	B 2		1〜4
		海外外国語演習C	B 2		1〜4
		異文化演習	B 1		1〜4
		中国語Ⅰ	B 1		1〜4
		中国語Ⅱ	B 1		1〜4
		中国語Ⅲ	B 1		2〜4
		中国語Ⅳ	B 1		2〜4
		韓国・朝鮮語Ⅰ	B 1		1〜4
		韓国・朝鮮語Ⅱ	B 1		1〜4
		韓国・朝鮮語Ⅲ	B 1		2〜4
		韓国・朝鮮語Ⅳ	B 1		2〜4
		ドイツ語Ⅰ	B 1		1〜4
		ドイツ語Ⅱ	B 1		1〜4
		フランス語Ⅰ	B 1		1〜4
		フランス語Ⅱ	B 1		1〜4
		スペイン語Ⅰ	B 1		1〜4
		スペイン語Ⅱ	B 1		1〜4
数理情報科目	情報リテラシー	情報と社会	A 2	必	1
		情報処理基礎A	C 1	必教フ	1
		情報処理基礎B	C 1	必教	1
		暮らしとAI・データサイエンス	A 2	選必 中2単位	2〜4
		AI・データサイエンス（データと社会）	A 2		2〜4
		AI・データサイエンス（データ分析）	A 2		2〜4
		数学でわかるAIのエッセンス	A 2		1〜4

現行（令和6年度）

健康栄養学部【学士課程基幹教育科目】

		授業科目名	授業方法／単位数	選択必修区分	配当学年
樟蔭コア科目	学びのファーストステップ	アカデミック・スキルズA	B1	必	1
		アカデミック・スキルズB	B1	必	1
	樟蔭スピリット	樟蔭の窓	A2	必	1
	これからの女性	女性のライフサイクル	A2		1〜4
		ジェンダーを考える	A2		1〜4
	豊かな情操	笑いは人をつなぐ	A2		2〜4
		表現するからだ、考えるからだ	A2		2〜4
言語・情報科目	コミュニケーション（外国語）	Communicative English 101	B1	(教)	1〜4
		Communicative English 102	B1	(教)	1〜4
		Communicative English 201	B1	(教)	1〜4
		Communicative English 202	B1	(教)	1〜4
		Communicative English 301	B1	(教)	1〜4
		Communicative English 302	B1	(教)	1〜4
		Basic English 001	B1		1〜4
		Basic English 002	B1		1〜4
		Basic English 101	B1		1〜4
		Basic English 102	B1		1〜4
		Basic English 201	B1		1〜4
		Basic English 202	B1		1〜4
		Basic English 301	B1		1〜4
		Basic English 302	B1		1〜4
		資格の英語A	B1		1〜4
		資格の英語B	B1		1〜4
		資格の英語C	B1		1〜4
		資格の英語D	B1		2〜4
		旅行の英語	B1		1〜4
		留学の英語	B1		2〜4
		接客英会話	B1		1〜4
		ニュースの英語	B1		2〜4
		創作の英語	B1	中4単位必	2〜4
		英語プレゼンテーション	B1		2〜4
		Conversation and Fluency A	B1		3・4
		Conversation and Fluency B	B1		3・4
		アジアの言語・文化を知る	B1		2〜4
		海外外国語演習A	B2		1〜4
		海外外国語演習B	B2		1〜4
		海外外国語演習C	B1		1〜4
		異文化演習	B1		1〜4
		中国語101	B1		1〜4
		中国語102	B1		1〜4
		中国語201	B1		2〜4
		中国語202	B1		2〜4
		韓国・朝鮮語101	B1		1〜4
		韓国・朝鮮語102	B1		1〜4
		韓国・朝鮮語201	B1		2〜4
		韓国・朝鮮語202	B1		2〜4
		ドイツ語101	B1		1〜4
		ドイツ語102	B1		1〜4
		フランス語101	B1		1〜4
		フランス語102	B1		1〜4
		スペイン語101	B1		1〜4
		スペイン語102	B1		1〜4
	コミュニケーション（日本語リテラシー）	新聞で学ぶ日本語A	B1		1〜4
		新聞で学ぶ日本語B	B1		1〜4
		生活の中の日本語A	B1		2〜4
		生活の中の日本語B	B1		2〜4
		論理トレーニング	B1		1〜4
		トータルプレゼンテーション	B1		2〜4
	コミュニケーション（日本語のしくみ）	言語とコミュニケーション	A2		2〜4
	情報リテラシー	情報処理基礎A	C1	必教フ	1
		情報処理基礎B	C1	必教	1
		情報と社会	A2	必	1
		暮らしとAI・データサイエンス	A2		2〜4
		大学生のための数学	A2		2〜4
主題別科目	①生活者・消費者・市民として生る	日常生活と法	A2		1〜4
		日本国憲法	A2	教	1〜4
		日常生活と科学	A2		1〜4
		家計・消費と経済	A2		1〜4
		日本の食と文化	A2		1〜4
		著作権概説	A2		2〜4
		現代社会と生活者の視点	A2		1〜4
		地域課題とボランティア活動	A2		1〜4
		子育てを考える	A2		1〜4
		マナーとホスピタリティ	A2		1〜4
		多様性社会を生きるとは	A2		2〜4
		リスク社会に生きる	A2		2〜4

樟蔭教養科目	自然の理解	数学とは何か	A 2		1〜4
		物理で考える暮らし	A 2		1〜4
		化学で考える暮らし	A 2		1〜4
		宇宙へ拡がる私たちの世界	A 2		1〜4
		健康の科学	A 2		1〜4
		ライフステージと栄養	A 2		1〜4
		生命の成り立ち	A 2		1〜4
		美しい地球を創る	A 2		2〜4
	人文の探求	私たちはどう生きるか	A 2		1〜4
		文学の読み方	A 2		1〜4
		歴史の読み方	A 2		1〜4
		自己の探求	A 2		1〜4
		心のしくみ	A 2		1〜4
		心の健康	A 2		1〜4
		宗教と現代	A 2		1〜4
		ポップカルチャー論	A 2		1〜4
		表現するからだ、考えるからだ	A 2		2〜4
	社会への視点	日本国憲法	A 2	教	1〜4
		日常生活と法	A 2		1〜4
		家計・消費と経済	A 2		1〜4
		現代社会と生活者の視点	A 2		1〜4
		子育てを考える	A 2		1〜4
		地域課題とボランティア活動	A 2		1〜4
		地球と社会の歩き方	A 2		2〜4
		国際社会と平和	A 2		2〜4
		多様性社会を生きるとは	A 2		2〜4
	体験の方法	和の伝統芸道	D 1		1〜4
		レクリエーションと健康	D 2		2〜4
		運動と健康A	D 1	教	1〜4
		運動と健康B	D 1	教	1〜4
キャリア系科目		キャリア設計	B 1		1・2
		キャリア開発	B 1		2
		キャリア研究	A 2		3
		キャリア実習A	C 2		2
		キャリア実習B	C 2		3
		キャリア実習C	C 2		4

（教）：教職課程2単位選択必修

き	グローバル化する社会	A2		2〜4
②心と体の健康を考える	生命の成り立ち	A2		1〜4
	心のしくみ	A2		1〜4
	ライフステージと栄養	A2		1〜4
	自己の探求	A2		1〜4
	心の健康	A2		1〜4
	運動と健康Ａ	D1	教	1〜4
	運動と健康Ｂ	D1	教	1〜4
	健康の科学	A2		1〜4
	対人関係の心理学	A2		1〜4
	レクリエーションと健康	D2		2〜4
③今を考える・未来を生きる	文学の読み方	A2		1〜4
	現代に生きる女性たち	A2		1〜4
	サブカルチャー論	A2		1〜4
	国際教養入門	A2		1〜4
	日本文化論	A2		1〜4
	現代モード論	A2		1〜4
	化粧学概論	A2		1〜4
	美しく生きるとは	A2		2〜4
	国際社会と平和	A2		2〜4
	歴史の読み方	A2		1〜4
	宗教と現代	A2		1〜4
	美しい地球を創る	A2		2〜4
	地球と社会の歩き方	A2		2〜4
統合的学習経験	総合ゼミナールＡ	B1		4
	総合ゼミナールＢ	B1		4
キャリア系科目	キャリア設計	B1		1・2
	キャリア開発	B1		2
	キャリア研究	A2		3
	キャリア実習Ａ	C2		2
	キャリア実習Ｂ	C2		3
	キャリア実習Ｃ	C2		4

（教）：教職課程2単位選択必修

学則の変更の趣旨等を記載した書類

― 目 次 ―

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容 2

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性 2

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容 6

（ア）教育課程の変更内容 6

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容 8

（ウ）教員組織の変更内容 8

（エ）大学全体の施設・設備の変更内容 9

ア. 学則変更(収容定員変更)の内容

2025 年度より、大阪樟蔭女子大学学則第 42 条に定める、学芸学部国文学科、国際英語学科、心理学科、ライフプランニング学科、児童教育学部児童教育学科、健康栄養学部健康栄養学科の定員を次のとおり変更する。

学部	学科	現行		変更後	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
学芸学部	国文学科	60	240	40	160
	国際英語学科	40	160	30	120
	心理学科	80	320	60	240
	ライフプランニング学科	60	240	40	160
児童教育学部	児童教育学科	120	480	50	200
健康栄養学部	健康栄養学科	160	640	100	400
大阪樟蔭女子大学(全体)		660	2,640	500	2,000

イ. 学則変更(収容定員変更)の必要性

大阪樟蔭女子大学を擁する樟蔭学園は，1917 年，当時の社会情勢や教育の実態から，女子教育の門戸を広くし，女性の教養･資質の向上を図るため樟蔭高等女学校を設立し，100 年以上にわたり，時代の変遷の中で求められる社会的な要請の変化に応えつつ，設立以来一貫して，質の高い女子教育を行ってきた。1921 年には高等科を，1925 年には樟蔭女子専門学校を設置し，1949 年には新制大学として設置認可を受けている。

現在の大阪樟蔭女子大学の学部学科構成は以下の通りである。

学芸学部
国文学科，国際英語学科，心理学科，ライフプランニング学科，化粧ファッション学科
児童教育学部
児童教育学科
健康栄養学部
健康栄養学科
管理栄養士専攻，食物栄養専攻
大学院人間科学研究科
臨床心理学専攻，人間栄養学専攻，化粧ファッション学専攻

この学部学科のうち、一学科(化粧ファッション学科)を除き、特に直近 3 ヶ年度は殆どの学科で大幅に入学定員数を下回る入学者数となり、募集回復に向け、広報の在り方や学科構成について検討しており、将来においては小規模学科の統合も視野に入れているが、現状においては早急に入学定員を減じ、適正化を図る必要があると判断した。

収容定員を変更する国文学科、国際英語学科、心理学科、ライフプランニング学科、児童教育学科、健康栄養学科の過去５年間における入学定員超過率は以下のとおりである。

学科	区分	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	平均
国文学科	入学定員	80	60	60	60	60	-
	志願者数	91	141	76	74	70	90
	受験者数	90	133	71	72	69	87
	合格者数	86	124	70	68	67	83
	入学者数	43	61	46	42	44	47
	入学定員超過率	0.54	1.02	0.77	0.70	0.73	0.75
国際英語学科	入学定員	40	40	40	40	40	-
	志願者数	78	140	58	32	18	65
	受験者数	78	138	56	30	18	64
	合格者数	77	112	54	17	18	56
	入学者数	46	55	31	18	8	32
	入学定員超過率	1.15	1.38	0.78	0.45	0.20	0.79
心理学科	入学定員	80	80	80	80	80	-
	志願者数	180	197	133	124	110	149
	受験者数	173	188	125	121	109	143
	合格者数	165	160	118	115	107	133
	入学者数	111	108	82	82	82	93
	入学定員超過率	1.39	1.35	1.03	1.03	1.03	1.16
ライフプランニング学科	入学定員	40	60	60	60	60	-
	志願者数	111	124	79	64	57	87
	受験者数	108	116	75	60	57	83
	合格者数	102	111	73	55	48	78
	入学者数	74	62	58	42	40	55
	入学定員超過率	1.85	1.03	0.97	0.70	0.67	1.04
児童教育学科	入学定員	170	170	170	170	120	-
	志願者数	185	194	129	120	79	141
	受験者数	182	193	126	120	77	140
	合格者数	179	183	126	113	73	135
	入学者数	118	127	92	83	52	94
	入学定員超過率	0.69	0.75	0.54	0.49	0.43	0.58

健康栄養学科管理栄養士専攻	入学定員	120	120	120	120	120	-
	志願者数	286	236	166	183	147	204
	受験者数	281	233	156	179	142	198
	合格者数	230	180	144	151	125	166
	入学者数	118	93	91	89	79	94
	入学定員超過率	0.98	0.78	0.76	0.74	0.66	0.78
健康栄養学科食物栄養専攻	入学定員	40	40	40	40	40	-
	志願者数	56	79	41	66	43	57
	受験者数	55	75	36	61	42	54
	合格者数	50	67	33	54	33	47
	入学者数	33	27	21	25	23	26
	入学定員超過率	0.83	0.68	0.53	0.63	0.58	0.65

学芸学部国文学科は、1949 年の大学開設時に設置され、70 年の長きに渡って、日本の言語・文学に関する幅広い知識を教授することにより、日本文化に対する造詣を深め、豊かな情操を涵養し、言語運用能力を養成し、日本文化を継承・発展させ発信する能力を以って、異文化間の交流を視野に入れつつ、社会で活躍できる人材を育成してきた。

しかし近年の実学・資格志向、医療系人気、学部系統別の文低理高等の影響による、全国的な文学部志願者数の漸減傾向を受け、2013 年頃より国文学科の志願者減が顕著となった。募集回復に向けて、学科のみならず学長主導の下で教育内容の見直し、カリキュラム改革を行った上で、2020 年、当時 80 名だった入学定員を 60 名に引き下げ、それ以降一定平均した需要はあるが、入学定員 60 名を満たすには至っていない。

学芸学部国際英語学科は、1949 年の大学開設時に設置された学芸学部英米文学科を前身とし、当初の英米文学研究に重点を置いたカリキュラム編成から、英米文学を基盤にしつつ、実際の英語運用面にも重点を置いたカリキュラム編成へと徐々に授業内容を移行させてきた。現在の国際英語学科は、2010 年、英米文学科の伝統を生かしつつ内容を発展させ、より明確に英語運用面の充実を前面に打ち出すとともに、国際語としての英語についての研究体制を整え、また英語文化と対比する形での日本文化の国際性を海外へ発信することを新たな柱として、さらに英語運用能力を備えた日本語教員の養成もここで行なうこともふまえて、全体として英語を駆使して国際的な場面で活躍する女性の育成を目指す学科として設置された。国際系学科の競合過多の中で、独自性を打ち出すため、2017 年度からは全員留学を導入し、入学定員を充足するに至ったが、コロナ禍を契機に海外留学の実施ができなくなったことを主要因として、志願者数は激減した。それ以降も募集回復のため、韓国文化・韓国語のプログラムを導入する等、カリキュラム改革を重ねているが、入学定員充足までの回復には至っていない。

学芸学部心理学科は、2001 年に設置された人間科学部心理学科を前身とし、社会における各種の課題解決のために高度な心理学的知識・技術を身につけた人材が必要とされる場面

が一層増加する中、幾度かの改組を行いながら、広範かつ総合的な心理学教育を実現してきた。現在の心理学科は、消費行動や流行現象など、社会のなかで活きる心理学を身につけた人材の育成を目的とした総合心理コース、人の気持ちを理解し、悩みや問題を抱えた人を援助できる人材の育成を目的とした臨床心理コースの2つのコースから構成される。

近年、公認心理師をはじめとして、人の心を学ぶ心理学と関連した資格には注目が集まっており、心理系学科への志願者が全国的に増加する中で、当学科は過去 5 年間入学定員 80 名を満たしてきたが、人気の落ち着きと 18 歳人口の減少により、志願者数は徐々に減少しており、今後入学定員 80 名を維持することは難しいと判断した。

学芸学部ライフプランニング学科は、2007 年当時、学齢人口の減少、高学歴志向の高まり、女子の 4 年制大学への進学率の高まり等、高等教育を取り巻く環境の変化と、女性の社会進出や社会生活の多様化等、社会的な要請の変化へ対応するため、家政学分野と経済学分野を中心的な学問として設置された。以来、「現代に生きる女性がその人生において経験するライフ・イベントに主体的に対処していくために必要な知識と技能を養い、家庭と職場の双方において活躍できるバランス感覚の優れた人材」の育成に努めてきた。

さらに、現代社会における食文化の多様化や、人々の健康志向の高まりの中で、2011 年よりフードスタディコースを設けていた樟蔭高等学校との高大連携の一貫として、2015 年、従来の教育課程を踏襲するライフデザインコースに加え、「日々の暮らしを真の意味で豊かにする食に関する先進的な知識と技能を身につけつつ、食の伝統と文化を理解した上で自らの暮らしに役立て、社会に貢献できる人材の育成」を目的とするフードスタディコースを設けた。

その結果として、ライフプランニング学科の志願者数が増加し、入学定員超過率は過去 5 年間平均で 1.5 倍を超えるようになり、2020 年には入学定員を 40 名から 60 名に増加した。しかし、現在の 18 歳人口の減少、及び内部高校からの入学者減の影響により、志願者数が減少傾向にある。

児童教育学部児童教育学科は、1949 年の大学開設時に学芸学部児童学科として設置され、社会のニーズの変化に対応し幾度かの改組を行いながら、多くの幼稚園教諭、保育士、小学校教諭を輩出してきた。本学科は、従前より幼児期から児童期の連続性を踏まえた教育の重要性の認識のもとに教育課程を編成しており、時代のニーズに合った教育内容をより明確に示すため、2018 年に児童教育学部児童教育学科に改め、さらに昨今の義務教育学校に関する学校教育法改正、教育課程認定基準の改正等を踏まえ、2019 年には中学校教諭の養成課程を設け、入学定員を 150 名から 170 名に増員した。

しかし、教育関係の学科への志願者が全国的に減少していることにあわせて、近年は幼稚園教員や保育士の就業条件の厳しさが社会的に認知されていること等からも、強みであったはずの受験者層が減少している。

健康栄養学部健康栄養学科は、1949 年の大学開設時に学芸学部食物学科として設置され、1955 年に栄養士養成施設として指定された。さらに 2002 年には管理栄養士養成施設の認可を受け、多くの栄養士・管理栄養士を輩出し、地域社会の健康増進に貢献してきた。少子高齢化や疾病構造の変化が進む中で、地域社会における保健・医療・福祉・教育のみならず事業

所や食品関連企業等における多様な問題を解決する幅広い実践力を備えた人材の育成を目的として、2015 年に教員数の増加、カリキュラムの充実を図るとともに全ての実験・実習および研究施設等を新規更新し、現在の健康栄養学部健康栄養学科が設置された。長い歴史と教育実績により、当時は安定した志願者数を獲得し、学内でも随一の偏差値の高さであった。

しかし近年、管理栄養士資格取得には 4 年間の学修において一定厳しさが要求されるにもかかわらず、管理栄養士資格を取得しても社会で活躍できる場面が少ないこと等を要因として、全国的に管理栄養士志向が減少し、当学科の志願者数も減少傾向にあり、入学定員未充足の状況が続いている。

ウ. 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

(ア)教育課程の変更内容

学芸学部国文学科は、初年次に学科専攻基礎科目を必修科目として配置しており、大阪に位置する本学ならではの特徴として、大阪・上方のことば文化を理解する、大阪・上方関連科目を 1～3 年次に設置している。

2 年次からは、「国語・国文学」、「書道」、「創作表現」の 3 コースのうちの一つを選択し、コースのカリキュラムを中心に、日本語・日本文化に関する知識や技術を習得する。2・3 年次においては、基幹科目を履修することにより、自分が選択したコースの内容を習得し、学問的なアプローチの方法について学ぶ。3・4 年次においては、発展科目の履修により、各人の問題意識を持ってこの分野における問題を探究し、日本語・日本文化を自ら表現することを学んだ上で、卒業論文・卒業制作においては、日本語・日本文化の担い手としての自覚を持ち、研究成果や作品を積極的に社会に発信することで、学びの集大成とする。

学芸学部国際英語学科は、1・2 年次に、実践的な英語運用能力を身につけるために CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に準拠した学科独自の基礎スキル科目群を配置し、聞く・話す(やり取り、発表)・読む・書く力の 4 技能の向上を目指す。国際英語学科で学ぶことの意義を理解する学科基礎教養科目を初年次から 2 年次にかけて配置する。

2 年次秋期に協定校への海外中期留学に参加することを必須としており、身につけた英語力を実践し 3・4 年次での学修につなげる。

3・4 年次は、多文化社会に適応できる広い視野と豊かな教養をもった人材を育成するため、(a)「グローバルコミュニケーションコース」、(b)「言語教育実践コース」の 2 コースからいずれかを選択する。(a)では、英語力を活かして幅広く社会で活躍するために必要な科目群を配置し資格取得をめざす。(b)では、言語教育の専門家になるために、「中学校・高等学校教諭1種(英語)」取得に必要な科目をはじめ、英語指導者になるのに必要な科目群の配置、あるいは、外国人に日本語を教える「日本語教員資格」に必要な科目群を配置し資格取得をめざす。

4年次においては、コース別の学びに加えて、4 年間の学習の集大成として演習を中心に卒業論文を執筆する。本学科で身につけた知識・論理的思考力・分析力を、個々の学生の興味関心に応じて深め、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけ、大学での学びを完成させる。

学芸学部心理学科は、初年次においては、「人間の客観的・中立的理解」をめざす心理学の

学問的基礎とそのための方法論的基礎を学ぶ科目を配置する。さらに心理学各分野の個別的内容を学ぶ科目によって、各領域への関心を高める。また心理学における方法論的基礎としての記述統計や、心理学実験に基づくデータ収集およびそれを分析した論文（レポート）作成、心理面接について実習を通して体験的に学ぶ。2 年次は、学科基礎科目を中核として、心理学と精神医学などの関連領域について体系的かつ詳細に学ぶための講義科目、さらに実習科目として、心理検査、調査、実験等を体験的に修得する科目を設定する。

3 年次からは、「総合心理コース」と「臨床心理コース」のいずれかを選択する。いずれのコースにおいても、心理学の知識・方法論・技能を活用・応用して社会に貢献する実践力の修得を可能とする発展科目を配置する。「総合心理コース」では特に人の心の成り立ちや働き、発達などに関する最先端の知識と情報分析の高度な技能、「臨床心理コース」では特に対人関係、心の悩みと援助などに関する最先端の知識とコミュニケーションや心理臨床の高度な技能を修得する。4 年次では、以上の履修内容を統合した学びとして、心理学の学問的立場からの問題設定、問題解決およびプレゼンテーションの能力を養成するため卒業論文を作成する。

学芸学部ライフプランニング学科は、学科専攻基礎科目を初年次から 2 年次にかけて必修科目として配置し、経済・経営、生活科学、社会学の分野で、ビジネス、家計、食、地域社会に関する幅広い学科専攻科目から、自らの興味・関心に応じて計画的、体系的に科目を選択、履修し、主体的、自律的に、ライフ・イベントに対処するための基礎的知識から実践的スキルまでを身につける。

2 年次からは、「ライフデザインコース」と「フードスタディコース」の 2 つのコースからどちらかを選択する。「ライフデザインコース」は家計に関するライフデザイン科目、「フードスタディコース」は食に関するフードスタディ科目を核としながら、家庭経営、ビジネス、地域社会に関する学科総合科目にもまたがって学科専攻科目を履修し、家計や食の分野において、さまざまな活動を適切にマネジメントできる専門的知識と実践につながるスキルを獲得し、それぞれの分野において専門性の高い見識を養う。3 年次には、「ライフデザインコース」においては『ライフデザイン総合研究』、フードスタディコースにおいては『フードスタディ総合研究』を履修し、学外連携を含んだ多様な学修により、ディプロマポリシーに掲げる、実践的スキル、自らの言葉による発信力や社会に貢献できる力を獲得する。3 年次から 4 年次においては、コース別の学びに加えて、演習を中心に卒業論文を執筆し、大学での学びを個々の学生の興味関心にそって深め、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけ、大学での学びを完成させる。

児童教育学部児童教育学科は、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（英語）の養成課程を設けている。1 年次春期に、『児童教育学概論』、『保育原理』、『教育原理』など保育・教育を学ぶにあたっての基礎的科目を配置する。1年次秋期からは、学生の取得希望免許・資格に則して「幼児教育保育コース」、「学校教育コース」に分かれ、それぞれの専門性を身につけるためのコース基礎科目を履修する。各コースで履修する科目は、幼稚園教諭（1 種）、小学校教諭（1 種）、中学校教諭 1 種（英語）、保育士の資格・免許に必要な科目でもあり、1 年次より実習時期にも配慮して適切に配置している。

2 年次からは、各コースの専門基礎となる科目や実技系の科目、3 年次では、各コースでさらに専門的な科目を配置する。4 年次では 4 年間の集大成としてゼミナールの中でそれぞれの

テーマに合わせて卒業論文の作成・卒業制作を行う。

健康栄養学部健康栄養学科は、栄養ケア・マネジメントに関する教育研究を通して、栄養ケア・マネジメントの基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、基本的な栄養管理に関する実践能力を有した管理栄養士の育成を行うことにより、地域社会の保健・医療・福祉サービスの発展と向上に寄与することを目的とした管理栄養士専攻と、食品、調理、栄養などの「食」に関する教育研究を通して、人々の健康な暮らしを支える専門知識と技術の確実な習得のもとに、食に関するさまざまな分野で活躍する人材の育成を行うことにより、地域社会の健康の保持・増進に寄与することを目的とした食物栄養専攻を設置している。

管理栄養士専攻は、管理栄養士にこれから必要とされる知識、技術を広く学術的知見に基づいて修得するため、本学科専門基礎科目として専門基礎分野関連科目（社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康）、専門分野関連科目（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論、臨地実習、総合演習）、卒業論文関連科目を配置する。4 年次において、複数回の到達度試験を受験し、管理栄養士に求められる高度な専門知識の理解度を客観的な基準に基づく厳格な評価を受け管理栄養士国家試験受験資格取得をめざす。

食物栄養専攻は、栄養士にこれから必要とされる知識、技術を広く学術的知見に基づいて修得するため、健康栄養学科専門分野関連科目（社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営）を配置する。4 年次には、修得した知識や技術を統合し、課題を的確に捉え、他者との協働によって適切に対応できる行動力を育成するために卒業研究を遂行し卒業論文を執筆する。

今回の学則変更（収容定員変更）は、いずれの学科も教育課程の変更を伴うものではないため、教育内容や学生の授業科目履修は 2025 年度以降も計画通り実施する。

ただし今後も、これまでの教育研究指導における経験やノウハウを活かしながら、時代の変化と社会の要請に対応し、教育内容のさらなる充実を図る予定である。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

今回の学則変更（収容定員変更）において、教育課程に変更がないことから、教育方法及び履修指導方法についても変更はなく、今後も学生の進路希望が叶うよう、学科教員が指導・助言を行うアドバイザー制度をより充実徹底し、入学当初から個々の学生の将来の進路希望に応じた丁寧な指導を行う。

（ウ）教員組織の変更内容

学芸学部国文学科の専任教員数は現行 10 名（教授 6 名、准教授 3 名、助教 1 名。2024 年 4 月時点）であり、大学設置基準第十条別表第一で定められた教員数 6 名を十分に満たしている。収容定員変更後（完成年度）は、基幹教員制度に対応したとき、定年退職、新設学科への異動、昇任人事等を踏まえて 7 名（教授 4 名、准教授 3 名）となる予定であり、収容定員変更後の大学設置基準数 5 名を満たしている。ST 比（収容定員数／教員数）は、24.0 から

22.9 になり、従来と同等もしくはそれ以上の質の高い教育水準を維持できると考える。

学芸学部国際英語学科の専任教員数は現行 9 名（教授 3 名、准教授 4 名、講師 2 名。2024 年 4 月時点）であり、大学設置基準第十条別表第一で定められた教員数 5 名を十分に満たしている。収容定員変更後（完成年度）は、基幹教員数は昇任人事等を踏まえて 9 名（教授 3 名、准教授 6 名）となる予定であり、大学設置基準数 5 名を満たしている。ST 比（収容定員数／教員数）は、17.8 から 13.3 になり、従来と同等もしくはそれ以上の質の高い教育水準を維持できると考える。

学芸学部心理学科の専任教員数は現行 11 名（教授 8 名、准教授 3 名。2024 年 4 月時点）であり、大学設置基準第十条別表第一で定められた教員数 6 名を十分に満たしている。収容定員変更後（完成年度）は、基幹教員数は新設学科への異動を踏まえて 9 名（教授 6 名、准教授 3 名）となる予定であり、大学設置基準数 6 名を満たしている。ST 比（収容定員数／教員数）は、29.1 から 26.7 になり、従来と同等もしくはそれ以上の質の高い教育水準を維持できると考える。

学芸学部ライフプランニング学科の専任教員数は現行 12 名（教授 5 名、准教授 6 名、講師 1 名。2024 年 4 月時点）であり、大学設置基準第十条別表第一で定められた教員数 7 名を十分に満たしている。収容定員変更後（完成年度）は、基幹教員数は新設学科への異動、採用計画等を踏まえて 11 名（教授 4 名、准教授 7 名）となる予定であり、大学設置基準数 7 名を満たしている。ST 比（収容定員数／教員数）は、20 から 14.5 になり、従来と同等もしくはそれ以上の質の高い教育水準を維持できると考える。

児童教育学部児童教育学科の専任教員数は現行 21 名（教授 9 名、准教授 7 名、講師 5 名。2024 年 4 月時点）であり、大学設置基準第十条別表第一で定められた教員数 12 名を十分に満たしている。収容定員変更後（完成年度）は、定年退職、新設学科への異動、昇任人事等を踏まえて 19 名（教授 9 名、准教授 7 名、講師 3 名）となる予定であり、収容定員変更後の大学設置基準数 10 名を満たしている。ST 比（収容定員数／教員数）は、26.3 から 10.5 になり、従来以上の質の高い教育水準を維持できると考える。

健康栄養学部健康栄養学科の専任教員数は現行 16 名（教授 6 名、准教授 7 名、講師 3 名。2024 年 4 月時点）であり、大学設置基準第十条別表第一で定められた教員数 12 名を十分に満たしている。収容定員変更後（完成年度）は、採用計画、昇任人事等を踏まえて 16 名（教授 7 名、准教授 8 名、講師 1 名）となる予定であり、収容定員変更後の大学設置基準数 10 名を満たしている。ST 比（収容定員数／教員数）は、40 から 25 になり、従来以上の質の高い教育水準を維持できると考える。

（エ）大学全体の施設・設備の変更内容

今回の学則変更（収容定員変更）により、大学設置基準第三十七条の二で定められた校舎の必要面積は 19,570 ㎡から 17,190 ㎡となり、現行の本学の校舎面積は 44,351.87 ㎡であるため基準は十分に満たしており、大学全体で共用する普通教室、演習室、体育館等については、教育研究を行うのに十分であると考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類

［目次］

(1)　収容定員を変更する組織の概要.....2

①　収容定員を変更する組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）.....2

②　収容定員を変更する組織の特色.....2

(2)　人材需要の社会的な動向等.....5

①　収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析.....5

②　中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析.....6

③　収容定員を変更する組織の主な学生募集地域.....11

④　既設組織の定員充足の状況.....13

(3)　学生確保の見通し.....15

①　学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....15

ア　既設組織における取組とその目標.....15

イ　収容定員を変更する組織における取組とその目標.....17

ウ　当該取組の実績の分析結果に基づく，収容定員を変更する組織での入学者の見込み数.....17

②　競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）.....18

ア　競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析，優位性.....18

イ　競合校の入学志願動向等.....25

ウ　収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）.....26

エ　学生納付金等の金額設定の理由.....26

③　**先行事例分析**.....27

④　**学生確保に関するアンケート調査**.....27

⑤　**人材需要に関するアンケート調査等**.....27

(4)　収容定員を変更する組織の定員設定の理由.....27

(1)　収容定員を変更する組織の概要

① 収容定員を変更する組織の概要
（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

収容定員を変更する組織		入学定員	編入学定員	収容定員	所在地（教育研究を行うキャンパス）
大阪樟蔭女子大学					
学芸学部	国文学科	40	0	160	大阪府東大阪市菱屋西4丁目2番 26 号
	国際英語学科	30	0	120	
	心理学科	60	0	240	
	ライフプランニング学科	40	0	160	
児童教育学部	児童教育学科	50	0	200	
健康栄養学部	健康栄養学科	100	0	400	

② 収容定員を変更する組織の特色

a） 人材像

本学が掲げる大学全体として養成に取り組む人材像は，1.～4.の通りである。

大学全体	1.　高い知性と豊かな情操を兼ね備え，生涯にわたって学び続けられる人 2.　自ら情報を収集・精査し，広い視野からものごとを判断し，自らの道を切り開く自律的な生き方ができる人 3.　堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身につけた人 4.　職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人

学芸学部として養成に取り組む人材像は，次の通りである。

学芸学部	大学全体に準じる

学芸学部の収容定員を変更する各学科の養成する人材像については，大学全体，及び学部として養成に取り組む人材像に加えて，次の通りである。

国文学科	5. 日本語・日本文化（言葉・文学・芸能・書道・創作など）に関する知識について学び，教養として身につけることで，正しい日本語や多様な表現を使いこなし，学んだことを自らの言葉で積極的に発信することで，社会に貢献できる人 6. 大阪・上方のことば文化を積極的に理解し，他者に伝え，受け継いで行ける人 7. 教員として教育界に貢献することはもとより，図書館司書，出版業界を含む一般企業，行政機関，地域社会などにおいて，日本語の高度な使い手として活躍できる人
国際英語学科	5. 自分の意見を英語で正確に表現できる英語運用能力と，状況に応じて適切に判断し行動できる教養を身に付けた人

	6. グローバル社会，とくにホテル・航空・旅行業をはじめとした企業において幅広く活躍できる人 7. 中学校・高等学校を中心とした英語教育指導者や外国人に日本語・日本文化を教える日本語教師など，言語教育を実践できる人
心理学科	5. 心理学の学びを通して，心の成り立ちや働き，発達，対人関係，心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し，社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけた人 6. 教育，福祉，医療・保健，産業，司法・矯正などの領域で，心理学の知識と技能を活かして活躍できる人
ライフプランニング学科	5. 理想の暮らしを実現するために，就職や結婚をはじめとするライフ・イベントに主体的に対処し，自ら人生をデザインできる能力を身につけた人 6. 家計や食の分野に関して身につけた実践的な知識とスキルを活かして，自身の暮らしを向上させることはもとより，職場や地域社会で活躍し，社会に貢献できる人 7. また，家計と食，家庭と地域社会に関する専門知識を社会教育や学校教育に活用できる人

児童教育学部の養成する人材像については，次の通りである（1.～4.は大学全体に準じる）。

児童教育学部	1. 高い知性と豊かな情操を兼ね備え，生涯にわたって学び続けられる人 2. 自ら情報を収集・精査し，広い視野からものごとを判断し，自らの道を切り開く自律的な生き方ができる人 3. 堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身につけた人 4. 職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人 5. 子どもについての幅広い専門知識と多角的で柔軟な考え方を身につけた人 6. 子どもの成長や発達を支える教育・保育のエキスパートとして，保育所，施設，幼稚園，小学校，中学校をはじめとする子ども関連の職場など幅広く社会や地域で活躍できる人

児童教育学科の養成する人材像については，次の通りである。

児童教育学科	児童教育学部は児童教育学科のみの学科構成であるので，児童教育学科の養成する人材像は，学部に準じる。

健康栄養学部健康栄養学科の養成する人材像については，次の通りである（1.～4.は大学全体に準じる）。

健康栄養学部	1. 高い知性と豊かな情操を兼ね備え，生涯にわたって学び続けられる人 2. 自ら情報を収集・精査し，広い視野からものごとを判断し，自らの道を切り拓く自律的な生き方ができる人 3. 堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身につけた人

	4. 職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人 5. 複雑で変化の激しい現代社会において，個人の充実した人生と社会の持続的発展を実現するために，自ら考え，他者との協働によって，健康・栄養にかかわる課題を解決に導くこれから必要とされる現代的行動力を身につけた人

健康栄養学科の養成する人材像については，次の通りである。

健康栄養学科	健康栄養学部は健康栄養学科のみの学科構成であるので，健康栄養学科の養成する人材像は，学部に準じる。

健康栄養学科各専攻の養成する人材像については，大学全体，学部，学科として養成に取り組む人材像に加えて，次の通りである。

管理栄養士専攻	6. 行政，教育現場，給食施設，企業など幅広い分野で，人間栄養学に関する高度な専門知識を活用し実践できる人 7. 医療や福祉などの現場で，個々人の栄養状態を的確に把握，評価し，その結果をもとに適切な栄養管理・栄養教育ができる，人間栄養学に関する高度な専門知識を持つ管理栄養士
食物栄養専攻	6. 教育現場での栄養教育，給食施設での栄養管理や衛生管理に関する基本的技術を身につけ，地域社会と家庭で栄養学の知識を活用・実践し健康で文化的な生活を送ることが出来る人 7. 食品工業・産業分野における基本的な食品開発及び企画力を有し，食に関わるあらゆる分野で活躍できる人

b）特色

収容定員を変更する各学科の特色は，次の通りである。

国文学科	「読む力」「書く力」「聞く力」に加え，「話す力」を 4 年間で磨き，その結果，国語力をしっかりと身につけて将来の道を開ける社会人基礎力を身につける。「大阪上方ことば文化」を軸とした他大学にはない学びを展開。「授業」→「フィールドワーク」→「グループディスカッション」→「発表」を繰り返し，思考力，表現力・主体性を養う。国語教員免許と書道教員免許のダブル取得が可能。また，司書・学校司書・司書教諭・社会教育主事・社会教育士・学芸員等様々な資格を取ることが可能である。
国際英語学科	ネイティブ教員による授業が毎週 720 分あり，基礎からの英語コミュニケーション能力を身につけることが可能である。また，2 年生秋期にはカリキュラムの一環として，4 か月間全員留学を行う。また，帰国後は国内のホテルや旅行会社等にインターンシップを行うこともでき，社会で役立つコミュニケーション能力を培うことが可能である。
心理学科	臨床分野はもちろん，教育心理やビジネス心理，音楽心理などの幅広い分野の中から，自身が思う様にカリキュラムを選択でき，そこから，臨床分野をは

	じめ，企業の総合職や，教育分野など，幅広い進路選択ができることが強みである。
ライフプランニング学科	身近な生活に密着した経済や経営を中心に学ぶライフデザインコースと食に関する知識と技術，食空間，食のビジネスなどを学ぶフードスタディコースの2コースを用意しており，家計，家庭経営，地域社会，ビジネス，食に関する幅広い知識とスキルを身につけることができる。
児童教育学科	保育園・幼稚園・認定こども園・児童養護施設・乳児院など，子供に関わる場面で，幅広く活躍できる人材をめざす幼児教育保育コースと，英語力・ICTの活用を特徴とした教員の育成をめざす学校教育コースを用意しており，保育士資格，幼稚園教諭一種，・小学校教諭一種・中学校教諭一種（英語）の免許取得が可能である。
健康栄養学科	健康と栄養を学び，“食”に対する2つのアプローチを展開。「管理栄養士専攻」では，徹底した国家資格対策により，管理栄養士国家試験の合格率は毎年全国トップレベル。経験豊富な管理栄養士や医師などを専任教員として擁し，臨床に強い人材を輩出しており，「食物栄養専攻」では，栄養士・栄養教諭・家庭科教諭のトリプルライセンスやフードスペシャリストといった資格取得が可能である。

（2）　人材需要の社会的な動向等

① 収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

国文学科	日本の言語・文学に関する幅広い知識を以て日本文化へ造詣を深め，そこから涵養される豊かな情操や言語運用能力を以て，日本の文化を継承・発展させていくための学びは，日本が存在していく限り不滅することはなく今後，その需要度をあげていくべき状況になっている。
国際英語学科	世界的課題がひしめく現代において，国際語として英語，及び英語というツールを用いて国際感覚を有したコミュニケーション力が求められており，グローバル人材が社会から今後ますます求められていく。政府では，外国人留学生受け入れ40万人の方針も出しており，国際的な英語，対応力を有した人材需要は強まっている。
心理学科	多くの現場等で，心の悩みへの援助が求められている現代社会において，心理に関する高度な知識と技能を修得し，教育，福祉，医療・保健，産業，司法・矯正などの領域で，知識と技能を活かしての活躍の需要度は強まっている。また，悩みへの援助のみならず，消費者行動や流行現象等において，人の心を軸に置いて分析していくことが必要であり，心理学は社会の中での需要度は高い。

ライフプランニング学科	人生 100 年時代といわれる現代社会において，経済や食の分野に関する実践的な知識や自ら人生をデザインできる能力や人材が社会からは強く求められている。
児童教育学科	小学校では少人数学級の推進により，教員需要は強くあり，AI 社会が到来したとはいえ，直接の人間性を介して，未来を担う子どもたちの成長や発達を支える教育・保育のエキスパートは求められ続けている。
健康栄養学科	高齢化社会となっている現在，過去に比べても若い世代から老年齢の方まで健康への意識は高いといえ，幸せな生活を送るために，医療や福祉などの現場では，人間栄養学や栄養管理・衛生管理に関する専門知識や持つ人材が求められている。

② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析

（データ概要）

全国動向

（18歳）　2025 年 110　万人　→　2034 年 100.4 万人

（内，女子）　2025 年 53.7 万人　→　,2034 年　49.1 万人

地域動向・近畿

（18歳）　2025 年 179,388 人　→　2034 年 162,668 人

（内，女子）　2025 年　87,907 人　→　2034 年　79,860 人

地域動向・大阪

（18歳）　2025 年　74,476 人　→　2034 年　68,299 人

（内，女子）　2025 年 36,669 人　→　2034 年　33,679 人

大学進学率

女子（近畿）2013 年　49.4%　→　2034 年　59.7%（↑）

女子（大阪）2013 年　47.4%　→　2034 年　59.2%（↑）

地元残留率

女子（近畿）2013 年　46.6%　→　2034 年　49.4%（↑）

女子（大阪）2013 年　49.6%　→　2034 年　55.1%（↑）

収容定員変更の 2025 年度から 10 年後の 2034 年度の近畿における受験ターゲットとなる 18 歳人口（女子）予測：2034 年 18 歳人口（女子）予測 79,860 人×現役大学進学率（女子）59.7%（2022 年度を使用）×地元残留率 49.4%（2022 年度を使用）＝23,551 人

収容定員変更の 2025 年度から 10 年後の 2034 年度の大阪における受験ターゲットとなる 18 歳人口（女子）予測：2034 年 18 歳人口（女子）予測 33,679 人×現役大学進学率（女子）59.2%（2022 年度を使用）×地元残留率 55.1%（2022 年度を使用）＝10,985 人

（説明概要）

18 歳人口については，全国的動向として確実に減少していき，本学が所在する近畿圏及び大阪地域の動向としても，全国のほとんどの地域的動向と同様に減少していき，受験生市場としてのマーケットは縮小となっていく。

しかし，近畿の 18 歳人口の減少率は全国平均と比べてやや高いが，大学の進学率は近畿及び大阪でも上昇しており，また，大学進学者における地元残留率は，進学率同様上昇しているとともに，全国平均と比べてやや高い。

これらを総合して，本学が所在する地域として，ターゲットとなる受験生は一定確保できる状況にあると考える。

（18 歳人口の全国的動向）

（詳説）

収容定員を変更する年度より向こう 10 年間について，18 歳人口は，本学の入学者対象となる女子を含めて，絶対的に減少（9万 6 千人減（内女子 4 万 6 千人減））する。

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（令和 5 年推計）」（令和5年4月26日）の「男女年齢各歳別人口（総人口）：出生中位（死亡中位）推計」によれば，2022 年における 18 歳人口は 112 万 8 千人で，内女子は 55 万人である。また，本学が新学科設置予定の 2025 年における 18 歳人口は 110 万人で，内女子は 53 万 7 千人である。これが設置 10 年後の 2034 年には，総数 100 万 4 千人で，内女子は 49 万 1 千人で，2025 年比で，総数についてマイナス 9 万 6 千人（マイナス 8.7%），女子ではマイナス 4 万 6 千人（マイナス 8.6%）となり，減少する。**【表 1】**

【表 1】　（1,000 人）

	18歳人口の長期推計　出生中位（死亡中位）				
	元号	西暦	総数	男	女
	令和4	2022	1,128	578	550
	令和5	2023	1,091	559	533
	令和6	2024	1,091	558	534
開設1年目	令和7	2025	1,100	563	537
開設2年目	令和8	2026	1,107	566	541
開設3年目	令和9	2027	1,088	556	532
開設4年目	令和10	2028	1,084	554	529
開設5年目	令和11	2029	1,076	550	526
開設6年目	令和12	2030	1,052	537	515
開設7年目	令和13	2031	1,049	535	514
開設8年目	令和14	2032	1,025	525	501
開設9年目	令和15	2033	1,028	525	503
開設10年目	令和16	2034	1,004	513	491

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（令和 5 年推計）」（令和5年4月26日）の「男女年齢各歳別人口（総人口）：出生中位（死亡中位）推計」を本学で一部編集

https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/db_zenkoku2023/db_r5_suikeikekka_1.html

（18 歳人口の地域的（近畿圏・大阪）動向）

（詳説）

民間大手企業のマーケットレポート（リクルート進学総研マーケットリポート 2022（2023 年2月号））で地域的動向を見た。【資料 1 関係】

これによると，近畿圏内の 18 歳人口予測として，2025 年から 2034 年までの 10 年間で，18 歳人口は 179,388 人から 162,668 人へと 16,720 人減少（マイナス 9.3%），内女子は 87,907 人から 79,860 人へと 8,047 人減（マイナス 9.2%）減少するとしている。さらに大阪府の 18 歳人口予測として，2025 年から 2034 年までの 10 年間で，18 歳人口は 74,476 人から 68,299 人へと 6,177 人減少（マイナス 8.3%），内女子は 36,669 人から 33,679 人へと 2,990 人減（マイナス 8.2%）減少するとしている。**【資料 1-1, 1-2】**

近畿圏の現役での大学進学率（女子）は，2013 年から 2022 年までの 10 年間で 49.4%から 59.7%となっており，10 年間で 10.3 ポイント上昇している。同様に大阪府においては，47.4%から 59.2%となっており，10 年間で 11.8 ポイント上昇している。**【資料 1-3, 1-4】**

また近畿圏の大学進学者（女子）における地元残留率は 2013 年から 2022 年までの 10 年間で 46.6%から 49.4%となっており，2.8 ポイント上昇している。大阪府については，女子の地元残留率は 49.6%から 55.1%と 5.5 ポイント上昇しており，大阪府内に所在地がある高校から大阪府内の大学へ進学する傾向は高くなっている。**【資料 1-5】**

同レポートのデータからは，近畿は，2025 年からの 10 年間予測で 18 歳人口の減少率が全国平均マイナス 7.8%に対してマイナス 9.3%という状況ではあるが，全国を 11 エリアに分ける場合のそれぞれエリアとの比較では，減少率は 10%を下回っており，減少率の高い順で 8 番目（4番目に減少率が低い）に留まっている。女子のみの場合でみても同様である。【表 2-1, 2-2】

しかし，近畿圏の大学進学者における地元残留率は，全国を 11 エリアに分ける場合，上位５位（10 年間の単純平均），女子のみでみた場合も同様に，上位５位に位置している。【表 3-1, 3-2】

エリア単位でなく，全国の都道府県別にみるとき，近畿において大阪府は大学進学者における地元残留率は 58.9%で，愛知県（71.6%），東京都（67.9%），北海道（67.1%），福岡県（65.1%）についで全国で 5 番目に残留率は高く，女子のみでみると大阪府は 55.1%で，愛知県（76.1%），東京都（71.2%），福岡県（67.7%），北海道（67.1%），京都府（58.6%），広島県（56.8%），宮城県（56.6%）についで全国で 8 番目に残留率は高くなっている。（「18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率　地元残留率の動向」，Vol.106　2023 年2月号，リクルート進学総研，p.22，p.24 による）

【表 2-1】エリア別 18 歳人口予測 （人）

エリア	2025年	2034年	増減（減少）	※増減率（減少率）	減少率の高い順
北関東	60,700	52,331	-8,369	-13.8%	1
甲信越	44,788	38,628	-6,160	-13.8%	1
東北	73,013	63,247	-9,766	-13.4%	3
北陸	26,197	22,842	-3,355	-12.8%	4
北海道	41,857	36,601	-5,256	-12.6%	5
四国	32,132	28,242	-3,890	-12.1%	6
東海	137,302	124,083	-13,219	-9.6%	7
近畿	179,388	162,668	-16,720	-9.3%	8
中国	64,828	59,298	-5,530	-8.5%	9
九州沖縄	133,620	128,872	-4,748	-3.6%	10
南関東	296,737	288,970	-7,767	-2.6%	11
全体	1,090,562	1,005,782	-84,780	-7.8%	

※減少率は，小数第2位を四捨五入

【表 2-2】エリア別 18 歳人口（女子）予測 （人）

エリア	2025年	2034年	増減（減少）	増減率（減少率）	減少率の高い順
甲信越	21,996	18,836	-3,160	-14.4%	1
東北	35,943	30,893	-5,050	-14.1%	2
北陸	12,792	11,111	-1,681	-13.1%	3
北関東	29,666	25,830	-3,836	-12.9%	4
北海道	20,305	17,947	-2,358	-11.6%	5
四国	15,678	13,864	-1,814	-11.6%	5
東海	67,223	60,568	-6,655	-9.9%	7
近畿	87,907	79,860	-8,047	-9.2%	8
中国	31,608	28,768	-2,840	-9.0%	9
九州沖縄	65,192	63,264	-1,928	-3.0%	10
南関東	144,784	141,649	-3,135	-2.2%	11
女子全体	533,094	492,590	-40,504	-7.6%	

※減少率は，小数第2位を四捨五入

「18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率　地元残留率の動向」，Vol.106
2023 年2月号，リクルート進学総研，p.6 及び p.8　を本学で編集

【表 3-1】エリア別地元残留率　（%）

	エリア	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	単純平均
1	北海道	69.2	68.4	68.3	67.1	67.2	66.9	67.6	66.9	67.3	67.1	67.6
2	東海	48.4	48.0	48.9	48.9	49.2	49.5	49.5	49.4	49.5	49.9	49.1
3	南関東	47.9	47.7	47.8	47.9	48.0	47.9	47.9	48.0	48.2	48.5	48.0
4	九州沖縄	46.3	46.0	46.1	46.3	47.2	46.6	47.7	46.5	46.6	46.3	46.6
5	近畿	44.6	44.7	45.0	45.8	46.1	46.4	46.0	46.3	47.0	47.3	45.9
6	中国	40.1	40.3	40.5	40.7	40.5	41.0	40.9	40.4	40.9	40.3	40.6
7	東北	33.7	33.6	34.1	34.1	35.2	35.7	35.5	34.7	36.4	36.0	34.9
8	北陸	31.0	30.5	31.1	30.9	33.2	33.5	34.4	32.9	34.4	34.4	32.6
9	四国	27.2	27.2	27.1	26.9	27.7	27.6	27.6	26.9	28.1	28.3	27.5
10	甲信越	26.3	25.4	27.1	26.2	25.9	26.7	27.8	26.8	28.6	28.3	26.9
11	北関東	23.1	22.8	23.2	22.7	23.3	24.2	25.0	24.2	24.7	24.6	23.8
	全体	43.4	43.2	43.6	43.7	44.1	44.2	44.4	44.1	44.7	44.8	44.0

【表 3-2】エリア別地元残留率（女子）　（%）

	エリア	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	単純平均
1	北海道	70.3	70.3	69.3	68.4	67.7	67.3	68.3	67.3	67.9	67.1	68.4
2	東海	53.0	53.1	54.1	53.7	54.1	54.7	54.3	54.0	54.3	54.2	54.0
3	九州沖縄	50.6	50.4	50.2	50.0	50.5	49.8	51.3	50.2	50.3	49.6	50.3
4	南関東	48.8	48.7	49.0	49.2	49.2	49.4	49.5	49.9	49.9	49.8	49.3
5	近畿	46.6	47.0	46.8	47.9	48.3	48.8	48.9	48.8	49.1	49.4	48.2
6	中国	46.0	46.3	46.7	46.4	46.0	46.9	46.8	45.8	46.0	45.2	46.2
7	東北	34.9	34.6	35.1	34.7	36.4	37.0	37.1	36.1	38.1	37.2	36.1
8	北陸	32.3	31.8	34.0	33.7	35.2	36.5	37.6	36.0	37.6	37.1	35.2
9	四国	31.5	31.7	31.4	30.8	32.2	31.8	31.9	31.6	32.4	32.5	31.8
10	甲信越	28.5	27.7	29.3	28.7	27.8	31.0	31.8	30.2	32.7	32.1	30.0
11	北関東	26.1	26.7	26.5	26.7	26.7	27.5	28.5	28.1	27.8	28.3	27.3
	全体（女子）	45.8	45.9	46.2	46.3	46.6	47.0	47.3	47.0	47.4	47.2	46.7

「18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率　地元残留率の動向」, Vol.106　2023 年 2月号, リクルート進学総研, p.16 及び p.18　を本学において編集

③ 収容定員を変更する組織の主な学生募集地域

（概要）

本学入学者については，全体の 90%近くが近畿圏内の高校出身者で，その中でも大阪府内の高校出身者が全体の 60%乃至 70%を占める中，近畿圏，大阪府において 18 歳女子人口の減少傾向はあるものの，地域における女子の大学進学率，地元残留率等をみるとき，本学，及び収容定員を変更する組織（既設学科）の主な学生募集地域として，受験生を確保することができる。

（詳説）

収容定員を変更する組織を設置する大阪府への入学状況について，学校基本調査の出身高校の所在地別入学者数によると以下の通りである。**【資料 2】**

大阪府の大学（国公私立全体）への入学者は全体 57,089 人で，上位は近畿圏内の府県に所在地のある高校の出身者で占められており，全体 57,089 人の約半数の入学者の出身高校所在地は大阪府（28,156 人・49.3%）である。次いで，兵庫県（7,486 人・13.1%），京都府（3,156 人・5.5%），奈良県（2,919 人・5.1%），和歌山県（1,657 人・2.9%）となっている。女子のみで見た場合であっても，ほぼ同じになっている。【表 4-1-1】【表 4-1-2】

また，私立大学のみで見た場合であっても，約半数（51.6%）が大阪府であり，2 位から 5 位までで府県の順は同じであり，比率においてもほぼ同じといえる【表 4-2】。

【表 4-1-1】

収容定員を変更する組織が置かれる大阪府への入学状況　全体（国公私立）　※【資料 2】の再掲

令和 5 年度学校基本調査による

「政府統計の総合窓口（e-Stat）」

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528

順位	都道府県名	人　数	構成比
1	大阪府	28,156 人	49.3%
2	兵庫県	7,486 人	13.1%
3	京都府	3,156 人	5.5%
4	奈良県	2,919 人	5.1%
5	和歌山県	1,657 人	2.9%
	全　体	57,089 人	100.0%

【表 4-1-2】

※【表 4-1-1】について，女子のみの場合

順位	都道府県名	人　数	構成比
1	大阪府	12,107 人	50.9%
2	兵庫県	2,903 人	12.2%
3	京都府	1,383 人	5.8%
4	奈良県	1,184 人	5.0%
5	和歌山県	675 人	2.8%
	全　体	23,777 人	100.0%

【表 4-2】
新設組織が置かれる大阪府への入学状況　私立大学
※【資料 2】について，私立大学のみの場合

順位	都道府県名	人　数	構成比
1	大阪府	25,754 人	51.6%
2	兵庫県	6,426 人	12.9%
3	京都府	2,764 人	5.5%
4	奈良県	2,484 人	5.0%
5	和歌山県	1,486 人	3.0%
	全　体	49,916 人	100.0%

同様に，本学入学生（全学部）の出身高校所在地は，近畿圏，中でも大阪府，奈良県，兵庫県，和歌山県，京都府で例年 87%以上となっており，【表 4-1-1】【表 4-1-2】【表 4-2】同様の府県で占めていて，大阪府の高校が入学者の約半数の出身高校となっている。【表 4-3】

【表 4-3】 本学（大阪府）への入学者の出身高校所在地

入学年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
上位 1	大阪府 463 人 （66.6%）	大阪府 362 人 （62.5%）	大阪府 383 人 （70.1%）	大阪府 315 人 （65.0%）
2	奈良県 77 人 （11.1%）	奈良県 80 人 （13.8%）	奈良県 47 人 （8.6%）	奈良県 53 人 （10.9%）
3	兵庫県 30 人 （4.3%）	兵庫県 29 人 （5.0%）	兵庫県 25 人 （4.6%）	兵庫県 26 人 （5.4%）
4	京都府 21 人 （3.0%）	京都府 19 人 （3.3%）	和歌山県 13 人 （2.4%）	和歌山県 16 人 （3.3%）
5	和歌山県 18 人 （2.6%）	和歌山県 16 人 （2.8%）	京都府 10 人 （1.8%）	京都府 16 人 （3.3%）
上位 5 迄の計	609 人	506 人	478 人	426 人
全入学生 5/1 付に占める割合	87.6%	87.4%	87.5%	87.8%

※それぞれについて，小数第2位を四捨五入，合計において一致しない場合あり

全入学生 5/1 付	695 人	579 人	546 人	485 人

大阪府の定員充足状況は，【資料 2】に示す通り，直近3ケ年度いずれの年度においても 100%を超えており（3ケ年度単純平均 102.7%），18 歳人口減の状況において，大阪府内の大学の定員は充足しており，大阪府内の大学への進学需要は保たれている。

④ 既設組織の定員充足の状況

（概要）

特に直近3ケ年度は，殆どの学科で，大幅に入学定員数を下回る入学者数となり，入学定員の充足は一学科（化粧ファッション学科）を除き困難である。

（詳説）

（現状）

本学既設 7 学科の収容定員充足状況は**【資料 3】**の通り，入学定員充足状況（過去5年間）は**【資料 4-1～8】**の通りである。

【表 5】（学生確保（資料）【資料 4-1～8】要約して再掲）

		2019	2020	2021	2022	2023
国文学科	志願者数	91	141	76	74	70
	入学者数	43	61	46	42	44
	入学定員	80	60	60	60	60
	充足率	0.54	1.02	0.77	0.70	0.73
国際英語学科	志願者数	78	140	58	32	18
	入学者数	46	55	31	18	8
	入学定員	40	40	40	40	40
	充足率	1.15	1.38	0.78	0.45	0.20
心理学科	志願者数	180	197	133	124	110
	入学者数	111	108	82	82	82
	入学定員	80	80	80	80	80
	充足率	1.39	1.35	1.03	1.03	1.03
ライフプランニング学科	志願者数	111	124	79	64	57
	入学者数	74	62	58	42	40
	入学定員	40	60	60	60	60
	充足率	1.85	1.03	0.97	0.70	0.67
化粧ファッション学科	志願者数	194	264	228	327	222
	入学者数	137	162	158	165	157
	入学定員	120	120	120	120	140
	充足率	1.14	1.35	1.32	1.38	1.12
児童教育学科	志願者数	185	194	129	120	79
	入学者数	118	127	92	83	52
	入学定員	170	170	170	170	120
	充足率	0.69	0.75	0.54	0.49	0.43
健康栄養学科管理栄養士専攻	志願者数	286	236	166	183	147
	入学者数	118	93	91	89	79
	入学定員	120	120	120	120	120
	充足率	0.98	0.78	0.76	0.74	0.66

健康栄養学科 食物栄養専攻	志願者数	56	79	41	66	43
	入学者数	33	27	21	25	23
	入学定員	40	40	40	40	40
	充足率	0.83	0.68	0.53	0.63	0.58

（収容定員変更）

以上の状況から，2025（令和7）年度に，既設学科について，次の通り収容定員を変更（入学定員減）する。

なお，2025（令和7）年度に，学芸学部にリベラルアーツ学科を設置する（入学定員 40 名，設置認可申請）。

学芸学部	国文学科	〔定員減〕（△20）	入学定員 40（収容定員 160）
	国際英語学科	〔定員減〕（△10）	入学定員 30（収容定員 120）
	心理学科	〔定員減〕（△20）	入学定員 60（収容定員 240）
	ライフプランニング学科	〔定員減〕（△20）	入学定員 40（収容定員 160）
	化粧ファッション学科	〔定員維持〕	入学定員 140（収容定員 560）
児童教育学部	児童教育学科	〔定員減〕（△70）	入学定員 50（収容定員 200）
健康栄養学部	健康栄養学科	〔定員減〕（△60）	入学定員 100（収容定員 400）

（収容定員充足率 0.7 倍未満の学科）

本学既設 7 学科における 2023 年度5月 1 日現在の収容定員充足状況は**【資料 3】**の通りであり，学芸学部国際英語学科，児童教育学部児童教育学科，及び健康栄養学部健康栄養学科において 0.7 倍未満となっている。

・国際英語学科（0.65 倍）

コロナ禍を契機に，海外留学の実施ができなくなったことを主要因として，同学科への志願者数は激減した。

・児童教育学科（0.54 倍）

教育関係の学科への志願者減は全国的な傾向にある中で，近畿圏内の従前より教職関係（教員採用試験合格）に強い大学との競争で劣位にある状態で，志願者減の一途をたどった。

・健康栄養学科（0.68 倍）

管理栄養士資格取得には4年間の学修において一定厳しさが要求されるにもかかわらず，管理栄養士資格を取得しても社会で活躍できる場面が少ない（例えば，食品メーカーの開発部門は狭き門であり就職は難しい，医療現場では管理栄養士はヒエラルキーの下位に位置づいている，給食会社では調理が主業務となり意味を感じなくなる等）。こういったことを要因にして，管理栄養士志向が減少し志願者が減となっている。

(3)　学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア　既設組織における取組とその目標

・オープンキャンパス

オープンキャンパスへ参加するための来学回数について，1 回のみ来学と 2 回以上の複数来学の構成比は，過去経験や専門家の教示によって，6:4 の割合を適正値ととらえている。来学回数と受験率の関係では，1回のみ来学の受験率は 2 年間の平均が 21.1%なのに対して，複数回来学が 2 年間の平均 77.2%と約 3.7 倍高くなっている。**【資料 5-1】**

但し，単に複数回オープンキャンパスへ参加してもらうのでなく，初めにオープンキャンパスへ参加した後，次のステップとしてオープンキャンパスとは違う内容の入試対策講座，あるいは入試企画としての授業体験への参加を推奨し（これをリピートと呼んでいる。），そうすることで，より志望度を高め，高い受験率を獲得していくことを取組の重要指針としており，本学において定着している。よって，参加者数の拡大に鋭意努力はするものの一定限界はあるので，いかに違うステージとしてのオープンキャンパスに参加してもらうかの誘導に注力していくことを計画して取り組んでいる。

・学校見学会（土曜見学会）

オープンキャンパスといった大勢の受験生が参加するイベントに参加が難しい受験生や，日時都合で難しい受験生，或いは静かな雰囲気の中で具体個別に質問したい受験生希望を想定して，保護者とも参加しやすいように，コロナ禍以降，土曜日の午後に学校見学会（土曜見学会）を設定している。受験生或いは保護者の志望学科や入試についての質問・疑問等に対して，学科教員やアドミッションオフィサーや入試担当部課の職員が答える等し，また，キャンパス案内を実施している。

この学校見学会のみの参加者の受験率は，4 人に 1 人の割合となっているが（2 ケ年度平均 25.0%），当イベントに参加してオープンキャンパスへ参加した場合は，オープンキャンパスのみ参加の場合の受験率（48.9%）より，受験率は約 23 ポイント高い 72.2%となっている。学校見学会で個別に対応した後，全体イベントへ誘導することで，高い受験率を獲得できている。**【資料 5-2】**

この学校見学会の開催は，コロナ禍による行動制限が緩和されてきているとはいえ，一年の前半期の重要な施策の一つとして，引き続き充実に努めていく。つまり，今後，さらに内容のバリエーション化と深化を行うこと（より個別希望に応じた内容を提供できるようにすること）が目標であり、当見学会の受験生への見せ方を工夫する等もあわせて行い、約 75 人の参加者数を先ずは 2倍の 150 名に増やしていく。

これにより個別具体的な対応を行う受験生を増やし，受験生の満足度を高め，全体イベントへ誘導することも含めて，受験率・入学率の向上を行う。

・大学案内送付

大学案内を例年４月下旬～５月中旬に発行しているが，３月～５月の資料請求者に対しては，3 月頃に発行している大学案内の簡易版（ダイジェスト版）を送付しており，大学案内の発行後に，

簡易版を送付した全受験生にあらためて大学案内を送付している。

大学案内を送付したが，オープンキャンパス等のイベントに参加しなかった受験生，即ち対面の機会を得ることのなかった受験生の入学率は，2022 年度入試で 0.5%，2023 年度入試で 1.4%と約 3 倍となっており，入学者数全体に比する割合も 2022 年度入試で 4.0%，2023 年度入試で 10.1%と増加となっている。**【資料 5-3】**

今後は、高校生へのマーケティング調査等を通じて、更に魅力ある大学案内を検討し、WEB 版の大学案内も改善し充実できるようにしていく。また、受験者からの郵送請求を待たずして、受験生に対して大学案内をスピーディーに届け出れるよう新しい方法を考案していく。

・高校訪問

高校訪問においては，指定校入試での指定校，および協定校（本学と教育連携を行うこと等について協定を締結している高校）について，戦略的な訪問を実施している。

訪問すべき高校を「実績」×「エリア」によって区分，即ち，本学への入学者がおおよそ「伸長している」「横ばい」「不安定（乱高下）」「減少している」の4側面と距離的な面で「1次商圏」「2 次商圏」「3 次商圏」と分けており，そのマトリクス上のエリアによりどこの学校からの入学者数を伸ばしていこうとするか等設定し，優先度を意識したうえでの訪問計画を立てている。訪問においては，エリア別に専任担当する職員 3 名がそれぞれ 120 校前後の高校を担当し，年間で延べ約 1600～1800 校訪問しており，全て記録化し，毎月の定例報告会にて状況を入試担当部課及び入試担当の役職者とで共有している。なお，エリアは京阪神地区としており，大阪府，奈良県，京都府，兵庫県，和歌山県，滋賀県としている（個別に北陸の高校等への訪問計画は別途あり）。

特に 41 校の協定校について，より戦略的に訪問していく。2023 年度入試及び 2022 年度入試に係る協定校への訪問の回数は，全訪問回数に対して，2022 年度入試では 17.5%から 2023 年度入試で 18.8%となっている。但し，人員の関係もあり，2023 年度入試では，訪問回数は少し減らした結果となった。しかし，協定校出身者で接触のあった受験対象者について，その受験率は 2022 年度入試で 11.2%に対して 2023 年度入試では 19.3%と約 1.7 倍になり，入学率についても同様 9.3%から 17.2%と約 1.8 倍と倍増近くに伸びている。**【資料 5-4】**

今後，より高校訪問，特に協定高校の訪問を強化していく計画であるが，具体には，協定校におけるスーパー協定校を設定し，教学面での交流のみならず，どのような入試制度が最適か，どのようなイベントが本学受験志願の高校生に有効か等，高校の横つながりの醸成を牽引する形で臨んでいく。

・高大連携

本学は，一部高校を協定校として，本学と教育連携を行うこと等を趣旨とした協定を締結している（2023 年度 41 校）。今後，ますます高校の大学に対する指導等のニーズは高まることは必至であり，出張講義や連携授業等の取り組みを充実していくことを方針としている。

また，併設する樟蔭高等学校から本学への内部進学者（一般選抜での戻りを除く）は，直近の 2023 年度入学生は 66 人（2022 年 5 月1日付高校3年生 223 人の 29.6%），2022 年度入学生は 65 人（2021 年 5 月1日付高校3年生 240 人の 27.1%）となっている。高校3年生数に変動はあるが，内部進学率を 30%には上げたいと考えており，樟蔭学園高大連携として「確かな学力の育成」を以て学びの連携を促進していくことを高校長と大学長との間で合意している中

で，これを実現していく。

・SNS 発信

Instagram，YouTube，LINE，X の運用を行っている。その中でも，利用者数が多いこと，画像・動画・字数制限のないテキストといった多面的な投稿が作成できることから現在は Instagram に注力をしており，まずはフォロワー数を一定数まで増加させることを重点目標として取り組んでいる。オープンキャンパスの企画として実施した「SNS フォローキャンペーン」では，最大で 1 日に 118 人のフォロワーを獲得するなど，5 日間（2023 年 7 月 23 日，8 月 11 日，8 月 20 日，9 月 10 日，12 月 17 日）のキャンペーンで計 361 人のフォロワーを獲得した。また，受験生世代を含む Z 世代といわれる世代の求める投稿とはどういったものかという部分に焦点をあて，投稿内容や投稿時期の設計について毎月計画性をもって行い，2023 年 4 月～2024 年 3 月の期間で 19.2 回/月の投稿を行っている（ストーリーズ，リール動画を含む）。

以上の取り組みにより，2023 年 3 月 16 日時点で 115 人であったフォロワー数を，約 5 倍の 606 人まで増加させている（2024 年 3 月 1 日現在）。ある程度のフォロワー数を獲得したことで，2023 年 4 月は 355/月であったアカウントリーチ数（コンテンツを 1 回以上閲覧したアカウント数）も 2024 年 3 月には 7 倍近い 2431/月と増加しており，投稿が認知層への訴求のみならず，非認知層へのリーチに寄与していることが推測できる。**【資料 5-5】**

今後は，さらなる非認知層へのリーチを目指すとともに，非認知層・認知層双方にとって有益なコンテンツとすることが目標であり，X も Instagram に追随する形で運用をすすめていく。

イ　収容定員を変更する組織における取組とその目標

収容定員を変更する組織は既設組織であるので，上記アの説明と同じ。

ウ　当該取組の実績の分析結果に基づく，収容定員を変更する組織での入学者の見込み数

定員減する入学定員は過去の入学者実績を以て設定しているので，オープンキャンパス，学校見学会（土曜見学会），大学案内送付，高校訪問，高大連携，SNS 発信等それぞれの施策を目標（改善向上）を以て実施していくことで，これまでの参加者数や接触者数以上となる蓋然性は強く，ゆえに過去実績から受験，入学する比率をみるとき，入学定員の入学者数を確保することができる。

② 競合校の状況分析(立地条件,養成人材,教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

ア　競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析, 優位性

〇競合校の選定理由

1.受験生が受験校を選定する基準について

受験生が何を目的として新設組織(本学科)を選択するかについて,次の調査結果により確認した。

データ 1:入学生に対する意識調査(「新入生アンケート」) 本学選択決め手の回答より分析

データ 2:入学生に対する意識調査(「新入生アンケート」) 併願先の回答より分析

データ 3:民間大手企業のマーケット調査

データ 1(1 次データ):本学選択の決め手

本学における過去 3 ケ年度の入学生に対する意識調査(「新入生アンケート」)において,本学選択の決め手となった理由の上位は,次の通りである。

【表 6-1】本学選択の決め手(上位 10)

順位	2023 年度 (対象 485 名,回答 476 名)		2022 年度 (対象 546 名,回答 546 名)		2021 年度 (対象 579 名,回答 567 名)	
1	興味関心のあることを学べるから	64.7%	興味関心のあることを学べるから	66.8%	興味関心のあることを学べるから	65.1%
2	取りたい資格が取れるから	62.2%	取りたい資格が取れるから	63.7%	取りたい資格が取れるから	59.4%
3	希望する職につけそうだから	46.8%	交通の便がよいから	47.4%	キャンパスの雰囲気にひかれたから	46..0%
4	キャンパスの雰囲気にひかれたから	45.8%	キャンパスの雰囲気にひかれたから	45.8%	交通の便がよいから	40.7%
5	仕事で役立つ力が身につくから	45.2%	仕事で役立つ力が身につくから	45.6%	仕事で役立つ力が身につくから	39.2%
6	交通の便がよいから	38.4%	施設がきれいだから	44.0%	伝統や実績があるから	38.2%
7	施設がきれいだから	38.2%	希望する職業につけそうだから	43.6%	希望する職業につけそうだから	37.4%
8	卒業後の生活で役立つ力が身につくから	35.1%	卒業後の生活で役立つ力が身につくから	41.0%	就職率が高いから	36.9%
9	就職率が高いから	33.4%	就職率が高いから	37.2%	施設がきれいだから	36.5%
10	伝統や実績があるから	30.9%	伝統や実績があるから	33.7%	卒業後の生活で役立つ力が身につくから	34.4%

上記の 1～10 位の通り，本学選択の決め手の理由として，次のことがわかる。

●学問分野や学びの内容（含：資格）及びそれにより身につく力に関する回答が多い

●施設・設備に関する回答が多い

●立地に関する回答が多い

●出口・就職先に関する回答が多い

データ 2（1 次データ）：併願状況

本学既設組織における過去 3 ケ年度の入学生に対する意識調査（「新入生アンケート」）において，併願先の大学（学部・学科）等を確認しているが，当該質問に回答した者全てについて，**【資料 6】**の通りである。（但し，本学入学学科は除く。但し，学生の記入した通り（誤記入，学部名等を未記入の場合を含む）で記載）

【資料 6】を見た結果，学科別入学者の併願先上位校は次の通りとなり，参考に偏差値（SS）を記載した。

【表 6-2】併願先（上位）

併願順位	国文学科	SS 35-37.5	国際英語学科	SS BF-35.0	心理学科	SS 35-37.5
1	龍谷大学 日本語日本文学科 3 名	50-52.5	関西外国語大学 英語国際学科 2 名	43.0	帝塚山大学 心理学科 5 名	45.0-47.5
2	京都女子大学 国文学科 2 名	45.0-47.5			追手門学院大学 心理学科 4 名	45.0-50.0
3	京都女子大学 史学科 2 名	45-50.0			武庫川女子大学 心理・社会福祉学科 3 名	47.5-50.0
4	相愛大学 人文学科 2 名	35.0			近畿大学 総合社会学科 2 名	50.0-57.5
5	大阪大谷大学 日本語日本文学科 2 名	40.0			神戸女学院大学 心理・行動科学科 2 名	45.0-47.5
6	追手門学院大学 日本文学専攻 2 名	45-47.5			大阪人間科学大学 心理学科 2 名	35.0
7					立命館大学 総合心理学科 2 名	55.0-60.0

併願順位	ライフプランニング学科	SS 35-37.5	児童教育学科	SS 35-37.5		
1	大阪経済大学 経済学科 2名	42.5	京都女子大学 児童学科 3名	45.0-47.5		
2	大阪樟蔭女子大学 化粧ファッション学科 2名	35.0-37.5	四天王寺大学 教育学科 2名	45.0-47.5		
3			同志社女子大学 現代こども学科 2名	45.0-47.5		
4			武庫川女子大学 教育学科 2名	45.0-50.0		

併願順位	健康栄養学科 管理栄養士専攻	SS 37.5-42.5	健康栄養学科 食物栄養専攻	SS BF-37.5		
1	武庫川女子大学 食物栄養学科 12名	45.0-47.5	京都女子大学 生活造形学科 2名	47.5-50.0		
2	畿央大学 健康栄養学科 11名	45.0-47.5	大手前大学 管理栄養学科 2名	37.5-40.0		
3	大手前大学 管理栄養学科 5名	37.5-40.0	同志社女子大学 食物栄養科学科 2名	45.0-47.5		
4	帝塚山大学 食物栄養学科 5名	37.5-40.0				
5	同志社女子大学 食物栄養科学科 5名	45.0-47.5				

※併願先は，複数名以上（健康栄養学科管理栄養士専攻について 5 名以上，その他学科は 2 名以上）が記入した大学学科等のみ記載

※偏差値（SS）は，

・河合塾の 2024 年度入試難易度予想ランキング（私立大）資料による

（※短大のみ，ベネッセ　マナビジョンのデータによる

https://manabi.benesse.ne.jp/daigaku/hensachi/tandai_index.html ）

・個別試験毎での偏差値データであるので，幅をもって記載

・過年度の併願先学科名称がその後改組等で変更になっている場合，同資料での学科名称にあたる偏差値をみている

https://www.keinet.ne.jp/university/ranking/2024/ds05.pdf

上記併願先の状況から，本学入学者の併願先の選定には，次のことが重要であるとわかる。

●4 年制大学であること

既設組織の競合はほぼ全て 4 年制大学であるため，学校種は重要判断項目

●同じないし同系統の学科（類似する学問分野）であること

受験生は，学びの内容，即ち興味関心のあることを学びたいとして大学（学部学科）選択する度合いが圧倒的に高く，学問分野は重要判断項目

●学力層（偏差値）については，本学同等レベルより上位との併願が多い

併願するにあたっては，同等レベルないし以下の併願先，チャレンジ併願先と区分されるので，一定幅の偏差値（差）は判断項目

データ 3(2 次データ)：志望校選択での重視項目

マイナビ進学総合研究所の「2022 年度進学トレンド総括」(2022 年 7 月)によると，大学進学志望者で志望校選択の際の重視するポイントは次の通りである。

1 位 学べる内容(57.4%)
2 位 学部名・学科名(51.7%)
3 位 自分の学力との相性(37.8%)
4 位 取れる資格(36.3%)
5 位 知名度が高い(34.2%)
6 位 学校の所在地(32.8%)
7 位 入試方法(22.6%)
8 位 実家からの距離(21.2%)
9 位 就職率の高さ(20.8%)
10 位 学校の分類 国立か公立か私立か(20.2%)

http://souken.shingaku.mynavi.jp/home/wp-content/uploads/2022/07/02_%E7%B7%8F%E6%8B%AC2022ver1.2-1.pdf

（スライド 27 ページ目）

上記 1～10 位の通り，受験生が志望校選択にあたり重視することについて，次のことがわかる。

●学べる内容が最重要である

学べる内容が 1 位であるのは，本学新入生アンケートにおいて 3 ケ年連続で 1 位「興味関心のあることを学べるから」に一致

●「学部名・学科名」「自分の学力との相性」が 2 位，3 位と上位になっている

本学新入生アンケートの選択項目にないポイントについて，重要ポイント

●「取れる資格」「学校の所在地」「実家からの距離」「就職率の高さ」は，重要である

本学新入生アンケートにおける 10 位以内の理由と一致あるいは類似

以上，データ 1.2.3 の結果に手引きの内容も踏まえ，競合の選定要因を導出した。

【表 7-1】データ 1～3 のまとめ

No	競合校設定の観点	データ 1	データ 2	データ 3
1	学校種の類似性	－	・4 年制大学	・私立
2	定員規模の類似性	－	－	－
3	学問分野の類似性	・必要	・類似する学問	・学べる内容
4	所在地の類似性	・必要	・京阪神地区	・必要 （通学時間 60 分前後が至便）
5	学力層の類似性	－	・必要（幅あり）	・必要
6	その他の類似性	・就職 ・歴史・伝統	・女子大学	・学部名，学科名（学べる内容を表していると理解していると推測）

▼

【表 7-2】競合の選定方法

No	競合校設定の観点	最終選定要因	理由（各データから見た説明）
1	学校種の類似性	私立 4 年制大学	既設組織の競合は殆どが 4 年制大学，且つ私立であるため，私立の 4 年制大学とした。
2	定員規模の類似性	―	定員規模の類似性は，明確には読み取れないので，判断指標より除外した。
3	学問分野の類似性	同じ学問系統	受験生は，学びの内容，即ち興味関心のあることを学びたいとして大学（学部学科）を選択する度合いが圧倒的に高いので，学科と同じ分野となる。
4	所在地の類似性	本学からの距離（時間）が 120 分前後の範囲にある大学	京阪神との併願が殆どであり，交通の便，距離（即ち通学時間）の観点は必要であることがデータ 1.2.よりわかる。また，※1 追加調査では，片道通学時間の実態として，31 分～60 分が 32.2%と最も多く，次いで 61～90 分であるので，自宅から大学まで 60 分前後の距離（通学時間）が至便であることを踏まえ，本学からの距離（時間）が 120 分前後（60 分←自宅→60 分）の範囲にある大学とした。

5	学力層の類似性	偏差値 30 台後半 ～50 台	併願先の偏差値は，同等か，上に一定差をみたレベルであるので，偏差値 30 台後半～40 台～50 台とした。
6	その他の類似性	―	女子大学である本学を志願する以上，女子大学であること，あるいは女子学生の学生数が多いことは一定指標となると考えられるが，データからその確度が特に高いとは言えず，今回は選定としていないが，参考とした。

※1 日本学生支援機構「令和 4 年度学生生活調査結果」（令和 6 年 3 月）

https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/__icsFiles/afieldfile/2024/03/25/data22_all.pdf

〇競合校との比較分析

以上から，各学科の競合を設定して比較し，本学各学科の強み，優位性は，次の通りである。

【表 8】学科別競合に対する優位性や強み

学科	競合	本学の強み，優位性
学芸学部 国文学科	京都女子大学 文学部 国文学科	本学科の他にない強みとして，「書道コース」では，書道の表現や理論，鑑賞方法など総合的に学べ，これまでも多くの指導者や書道家を輩出している。また，「創作表現コース」では，小説やエッセイ，童話など様々な表現に触れ，自らの文章力，表現力，編集力を実践的に学べる。これまでの国文学に加え，バラエティに富んだ学びを探究できる。
学芸学部 国際英語学科	関西外国語大学 外国語学部 英米語科	英語を中心をとしながらも，韓国文化・韓国語のプログラムがあることが本学科の強みである。若者に非常に人気があるため，旅行先としても選択される韓国について学べるというのは，HAT（ホテル，エアライン，トラベル）業界における進路選択での幅を広げることにも繋がる。また，エアライン業界志望の学生のために，外部のエアライン就職予備校と提携した講座を提供している。
学芸学部 心理学科	神戸女学院大学 人間科学部 心理・行動科学科	競合校との比較においては，「臨床心理」「総合心理」「精神保健・福祉」の横断的な学び，各分野の専門的資格取得のサポート，少人数制の手厚いサポートなど大きな差異はなく，競合大学に限らず本学科の魅力は遜色ないと考える。 その上で本学科の強みとして，「学校心理士」に準

学科	競合	本学の強み，優位性
		ずる『准学校心理士』やスクールソーシャルワーカー（SSW）など，学校生活における様々な問題に対して，子ども自身，子どもを取り巻く保護者や教師，学校に対する教育的援助必要な資格取得のサポートなど，支援体制が充実している。
学芸学部 ライフプランニング学科	大阪成蹊大学 経営学部（食ビジネスコース）	競合と比較した際の大きな差異は，経済に関する学びの有無である。本学ライフプランニング学科は，FP 技能士累計取得者数女子大 1 位の実績を誇り，食ビジネスに加え人生設計に必要不可欠な経済の知識を身につけることができる。さらに，本学では中学校・高等学校教諭一種（家庭）の免許取得が可能であり，教員採用試験へ向けたきめ細かなサポートにより，2023 年度現役合格率は 100％となっている。
	同志社女子大学 現代社会学部 社会システム学科	競合は学科内に 6 コースを有し，幅広い分野から選択が可能であるが，本学においてはライフデザインコースとフードスタディコースどちらを選択したとしても必修科目が少なく，双方を横断できるカリキュラム構成となっている。コース選択後も自分の興味や適性を探究できるため，より幅広い学びに触れる機会があると言える。
児童教育学部 児童教育学科	四天王寺大学 教育学部 教育学科	本学科は，70 年以上の歴史と伝統があり，全国の保育教育現場に OG 多数であることである。そのネットワークを活かし，13 年連続就職決定率 100％。OG 組織である児童学会を通した世代間交流もある。 また，子どもたちと触れ合う体験（学びのプログラム）が豊富である。実習を通して子どもたちと関わることはどの大学も共通していることだが，本学では地域の親子を招待する「子育てカレッジ」や附属幼稚園と連携した「遠足」・「ハロウィンパーティー」，そして自治体と連携した読み聞かせやゲームなど親子で楽しめるイベント「グリムプロジェクト」などのイベント行事を学生主体で実施することで経験，企画，創造性，イベント実行力を養うことができる。

学科	競合	本学の強み，優位性
健康栄養学部 健康栄養学科 管理栄養士専攻	武庫川女子大学 食物栄養科学部 食物栄養学科	管理栄養士が運営するカフェやベーカリーとの共同でのメニュー開発や，系列中学校・高校のスポーツクラブと協力して学ぶスポーツ栄養学など，豊富な実践型プロジェクトがある。 また，試験対策への取り組み体制が手厚く，管理栄養士国家試験合格率は直近 5 年で 98.5%である。
健康栄養学部 健康栄養学科 食物栄養専攻	武庫川女子大学 食物栄養科学部 食創造科学科	中学校教諭・高等学校教諭（家庭科），栄養教諭二種，フードスペシャリストも取得可能である点が強みである。これに加え栄養士も取得すれば，栄養分野に強い家庭科教員を目指すことができる。

イ　競合校の入学志願動向等

【表 9】競合校の入学定員充足度

学科	競合	競合の入学定員充足度
学芸学部 国文学科	京都女子大学 文学部 国文学科	2023：142/132 人（109.2%） 2022：158/130 人（121.5%） 2021：144/130 人（110.8%）
学芸学部 国際英語学科	関西外国語大学 外国語学部 英米語科	2023：867/800 人（103.0%） 2022：681/700 人（97.0%） 2021：700/700 人（100.0%）
学芸学部 心理学科	神戸女学院大学 人間科学部 心理・行動科学科	2023：104/96 人（108.3%） 2022：111/96 人（115.6%） 2021：90/90 人（100.0%）
学芸学部 ライフプランニング学科	・大阪成蹊大学 経営学部（食ビジネスコース） ・同志社女子大学現代社会学部 社会システム学科	2023：326/260 人（125.4%） 2022：312/260 人（120.0%） 2021：335/300 人（111.7%） 数値は経営学部全体 2023：318/310 人（102.6%） 2022：312/310 人（100.6%） 2021：310/310 人（100.0%）

学科	競合	競合の入学定員充足度
児童教育学部 児童教育学科	四天王寺大学 教育学部 教育学科	2023:245/240 人(102%) 2022:275/240 人(114%) 2021:276/240 人(115%)
健康栄養学部 健康栄養学科 管理栄養士専攻	武庫川女子大学 食物栄養科学部 食物栄養学科	2023:213/200 人(106%) 2022:225/200 人(112%) 2021:158/200 人(79%)
健康栄養学部 健康栄養学科 食物栄養専攻	武庫川女子大学 食物栄養科学部 食創造科学科	2023:71/80 人(88%) 2022:81/80 人(101%) 2021:63/80 人(78%)

ウ　収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

記載不要(競合校定員充足による)

エ　学生納付金等の金額設定の理由

既に設定している授業料等(年額)は，次の通りである。

【表 10】授業料等一覧（2025（令和 7）年度）

（単位：円）

学科	入学金	授業料	設備費	実験・実習費
学芸学部 国文学科	280,000	830,000	280,000	
学芸学部 国際英語学科	280,000	830,000	280,000	
学芸学部 心理学科	280,000	870,000	280,000	
学芸学部 ライフプランニング学科	280,000	890,000	280,000	
児童教育学部 児童教育学科	280,000	870,000	280,000	
健康栄養学部 健康栄養学科 管理栄養士専攻	280,000	995,000	280,000	25,000
健康栄養学部 健康栄養学科 食物栄養専攻	280,000	890,000	280,000	10,000

③ 先行事例分析

記載不要（既設組織を廃止して新設組織を設置する場合にあたらない）。

④ 学生確保に関するアンケート調査
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

過去の入学実績等の数値に基づき，変更後の入学定員の設定の妥当性について判断（説明）するので，当該アンケートは実施していない。

(4)　収容定員を変更する組織の定員設定の理由

① 定員設定

定員変更（減）は，次の通りである。

学芸学部	国文学科	〔定員減〕（△20）	入学定員 40（収容定員 160）
	国際英語学科	〔定員減〕（△10）	入学定員 30（収容定員 120）
	心理学科	〔定員減〕（△20）	入学定員 60（収容定員 240）
	ライフプランニング学科	〔定員減〕（△20）	入学定員 40（収容定員 160）
	化粧ファッション学科	〔定員維持〕	入学定員 140（収容定員 560）
児童教育学部	児童教育学科	〔定員減〕（△70）	入学定員 50（収容定員 200）
健康栄養学部	健康栄養学科	〔定員減〕（△60）	入学定員 100（収容定員 400）

② 化粧ファッション学科以外の各学科について，過去の入学実績は次の通りであり，5ケ年度平均についてもそれぞれ下記の通りである。

・国文学科（学芸学部）

一定平均した需要はあるが，定員 60 人に対して 70%強で，今後も 40 人程度で推移する見通しであり，定員設定 40 人＜入学者5年平均 47 人となっている。

・国際英語学科（学芸学部）

コロナ禍を契機に，直近の3ケ年度で入学者は激減しており，定員 40 人への完全な回復は困難な見通しではあるが，コロナ禍の制限も緩和され，全員海外留学を導入した段階で需要が高まった本学科について，回復の契機があり，今後について 30 人程度の見通しであり，定員設定 30 人＜入学者5年平均 31 人となっている。

・心理学科（学芸学部）

公認心理師資格ができたことで一時定員を大きく超えていたが，直近3ケ年度は定員 80 人にマッチしていたが，今後，同程度より下方ラインとなる見通しで，定員設定 60 人＜入学者5年平均 93 人となっている。

・ライフプランニング学科（学芸学部）

併設の内部高校からの入学者減もあり，直近の入学者数からみて，40 人程度で推移する見通しで，定員設定 40 人＜入学者5年平均 55 人となっている。

・化粧ファッション学科（学芸学部）

全国に稀有な学科であり，受験生ニーズは年々高まっており，安定して定員 140 人を確保できる見通し。（定員減しない）

・児童教育学科（児童教育学部）

全国的な傾向もあるが，受験生ニーズは確実に減少傾向にあり，定員確保は相当に困難である。コース再編や教職試験の合格実績等の効果を得てなお，厳しい状況で，今後は 50 人程度で推移すると思われ，50 人の入学者確保が可能な上限との見通しており，定員設定 50 人＜入学者5年平均 94 人となっている。

・健康栄養学科（健康栄養学部）

管理栄養士専攻について，直近4ケ年度の状況からも，定員 120 人の確保は困難であり，80 人が確実に確保できるラインとの見通しで，定員設定 80 人＜入学者5年平均 94 人となっている。

食物栄養専攻について，管理栄養士専攻同様に，直近4ケ年度の状況からも，定員 40 名の確保は困難であり，20 人が確実に確保できるラインとの見通しで，定員設定 20 人＜入学者5年平均 25 人となっている。

即ち，健康栄養学科として，定員設定 100 人＜入学者5年平均 119 人となっている。

【資料 4-1～8】の一部抜粋及び加筆（年度別入学者数（人））

学科　／　年度	2019	2020	2021	2022	2023	5年平均	2023 年度の対 2019 年度比	5 年平均の 2023 年度入学定員に対する比率
国文学科	43	61	46	42	44	47	102.3%	78.3%
国際英語学科	46	55	31	18	8	31	17.4%	77.5%
心理学科	111	108	82	82	82	93	73.9%	116.3%
ライフプランニング学科	74	62	58	42	40	55	54.1%	91.7%
化粧ファッション学科	137	162	158	165	157	155	114.6%	110.7%
児童教育学科	118	127	92	83	52	94	44.1%	78.3%
健康栄養学科管理栄養士専攻	118	93	91	89	79	94	66.9%	78.3%
健康栄養学科食物栄養専攻	33	27	21	25	23	25	69.7%	62.5%

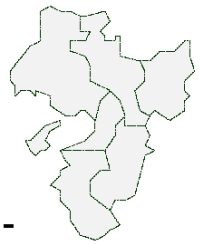
入学定員について，化粧ファッション学科（現状維持）を除くいずれの学科についても，あらたに設定（減員）する入学定員は，過去の入学者数実績の平均の近似値，但し，それを下回る範囲（即ち，確実に入学者数を確保できるライン）での人数設定としており，今後の予測も以てして，妥当性のある設定とした。

［資料目次］

【資料 1 関係】	「18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率　地元残留率の動向　近畿版」, Vol.114, 2023 年2月号, リクルート進学総研	2
【資料 1-1】	18 歳人口予測（全体：近畿：2022～2034 年）	3
【資料 1-2】	18 歳人口予測（女子：近畿：2022～2034 年）	4
【資料 1-3】	進学者数・進学率（現役）の推移（女子：近畿：2013～2022 年）	5
【資料 1-4】	進学者数・進学率（現役）の推移（女子：府県別：2013～2022 年）	6
【資料 1-5】	地元残留率の推移（女子：近畿：2013～2022 年）	7
【資料 2】	「収容定員を変更する組織が置かれる都道府県への入学状況」	8
【資料 3】	「既設学科等の収容定員の充足状況」	9
【資料 4 関係】	「既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）」	
【資料 4-1】	同上　学芸学部　国文学科	10
【資料 4-2】	同上　学芸学部　国際英語学科	12
【資料 4-3】	同上　学芸学部　心理学科	14
【資料 4-4】	同上　学芸学部　ライフプランニング学科	16
【資料 4-5】	同上　学芸学部　化粧ファッション学科	18
【資料 4-6】	同上　児童教育学部　児童教育学科	20
【資料 4-7】	同上　健康栄養学部　健康栄養学科　管理栄養士専攻	22
【資料 4-8】	同上　健康栄養学部　健康栄養学科　食物栄養専攻	24
【資料 5 関係】	「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」	
【資料 5-1】	同上　オープンキャンパス	26
【資料 5-2】	同上　学校見学会（土曜見学会）	27
【資料 5-3】	同上　大学案内送付	28
【資料 5-4】	同上　高校訪問	29
【資料 5-5】	同上　SNS	30
【資料 6】	「学科別入学者の併願先大学・学部・学科」	31

リクルート進学総研 マーケットリポート2022　Vol.114 2023年2月号

18歳人口予測
大学・短期大学・専門学校進学率
地元残留率の動向
近畿版　- 滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県 -



【将来予測　2022～2034年】

▶18歳人口予測　P2～P4

・ 2022年185,626人→2034年162,668人（22,958人減少）
・減少率が高いのは、和歌山県（2022年比較19.1%減少）
・減少数が多いのは、大阪府（2022年77,446人→2034年68,299人、9,147人減少）

【経過推移　2013～2022年】

▶進学者数・進学率（現役）の推移　P5～P10

進学者数

・大学は、2013年92,259人→2022年100,777人（8,518人増加）と、9.2%増加
・短期大学は、2013年10,843人→2022年6,515人（4,328人減少）と、39.9%減少
・専門学校は、2013年26,216人→2022年23,118人（3,098人減少）と、11.8%減少

進学率（現役）

・大学は、2013年52.2%→2022年61.6%（9.4ポイント上昇）
・短期大学は、2013年6.1%→2022年4.0%（2.1ポイント低下）
・専門学校は、2013年14.8%→2022年14.1%（0.7ポイント低下）

▶地元残留率の推移　P11～P13

・大学は、2013年44.6%→2022年47.3%（2.7ポイント上昇）
・短期大学は、2013年67.1%→2022年69.5%（2.4ポイント上昇）

▶近畿エリア概要（全体：府県別）　P14～P16

■分析・データについて

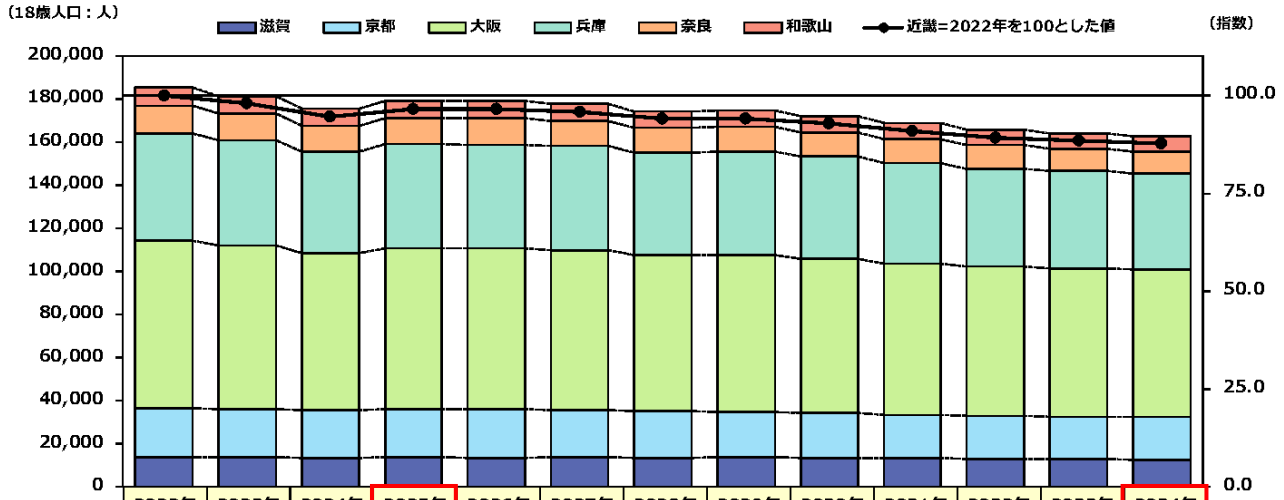
① 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
　・ 18歳人口＝3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者数と義務教育学校卒業者数
　・ 中学校卒業者数＝高校生＋フリーター＋就職者　全て含む
② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す（年＝年度）。
③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
④ 卒業者数とは、高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）。
⑤ 進学者数とは、高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数。
⑥ 進学率（現役）とは、進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）で算出した。
⑦ 残留率とは、自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）。
⑧ 図表で利用している百分率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。
※専門学校＝専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート　リクルート進学総研
https://souken.shingakunet.com/

18歳人口予測（全体：近畿：2022～2034年）

■2022年185,626人→2034年162,668人（22,958人減少）

・近畿エリアは22,958人・12.4%減少し、全国の減少率10.3%を2.1ポイント上回る。
・2024年に175,609人まで減少し、翌2025年に3,779人増加するがその後再び減少に転じ、2029年に微増するが、2030年以降は減少する。
・減少率が高いのは、和歌山県（2022年比較19.1%減少）。
・減少数が多いのは、大阪府（2022年77,446人→2034年68,299人、9,147人減少）。



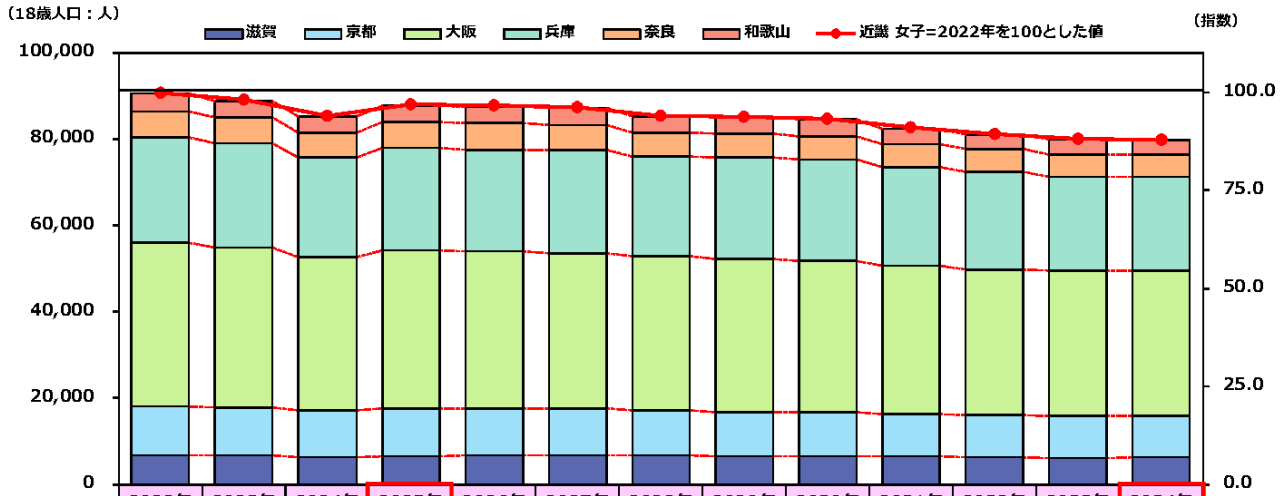
		2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
近畿	人数	185,626	181,639	175,609	179,388	179,313	178,046	174,431	174,633	172,217	168,955	165,722	164,183	162,668
	指数	100.0	97.9	94.6	96.6	96.6	95.9	94.0	94.1	92.8	91.0	89.3	88.4	87.6
滋賀	人数	14,028	13,783	13,318	13,807	13,725	13,802	13,620	13,758	13,530	13,379	13,215	12,967	12,831
	指数	100.0	98.3	94.9	98.4	97.8	98.4	97.1	98.1	96.4	95.4	94.2	92.4	91.5
京都	人数	22,738	22,376	22,202	22,532	22,277	21,990	21,590	21,090	20,688	20,103	20,071	19,794	19,714
	指数	100.0	98.4	97.6	99.1	98.0	96.7	95.0	92.8	91.0	88.4	88.3	87.1	86.7
大阪	人数	77,446	75,864	72,886	74,476	74,633	73,988	72,628	72,671	71,511	70,418	68,943	68,764	68,299
	指数	100.0	98.0	94.1	96.2	96.4	95.5	93.8	93.8	92.3	90.9	89.0	88.8	88.2
兵庫	人数	49,960	49,121	47,278	48,314	48,387	48,398	47,203	48,293	47,718	46,562	45,618	45,189	44,430
	指数	100.0	98.3	94.6	96.7	96.9	96.9	94.5	96.7	95.5	93.2	91.3	90.5	88.9
奈良	人数	12,847	12,367	12,013	12,318	12,290	11,904	11,703	11,314	11,190	11,116	10,823	10,352	10,428
	指数	100.0	96.3	93.5	95.9	95.7	92.7	91.1	88.1	87.1	86.5	84.2	80.6	81.2
和歌山	人数	8,607	8,128	7,912	7,941	8,001	7,964	7,687	7,507	7,580	7,377	7,052	7,117	6,966
	指数	100.0	94.4	91.9	92.3	93.0	92.5	89.3	87.2	88.1	85.7	81.9	82.7	80.9
全国	人数	1,121,285	1,097,416	1,063,451	1,090,562	1,092,647	1,084,271	1,068,477	1,068,876	1,050,143	1,034,714	1,023,592	1,013,581	1,005,782
	指数	100.0	97.9	94.8	97.3	97.4	96.7	95.3	95.3	93.7	92.3	91.3	90.4	89.7

出典:「18 歳人口予測 大学･短期大学･専門学校進学率 地元残留率の動向 近畿版」, Vol.114 2023 年2月号, リクルート進学総研, p.2

18歳人口予測（女子：近畿：2022～2034年）

■2022年90,742人→2034年79,860人（10,882人減少）

・女子は10,882人・12.0%減少し、全国の減少率10.1%を1.9ポイント上回る。
・2024年に85,428人まで減少、翌2025年に2,479人増加した後、減少に転じる。
・減少率が高いのは、和歌山県（2022年比較18.7%減少）。
・減少数が多いのは、大阪府（2022年37,976人→2034年33,679人、4,297人減少）。



		2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
近畿	人数	90,742	88,985	85,428	87,907	87,628	87,260	85,398	85,143	84,652	82,584	81,224	80,037	79,860
	指数	100.0	98.1	94.1	96.9	96.6	96.2	94.1	93.8	93.3	91.0	89.5	88.2	88.0
滋賀	人数	6,786	6,789	6,431	6,624	6,682	6,747	6,698	6,601	6,659	6,586	6,385	6,223	6,372
	指数	100.0	100.0	94.8	97.6	98.5	99.4	98.7	97.3	98.1	97.1	94.1	91.7	93.9
京都	人数	11,236	11,110	10,892	11,091	10,968	10,855	10,581	10,255	10,102	9,768	9,790	9,703	9,551
	指数	100.0	98.9	96.9	98.7	97.6	96.6	94.2	91.3	89.9	86.9	87.1	86.4	85.0
大阪	人数	37,976	37,108	35,489	36,669	36,520	36,068	35,694	35,468	35,112	34,454	33,710	33,620	33,679
	指数	100.0	97.7	93.5	96.6	96.2	95.0	94.0	93.4	92.5	90.7	88.8	88.5	88.7
兵庫	人数	24,478	24,103	22,981	23,614	23,502	23,818	23,104	23,554	23,425	22,739	22,536	21,913	21,714
	指数	100.0	98.5	93.9	96.5	96.0	97.3	94.4	96.2	95.7	92.9	92.1	89.5	88.7
奈良	人数	6,029	5,945	5,785	6,000	6,039	5,841	5,572	5,567	5,508	5,426	5,334	5,036	5,098
	指数	100.0	98.6	96.0	99.5	100.2	96.9	92.4	92.3	91.4	90.0	88.5	83.5	84.6
和歌山	人数	4,237	3,930	3,850	3,909	3,917	3,931	3,749	3,698	3,846	3,611	3,469	3,542	3,446
	指数	100.0	92.8	90.9	92.3	92.4	92.8	88.5	87.3	90.8	85.2	81.9	83.6	81.3
全国	人数	547,640	536,904	519,493	533,094	533,002	530,653	522,302	521,140	513,837	505,739	500,261	494,598	492,590
	指数	100.0	98.0	94.9	97.3	97.3	96.9	95.4	95.2	93.8	92.3	91.3	90.3	89.9

出典:「18 歳人口予測 大学･短期大学･専門学校進学率 地元残留率の動向 近畿版」, Vol.114 2023 年2月号, リクルート進学総研, p.4

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：近畿：2013～2022年）

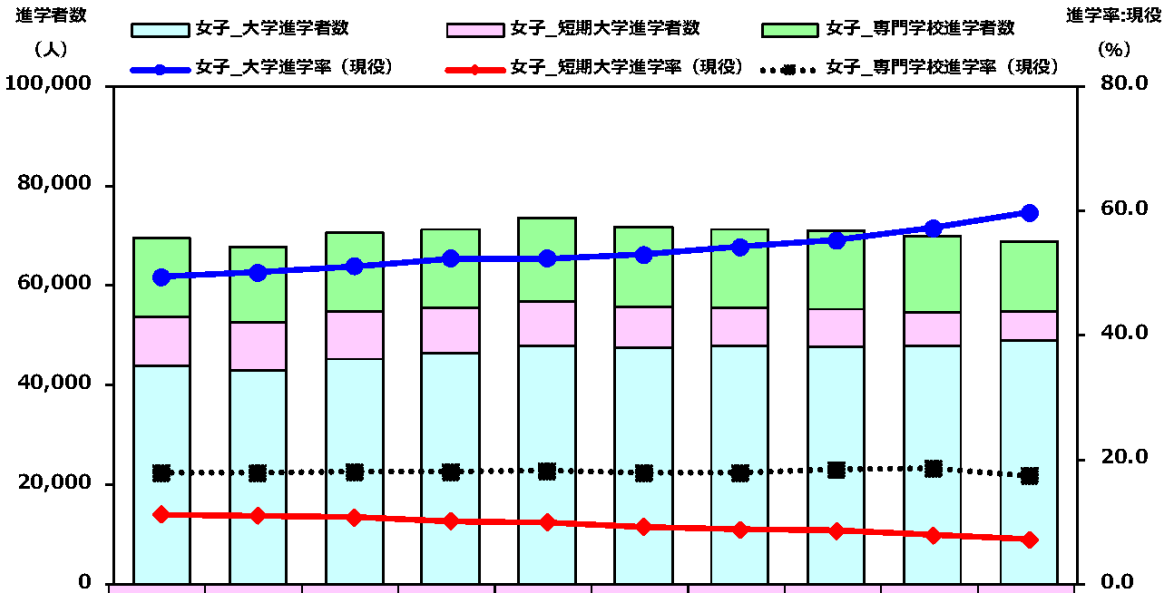
■女子では、大学進学率が10.3ポイント上昇し、進学者数も5,119人増加、短期大学進学者数は4,059人、専門学校進学者数は1,549人減少

進学者数

・大学は、2013年43,749人→2022年48,868人（5,119人増加）と、11.7%増加。
・短期大学は、2013年9,835人→2022年5,776人（4,059人減少）と、41.3%減少。
・専門学校は、2013年15,759人→2022年14,210人（1,549人増加）と、9.8%減少。

進学率（現役）

・大学は、2013年49.4%→2022年59.7%（10.3ポイント上昇）。
・短期大学は、2013年11.1%→2022年7.1%（4.0ポイント低下）。
・専門学校は、2013年17.8%→2022年17.4%（0.4ポイント低下）。



			2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
近畿	卒業者数		88,548	85,727	88,423	88,678	91,277	89,628	88,188	86,471	83,688	81,798
	進学者数	大学	43,749	42,992	45,227	46,368	47,765	47,389	47,762	47,717	47,903	48,868
		短期大学	9,835	9,467	9,458	8,974	9,015	8,275	7,700	7,421	6,544	5,776
		専門学校	15,759	15,299	15,903	15,979	16,581	15,942	15,657	15,933	15,455	14,210
	進学率（現役）	大学	49.4	50.1	51.1	52.3	52.3	52.9	54.2	55.2	57.2	59.7
		短期大学	11.1	11.0	10.7	10.1	9.9	9.2	8.7	8.6	7.8	7.1
		専門学校	17.8	17.8	18.0	18.0	18.2	17.8	17.8	18.4	18.5	17.4

「18 歳人口予測　大学･短期大学･専門学校進学率　地元残留率の動向　近畿版」, Vol.114
出典:「18 歳人口予測　大学･短期大学･専門学校進学率　地元残留率の動向　近畿版」, Vol.114　2023 年2月号, リクルート進学総研, p.9

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：府県別：2013～2022年）

			2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
滋賀	卒業者数		6,271	5,914	6,072	6,135	6,276	6,270	6,135	6,187	6,121	5,853
	進学者数	大学	2,823	2,686	2,688	2,794	2,913	2,843	2,886	3,013	3,024	3,056
		短期大学	768	708	756	706	726	708	626	603	555	503
		専門学校	1,219	1,171	1,235	1,225	1,244	1,278	1,269	1,219	1,326	1,141
	進学率（現役）	大学	45.0	45.4	44.3	45.5	46.4	45.3	47.0	48.7	49.4	52.2
		短期大学	12.2	12.0	12.5	11.5	11.6	11.3	10.2	9.7	9.1	8.6
		専門学校	19.4	19.8	20.3	20.0	19.8	20.4	20.7	19.7	21.7	19.5
京都	卒業者数		11,709	11,238	11,579	11,385	11,907	11,658	11,823	11,425	11,045	10,986
	進学者数	大学	6,512	6,425	6,698	6,675	7,017	6,963	7,208	7,079	7,151	7,282
		短期大学	1,234	1,162	1,110	1,077	1,087	998	861	879	728	670
		専門学校	2,006	1,779	1,908	1,867	1,973	1,862	1,836	1,819	1,731	1,703
	進学率（現役）	大学	55.6	57.2	57.8	58.6	58.9	59.7	61.0	62.0	64.7	66.3
		短期大学	10.5	10.3	9.6	9.5	9.1	8.6	7.3	7.7	6.6	6.1
		専門学校	17.1	15.8	16.5	16.4	16.6	16.0	15.5	15.9	15.7	15.5
大阪	卒業者数		36,439	35,609	36,883	37,291	38,548	37,738	37,118	36,110	35,111	34,270
	進学者数	大学	17,279	17,207	18,267	19,173	19,674	19,363	19,610	19,522	19,704	20,279
		短期大学	4,419	4,267	4,274	4,025	4,045	3,786	3,565	3,386	2,998	2,657
		専門学校	6,516	6,521	6,862	6,794	7,199	6,989	6,940	7,072	6,796	6,316
	進学率（現役）	大学	47.4	48.3	49.5	51.4	51.0	51.3	52.8	54.1	56.1	59.2
		短期大学	12.1	12.0	11.6	10.8	10.5	10.0	9.6	9.4	8.5	7.8
		専門学校	17.9	18.3	18.6	18.2	18.7	18.5	18.7	19.6	19.4	18.4
兵庫	卒業者数		23,339	22,624	23,301	23,430	23,986	23,546	23,202	22,720	21,957	21,468
	進学者数	大学	12,312	12,131	12,684	12,781	13,247	13,345	13,230	13,071	13,162	13,313
		短期大学	2,177	2,109	2,115	2,061	2,007	1,808	1,762	1,737	1,502	1,237
		専門学校	4,034	3,930	3,987	4,078	4,162	3,803	3,856	3,970	3,884	3,456
	進学率（現役）	大学	52.8	53.6	54.4	54.5	55.2	56.7	57.0	57.5	59.9	62.0
		短期大学	9.3	9.3	9.1	8.8	8.4	7.7	7.6	7.6	6.8	5.8
		専門学校	17.3	17.4	17.1	17.4	17.4	16.2	16.6	17.5	17.7	16.1
奈良	卒業者数		6,228	5,891	6,053	5,985	6,067	6,038	5,676	5,839	5,532	5,365
	進学者数	大学	3,081	2,827	3,171	3,097	3,104	3,133	3,029	3,115	2,987	3,012
		短期大学	708	713	675	607	645	536	501	482	458	403
		専門学校	1,060	990	906	1,066	1,084	1,049	881	963	882	835
	進学率（現役）	大学	49.5	48.0	52.4	51.7	51.2	51.9	53.4	53.3	54.0	56.1
		短期大学	11.4	12.1	11.2	10.1	10.6	8.9	8.8	8.3	8.3	7.5
		専門学校	17.0	16.8	15.0	17.8	17.9	17.4	15.5	16.5	15.9	15.6
和歌山	卒業者数		4,562	4,451	4,535	4,452	4,493	4,378	4,234	4,190	3,922	3,856
	進学者数	大学	1,742	1,716	1,719	1,848	1,810	1,742	1,799	1,917	1,875	1,926
		短期大学	529	508	528	498	505	439	385	334	303	306
		専門学校	924	908	1,005	949	919	961	875	890	836	759
	進学率（現役）	大学	38.2	38.6	37.9	41.5	40.3	39.8	42.5	45.8	47.8	49.9
		短期大学	11.6	11.4	11.6	11.2	11.2	10.0	9.1	8.0	7.7	7.9
		専門学校	20.3	20.4	22.2	21.3	20.5	22.0	20.7	21.2	21.3	19.7

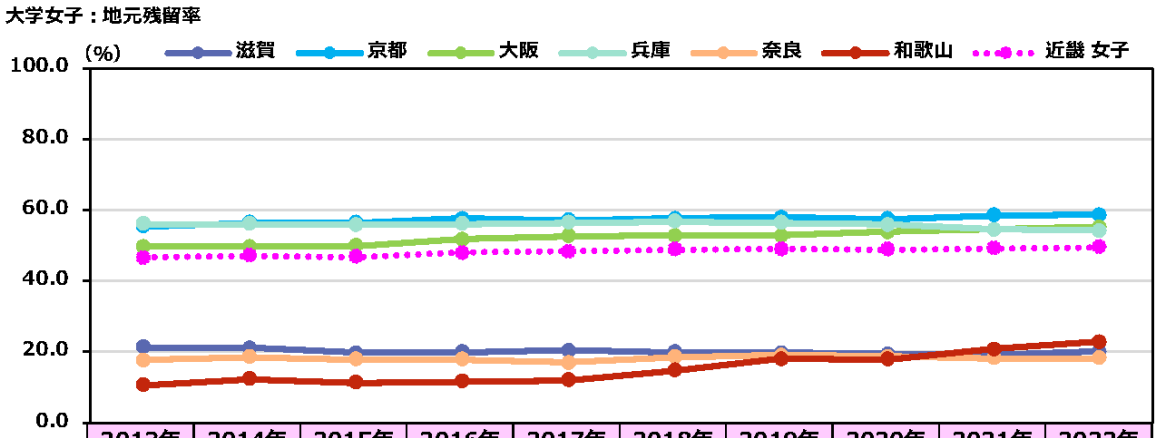
※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数　　：高等学校卒業した数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・進学者数　　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
※専門学校＝専修学校専門課程

出典:「18 歳人口予測　大学･短期大学･専門学校進学率　地元残留率の動向　近畿版」, Vol.114　2023 年2月号, リクルート進学総研, p.10

地元残留率の推移（女子：近畿：2013～2022年）

■大学は、2013年46.6%→2022年49.4%（2.8ポイント上昇）
短期大学は、2013年68.0%→2022年71.1%（3.1ポイント上昇）

・大学で上昇率が高いのは、和歌山県（2013年10.5%→2022年22.8%、12.3ポイント上昇）。
・短期大学で上昇率が高いのは、滋賀県（2013年37.1%→2022年52.3%、15.2ポイント上昇）。



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
近畿	46.6	47.0	46.8	47.9	48.3	48.8	48.9	48.8	49.1	49.4
滋賀	21.3	21.1	19.7	19.8	20.3	19.8	19.7	19.3	19.1	20.0
京都	55.4	56.4	56.3	57.5	57.1	57.6	57.9	57.4	58.4	58.6
大阪	49.6	49.7	49.8	51.8	52.5	52.8	52.8	53.7	54.5	55.1
兵庫	56.1	56.1	55.9	56.1	56.3	56.7	56.3	55.8	54.4	54.1
奈良	17.6	18.4	17.7	17.7	17.0	18.4	19.0	18.6	18.1	18.2
和歌山	10.5	12.3	11.3	11.6	11.9	14.7	17.9	17.7	20.7	22.8

出典:「18 歳人口予測 大学･短期大学･専門学校進学率 地元残留率の動向 近畿版」, Vol.114 2023 年2月号, リクルート進学総研, p.13

収容定員を変更する組織が置かれる都道府県への入学状況

〇出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）※直近年度

	都道府県名	人　　数	構成比
1	大阪府	28,156人	49.3%
2	兵庫県	7,486人	13.1%
3	京都府	3,156人	5.5%
4	奈良県	2,919人	5.1%
5	和歌山県	1,657人	2.9%
	全　　体	57,089人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成。

※2023（令和5）年度版（令和5.12.20公表数値）

〇収容定員を変更する組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地（都道府県）	充足率		
		令和３年度	令和４年度	令和５年度
1	大阪府	103.74%	102.69%	101.65%

※日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」による。
令和4年度について，令和5年度「私立大学・短期大学等入学志願動向」掲載の令和4年度データ
令和3年度について，令和4年度「私立大学・短期大学等入学志願動向」掲載の令和3年度データ

〇収容定員を変更する組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和３年度	令和４年度	令和５年度
1	人文科学系	99.30%	98.93%	96.28%
2	教育学	94.40%	93.32%	91.37%
3	家政学	94.11%	95.28%	89.01%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分（学部系統区分）による。

既存学科等の収容定員の充足状況

○収容定員充足率（学校法人の寄附行為及び寄附行為の変更の認可に関する審査基準 第二の五（二）に規定）

大学等名	学部等名	学科名	収容定員	学生数 （令和5年5月1日現在）	収容定員充足率	備考
大阪樟蔭女子大学	学芸学部		1,460	1,437	0.98	
		国文学科	240	184	0.76	
		国際英語学科	160	104	0.65	
		心理学科	320	352	1.10	
		ライフプランニング学科	240	195	0.81	
		化粧ファッション学科	500	602	1.20	R5入学定員変更（120⇒140）
	児童教育学部		630	346	0.54	R5入学定員変更（170⇒120）
		児童教育学科	630	346	0.54	
	健康栄養学部		640	440	0.68	
		健康栄養学科	640	440	0.68	

既存学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

大学学部学科等名：　　大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国文学科

１．各選抜方法の状況

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
総合型選抜	募集人数		13人	12人	20人	18人	20人	17人
	延べ人数	志願者数	7人	7人	22人	21人	13人	14人
		受験者数	7人	7人	22人	19人	13人	14人
		合格者数	7人	6人	19人	19人	13人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	7人	7人	13人	17人	12人	11人
		受験者数	7人	7人	13人	17人	12人	11人
		合格者数	7人	6人	13人	17人	12人	11人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		7人	6人	9人	12人	11人	9人
学校推薦型選抜	募集人数		25人	17人	20人	17人	20人	20人
	延べ人数	志願者数	33人	61人	31人	43人	39人	41人
		受験者数	33人	60人	31人	41人	39人	41人
		合格者数	29人	56人	31人	40人	39人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	3人	0人	4人	5人	3人
	実人数	志願者数	25人	43人	31人	33人	33人	33人
		受験者数	25人	42人	31人	32人	33人	33人
		合格者数	25人	40人	31人	32人	33人	32人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	3人	0人	4人	5人	3人
	入学者数		17人	27人	31人	23人	24人	24人
一般選抜	募集人数		31人	23人	18人	23人	18人	23人
	延べ人数	志願者数	61人	120人	48人	31人	30人	58人
		受験者数	58人	103人	38人	27人	30人	51人
		合格者数	52人	97人	37人	21人	26人	47人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	2人	4人	2人	0人	2人
	実人数	志願者数	41人	67人	30人	23人	22人	37人
		受験者数	40人	60人	25人	22人	21人	34人
		合格者数	38人	55人	24人	18人	19人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	2人	4人	2人	0人	2人
	入学者数		17人	24人	4人	6人	6人	11人

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
共通テスト利用入試	募集人数		7人	6人				7人
	延べ人数	志願者数	19人	26人				23人
		受験者数	19人	26人				23人
		合格者数	17人	24人				21人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	3人				2人
	実人数	志願者数	18人	24人				21人
		受験者数	18人	24人				21人
		合格者数	16人	23人				20人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	2人				2人
	入学者数		2人	4人				3人
その他の特別選抜	募集人数		4人	2人	2人	2人	2人	2人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	2人	1人	3人	1人
		受験者数	0人	0人	2人	1人	3人	1人
		合格者数	0人	0人	2人	1人	3人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	2人	1人	3人	1人
		受験者数	0人	0人	2人	1人	3人	1人
		合格者数	0人	0人	2人	1人	3人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	2人	1人	3人	1人
合計	募集人数		80人	60人	60人	60人	60人	64人
	延べ人数	志願者数	120人	214人	103人	96人	85人	124人
		受験者数	117人	196人	93人	88人	85人	116人
		合格者数	105人	183人	89人	81人	81人	108人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	8人	4人	6人	6人	6人
	実人数	志願者数	91人	141人	76人	74人	70人	90人
		受験者数	90人	133人	71人	72人	69人	87人
		合格者数	86人	124人	70人	68人	67人	83人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	7人	4人	6人	6人	6人
	入学者数		43人	61人	46人	42人	44人	47人

２．入学定員充足率

	H31	R2	R3	R4	R5	平均
	2019	2020	2021	2022	2023	
入学定員	80人	60人	60人	60人	60人	64人
入学定員充足率	0.54	1.02	0.77	0.70	0.73	0.75
歩留率	0.41	0.33	0.52	0.52	0.54	0.46

既存学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

大学学部学科等名：　　大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国際英語学科

１．各選抜方法の状況

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
総合型選抜	募集人数		5人	8人	14人	12人	13人	10人
	延べ人数	志願者数	6人	7人	9人	5人	2人	6人
		受験者数	6人	7人	9人	4人	2人	6人
		合格者数	6人	6人	8人	4人	2人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	2人	0人	1人
	実人数	志願者数	6人	7人	7人	5人	2人	5人
		受験者数	6人	7人	7人	4人	2人	5人
		合格者数	6人	6人	6人	4人	2人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	2人	0人	1人
	入学者数		5人	6人	3人	2人	1人	3人
学校推薦型選抜	募集人数		12人	11人	12人	12人	12人	12人
	延べ人数	志願者数	38人	61人	27人	14人	9人	30人
		受験者数	38人	61人	27人	14人	9人	30人
		合格者数	38人	56人	26人	14人	9人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	4人	3人	0人	0人	1人
	実人数	志願者数	26人	47人	27人	11人	8人	24人
		受験者数	26人	47人	27人	11人	8人	24人
		合格者数	26人	43人	26人	1人	8人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	4人	3人	0人	0人	1人
	入学者数		18人	27人	21人	9人	7人	16人
一般選抜	募集人数		16人	15人	12人	14人	13人	14人
	延べ人数	志願者数	43人	115人	32人	17人	11人	44人
		受験者数	43人	109人	29人	12人	11人	41人
		合格者数	41人	68人	29人	8人	11人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	3人	0人	0人	0人	1人
	実人数	志願者数	29人	64人	20人	10人	8人	26人
		受験者数	29人	62人	18人	9人	8人	25人
		合格者数	28人	44人	18人	6人	8人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	3人	0人	0人	0人	1人
	入学者数		20人	17人	3人	1人	0人	8人

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
共通テスト利用入試	募集人数		5人	5人				5人
	延べ人数	志願者数	18人	18人				18人
		受験者数	18人	18人				18人
		合格者数	18人	15人				17人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	2人				2人
	実人数	志願者数	17人	18人				18人
		受験者数	17人	18人				18人
		合格者数	17人	15人				16人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	2人				2人
	入学者数		2人	1人				2人
その他の特別選抜	募集人数		2人	1人	2人	2人	2人	2人
	延べ人数	志願者数	1人	4人	4人	6人	0人	3人
		受験者数	1人	4人	4人	6人	0人	3人
		合格者数	1人	4人	4人	6人	0人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	4人	4人	6人	0人	3人
		受験者数	0人	4人	4人	6人	0人	3人
		合格者数	0人	4人	4人	6人	0人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	4人	4人	6人	0人	3人
合計	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	106人	205人	72人	42人	22人	89人
		受験者数	106人	199人	69人	36人	22人	86人
		合格者数	104人	149人	67人	32人	22人	75人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	9人	3人	2人	0人	3人
	実人数	志願者数	78人	140人	58人	32人	18人	65人
		受験者数	78人	138人	56人	30人	18人	64人
		合格者数	77人	112人	54人	17人	18人	56人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	9人	3人	2人	0人	3人
	入学者数		46人	55人	31人	18人	8人	32人

２．入学定員充足率

	H31	R2	R3	R4	R5	平均
	2019	2020	2021	2022	2023	
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	1.15	1.38	0.78	0.45	0.20	0.79
歩留率	0.44	0.37	0.46	0.56	0.36	0.44

既存学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

大学学部学科等名：　　大阪樟蔭女子大学 学芸学部 心理学科

１．各選抜方法の状況

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
総合型選抜	募集人数		13人	15人	30人	26人	30人	23人
	延べ人数	志願者数	21人	20人	51人	24人	24人	28人
		受験者数	21人	20人	47人	23人	24人	27人
		合格者数	21人	20人	43人	23人	24人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	2人	3人	1人	1人
	実人数	志願者数	21人	20人	27人	22人	23人	23人
		受験者数	21人	20人	27人	22人	23人	23人
		合格者数	21人	20人	26人	22人	23人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	2人	3人	1人	1人
	入学者数		21人	20人	19人	18人	22人	20人
学校推薦型選抜	募集人数		25人	23人	28人	25人	26人	25人
	延べ人数	志願者数	87人	100人	61人	69人	56人	75人
		受験者数	87人	98人	61人	67人	56人	74人
		合格者数	83人	92人	61人	66人	55人	71人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	3人	4人	1人	2人	2人
	実人数	志願者数	71人	76人	61人	58人	51人	63人
		受験者数	71人	75人	61人	57人	51人	63人
		合格者数	71人	73人	61人	56人	51人	62人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	3人	4人	1人	2人	2人
	入学者数		62人	63人	55人	51人	48人	56人
一般選抜	募集人数		31人	31人	20人	27人	22人	26人
	延べ人数	志願者数	87人	138人	84人	72人	49人	86人
		受験者数	75人	120人	71人	66人	47人	76人
		合格者数	60人	76人	55人	54人	44人	58人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	3人	1人	4人	1人	2人
	実人数	志願者数	57人	76人	43人	42人	29人	49人
		受験者数	50人	68人	35人	40人	28人	44人
		合格者数	47人	46人	29人	35人	26人	37人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	3人	1人	4人	1人	2人
	入学者数		20人	19人	6人	11人	5人	12人

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
共通テスト利用入試	募集人数		7人	7人				7人
	延べ人数	志願者数	32人	20人				26人
		受験者数	32人	20人				26人
		合格者数	27人	16人				22人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	1人				1人
	実人数	志願者数	30人	19人				25人
		受験者数	30人	19人				25人
		合格者数	25人	15人				20人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	1人				1人
	入学者数		7人	0人				4人
その他の特別選抜	募集人数		4人	4人	2人	2人	2人	3人
	延べ人数	志願者数	1人	6人	2人	2人	7人	4人
		受験者数	1人	6人	2人	2人	7人	4人
		合格者数	1人	6人	2人	2人	7人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	6人	2人	2人	7人	4人
		受験者数	1人	6人	2人	2人	7人	4人
		合格者数	1人	6人	2人	2人	7人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	6人	2人	2人	7人	4人
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	228人	284人	198人	167人	136人	203人
		受験者数	216人	264人	181人	158人	134人	191人
		合格者数	192人	210人	161人	145人	130人	168人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	7人	7人	8人	4人	6人
	実人数	志願者数	180人	197人	133人	124人	110人	149人
		受験者数	173人	188人	125人	121人	109人	143人
		合格者数	165人	160人	118人	115人	107人	133人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	7人	7人	8人	4人	6人
	入学者数		111人	108人	82人	82人	82人	93人

2．入学定員充足率

	H31	R2	R3	R4	R5	平均
	2019	2020	2021	2022	2023	
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	1.39	1.35	1.03	1.03	1.03	1.16
歩留率	0.58	0.51	0.51	0.57	0.63	0.56

既存学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

大学学部学科等名：　　大阪樟蔭女子大学 学芸学部 ライフプランニング学科

１．各選抜方法の状況

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
総合型選抜	募集人数		6人	12人	20人	19人	22人	16人
	延べ人数	志願者数	8人	9人	18人	16人	9人	12人
		受験者数	8人	9人	16人	15人	9人	11人
		合格者数	8人	9人	16人	15人	9人	11人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	3人	1人	1人
	実人数	志願者数	8人	9人	11人	16人	9人	11人
		受験者数	8人	9人	10人	15人	9人	10人
		合格者数	8人	9人	10人	15人	9人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	3人	1人	1人
	入学者数		8人	9人	9人	12人	7人	9人
学校推薦型選抜	募集人数		11人	17人	19人	18人	19人	17人
	延べ人数	志願者数	60人	58人	45人	26人	30人	44人
		受験者数	60人	57人	45人	26人	30人	44人
		合格者数	56人	51人	45人	26人	30人	42人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	1人	0人	0人	1人
	実人数	志願者数	51人	50人	45人	24人	30人	40人
		受験者数	51人	49人	45人	24人	30人	40人
		合格者数	51人	46人	45人	24人	30人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	1人	0人	0人	1人
	入学者数		48人	34人	44人	23人	29人	36人
一般選抜	募集人数		16人	23人	19人	21人	17人	19人
	延べ人数	志願者数	41人	81人	35人	39人	22人	44人
		受験者数	38人	67人	29人	34人	22人	38人
		合格者数	28人	61人	24人	28人	14人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	2人	0人	1人	0人	1人
	実人数	志願者数	32人	53人	21人	21人	14人	28人
		受験者数	29人	46人	18人	18人	14人	25人
		合格者数	25人	44人	16人	13人	7人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	2人	0人	1人	0人	1人
	入学者数		9人	16人	3人	4人	2人	7人

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
共通テスト利用入試	募集人数		5人	6人				6人
	延べ人数	志願者数	17人	9人				13人
		受験者数	17人	9人				13人
		合格者数	15人	9人				12人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	1人				1人
	実人数	志願者数	17人	9人				13人
		受験者数	17人	9人				13人
		合格者数	15人	9人				12人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	1人				1人
	入学者数		6人	0人				3人
その他の特別選抜	募集人数		2人	2人	2人	2人	2人	2人
	延べ人数	志願者数	3人	3人	2人	3人	4人	3人
		受験者数	3人	3人	2人	3人	4人	3人
		合格者数	3人	3人	2人	3人	2人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	3人	3人	2人	3人	4人	3人
		受験者数	3人	3人	2人	3人	4人	3人
		合格者数	3人	3人	2人	3人	2人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		3人	3人	2人	3人	2人	3人
合計	募集人数		40人	60人	60人	60人	60人	56人
	延べ人数	志願者数	129人	160人	100人	84人	65人	108人
		受験者数	126人	145人	92人	78人	65人	101人
		合格者数	110人	133人	87人	72人	55人	91人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	4人	1人	4人	1人	3人
	実人数	志願者数	111人	124人	79人	64人	57人	87人
		受験者数	108人	116人	75人	60人	57人	83人
		合格者数	102人	111人	73人	55人	48人	78人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	4人	1人	4人	1人	3人
	入学者数		74人	62人	58人	42人	40人	55人

２．入学定員充足率

	H31	R2	R3	R4	R5	平均
	2019	2020	2021	2022	2023	
入学定員	40人	60人	60人	60人	60人	56人
入学定員充足率	1.85	1.03	0.97	0.70	0.67	1.04
歩留率	0.67	0.47	0.67	0.58	0.73	0.62

既存学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

大学学部学科等名：　　大阪樟蔭女子大学 学芸学部 化粧ファッション学科

１．各選抜方法の状況

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
総合型選抜	募集人数		23人	30人	50人	48人	53人	41人
	延べ人数	志願者数	38人	73人	99人	164人	83人	91人
		受験者数	37人	72人	93人	147人	83人	86人
		合格者数	37人	66人	72人	65人	72人	62人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	1人	1人	1人
	実人数	志願者数	38人	73人	62人	131人	69人	75人
		受験者数	37人	72人	62人	126人	69人	73人
		合格者数	37人	66人	52人	61人	63人	56人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	1人	1人	1人
	入学者数		37人	64人	51人	60人	60人	54人
学校推薦型選抜	募集人数		30人	32人	40人	35人	48人	37人
	延べ人数	志願者数	97人	131人	102人	137人	121人	118人
		受験者数	97人	131人	102人	136人	118人	117人
		合格者数	94人	105人	98人	93人	97人	97人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	2人	2人	1人	3人	2人
	実人数	志願者数	82人	101人	101人	107人	101人	98人
		受験者数	82人	101人	10人	106人	100人	80人
		合格者数	81人	89人	98人	86人	91人	89人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	2人	1人	3人	2人
	入学者数		75人	82人	95人	82人	85人	84人
一般選抜	募集人数		44人	48人	28人	35人	37人	38人
	延べ人数	志願者数	75人	103人	74人	108人	88人	90人
		受験者数	74人	103人	69人	101人	79人	85人
		合格者数	58人	43人	44人	14人	45人	41人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	2人	0人	1人
	実人数	志願者数	53人	73人	57人	67人	47人	59人
		受験者数	53人	73人	49人	66人	43人	57人
		合格者数	48人	34人	35人	11人	26人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	2人	0人	1人
	入学者数		15人	12人	5人	4人	7人	9人

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
共通テスト利用入試	募集人数		16人	8人				12人
	延べ人数	志願者数	16人	9人				13人
		受験者数	16人	9人				13人
		合格者数	15人	6人				11人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	0人				1人
	実人数	志願者数	16人	9人				13人
		受験者数	16人	9人				13人
		合格者数	15人	6人				11人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	0人				1人
	入学者数		6人	0人				3人
その他の特別選抜	募集人数		7人	2人	2人	2人	2人	3人
	延べ人数	志願者数	5人	8人	8人	22人	5人	10人
		受験者数	5人	8人	8人	22人	5人	10人
		合格者数	5人	4人	7人	19人	5人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	5人	8人	8人	22人	5人	10人
		受験者数	5人	8人	8人	22人	5人	10人
		合格者数	5人	4人	7人	19人	5人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		4人	4人	7人	19人	5人	8人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	140人	124人
	延べ人数	志願者数	231人	324人	283人	431人	297人	313人
		受験者数	229人	323人	272人	406人	285人	303人
		合格者数	209人	224人	221人	191人	219人	213人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	3人	3人	4人	4人	3人
	実人数	志願者数	194人	264人	228人	327人	222人	247人
		受験者数	193人	263人	129人	320人	217人	224人
		合格者数	186人	199人	192人	177人	185人	188人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	3人	3人	4人	4人	3人
	入学者数		137人	162人	158人	165人	157人	156人

２．入学定員充足率

	H31	R2	R3	R4	R5	平均
	2019	2020	2021	2022	2023	
入学定員	120人	120人	120人	120人	140人	124人
入学定員充足率	1.14	1.35	1.32	1.38	1.12	1.26
歩留率	0.66	0.72	0.71	0.86	0.72	0.73

既存学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

大学学部学科等名：　　大阪樟蔭女子大学 児童教育学部 児童教育学科

１．各選抜方法の状況

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
総合型選抜	募集人数		35人	35人	65人	58人	45人	48人
	延べ人数	志願者数	19人	19人	43人	25人	8人	23人
		受験者数	18人	19人	43人	23人	8人	22人
		合格者数	18人	19人	43人	23人	8人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	2人	0人	1人	1人
	実人数	志願者数	19人	19人	23人	21人	8人	18人
		受験者数	18人	19人	23人	21人	8人	18人
		合格者数	18人	19人	23人	21人	8人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	2人	0人	1人	1人
	入学者数		17人	19人	16人	17人	7人	15人
学校推薦型選抜	募集人数		50人	50人	51人	52人	40人	49人
	延べ人数	志願者数	115人	131人	75人	63人	55人	88人
		受験者数	115人	131人	75人	63人	54人	88人
		合格者数	113人	128人	75人	63人	54人	87人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	6人	2人	0人	2人	3人
	実人数	志願者数	93人	102人	75人	60人	50人	76人
		受験者数	93人	102人	75人	60人	49人	76人
		合格者数	93人	102人	75人	60人	49人	76人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	6人	2人	0人	2人	2人
	入学者数		81人	89人	68人	54人	42人	67人
一般選抜	募集人数		69人	69人	52人	58人	33人	56人
	延べ人数	志願者数	79人	95人	36人	50人	26人	57人
		受験者数	75人	84人	33人	50人	24人	53人
		合格者数	72人	72人	31人	33人	19人	45人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	1人	0人	2人	1人	1人
	実人数	志願者数	49人	60人	26人	34人	20人	38人
		受験者数	47人	59人	23人	34人	19人	36人
		合格者数	44人	49人	23人	27人	15人	32人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	1人	0人	2人	1人	1人
	入学者数		13人	10人	3人	7人	2人	7人

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
共通テスト利用入試	募集人数		9人	10人				10人
	延べ人数	志願者数	20人	5人				13人
		受験者数	20人	5人				13人
		合格者数	20人	5人				13人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	3人	0人				2人
	実人数	志願者数	19人	5人				12人
		受験者数	19人	5人				12人
		合格者数	19人	5人				12人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	3人	0人				2人
	入学者数		2人	1人				2人
その他の特別選抜	募集人数		7人	6人	2人	2人	2人	4人
	延べ人数	志願者数	5人	8人	5人	5人	1人	5人
		受験者数	5人	8人	5人	5人	1人	5人
		合格者数	5人	8人	5人	5人	1人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	5人	8人	5人	5人	1人	5人
		受験者数	5人	8人	5人	5人	1人	5人
		合格者数	5人	8人	5人	5人	1人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		5人	8人	5人	5人	1人	5人
合計	募集人数		170人	170人	170人	170人	120人	160人
	延べ人数	志願者数	238人	258人	159人	143人	90人	178人
		受験者数	233人	247人	156人	141人	87人	173人
		合格者数	228人	232人	154人	124人	82人	164人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	10人	7人	4人	2人	4人	5人
	実人数	志願者数	185人	194人	129人	120人	79人	141人
		受験者数	182人	193人	126人	120人	77人	140人
		合格者数	179人	183人	126人	113人	73人	135人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	7人	4人	2人	4人	5人
	入学者数		118人	127人	92人	83人	52人	94人

２．入学定員充足率

	H31	R2	R3	R4	R5	平均
	2019	2020	2021	2022	2023	
入学定員	170人	170人	170人	170人	120人	160人
入学定員充足率	0.69	0.75	0.54	0.49	0.43	0.58
歩留率	0.52	0.55	0.60	0.67	0.63	0.59

既存学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

大学学部学科等名：　　大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部 健康栄養学科 管理栄養士専攻

１．各選抜方法の状況

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
総合型選抜	募集人数		0人	0人	35人	24人	28人	17人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	203人	78人	44人	65人
		受験者数	0人	0人	183人	65人	43人	58人
		合格者数	0人	0人	162人	57人	36人	51人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	7人	4人	3人	3人
	実人数	志願者数	0人	0人	74人	59人	36人	34人
		受験者数	0人	0人	70人	58人	34人	32人
		合格者数	0人	0人	68人	52人	29人	30人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	7人	4人	3人	3人
	入学者数		0人	0人	52人	37人	26人	23人
学校推薦型選抜	募集人数		36人	36人	35人	38人	45人	38人
	延べ人数	志願者数	429人	435人	37人	91人	59人	210人
		受験者数	429人	434人	37人	89人	55人	209人
		合格者数	230人	257人	35人	75人	54人	130人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	23人	4人	5人	2人	10人
	実人数	志願者数	166人	149人	36人	63人	51人	93人
		受験者数	166人	148人	36人	62人	49人	92人
		合格者数	134人	120人	35人	58人	47人	79人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	23人	4人	5人	2人	10人
	入学者数		86人	76人	30人	46人	41人	56人
一般選抜	募集人数		61人	61人	48人	56人	45人	54人
	延べ人数	志願者数	195人	178人	94人	115人	110人	138人
		受験者数	177人	172人	86人	109人	104人	130人
		合格者数	124人	96人	68人	71人	89人	90人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	1人	0人	3人	3人	2人
	実人数	志願者数	97人	78人	54人	58人	58人	69人
		受験者数	92人	76人	48人	56人	57人	66人
		合格者数	79人	55人	39人	41人	48人	52人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	1人	0人	3人	3人	2人
	入学者数		29人	17人	7人	6人	11人	14人

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
共通テスト利用入試	募集人数		9人	9人				9人
	延べ人数	志願者数	24人	13人				19人
		受験者数	24人	13人				19人
		合格者数	17人	5人				11人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	0人				1人
	実人数	志願者数	23人	9人				16人
		受験者数	23人	9人				16人
		合格者数	17人	5人				11人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	1人	0人				1人
	入学者数		3人	0人				2人
その他の特別選抜	募集人数		14人	14人	2人	2人	2人	7人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	2人	3人	2人	1人
		受験者数	0人	0人	2人	3人	2人	1人
		合格者数	0人	0人	2人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	2人	3人	2人	1人
		受験者数	0人	0人	2人	3人	2人	1人
		合格者数	0人	0人	2人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	2人	0人	1人	1人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	648人	626人	336人	287人	215人	422人
		受験者数	630人	619人	308人	266人	204人	405人
		合格者数	371人	358人	267人	203人	180人	276人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	20人	24人	11人	12人	8人	15人
	実人数	志願者数	286人	236人	166人	183人	147人	204人
		受験者数	281人	233人	156人	179人	142人	198人
		合格者数	230人	180人	144人	151人	125人	166人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	20人	24人	11人	12人	8人	15人
	入学者数		118人	93人	91人	89人	79人	94人

２．入学定員充足率

	H31	R2	R3	R4	R5	平均
	2019	2020	2021	2022	2023	
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120人
入学定員充足率	0.98	0.78	0.76	0.74	0.66	0.78
歩留率	0.32	0.26	0.34	0.44	0.44	0.36

既存学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

大学学部学科等名：　　大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部 健康栄養学科 食物栄養専攻

１．各選抜方法の状況

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
総合型選抜	募集人数		0人	0人	12人	9人	9人	6人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	40人	15人	2人	11人
		受験者数	0人	0人	36人	12人	2人	10人
		合格者数	0人	0人	32人	11人	2人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	17人	14人	2人	7人
		受験者数	0人	0人	14人	12人	2人	6人
		合格者数	0人	0人	13人	11人	2人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	12人	8人	2人	4人
学校推薦型選抜	募集人数		13人	13人	13人	13人	14人	13人
	延べ人数	志願者数	112人	106人	8人	25人	19人	54人
		受験者数	110人	106人	8人	23人	19人	53人
		合格者数	81人	82人	6人	22人	18人	42人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	2人	1人	2人	1人	3人
	実人数	志願者数	34人	46人	8人	21人	19人	26人
		受験者数	34人	46人	8人	20人	19人	25人
		合格者数	32人	40人	6人	20人	17人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	2人	1人	2人	1人	3人
	入学者数		24人	21人	5人	15人	15人	16人
一般選抜	募集人数		18人	18人	13人	16人	15人	16人
	延べ人数	志願者数	44人	55人	23人	45人	39人	41人
		受験者数	40人	49人	19人	41人	34人	37人
		合格者数	35人	43人	19人	27人	21人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	0人	4人	1人	1人
	実人数	志願者数	18人	32人	15人	31人	21人	23人
		受験者数	17人	28人	13人	29人	20人	21人
		合格者数	16人	26人	13人	23人	13人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	0人	4人	1人	1人
	入学者数		9人	5人	3人	2人	5人	5人

			H31	R2	R3	R4	R5	平均
			2019	2020	2021	2022	2023	
共通テスト利用入試	募集人数		5人	5人				5人
	延べ人数	志願者数	4人	0人				2人
		受験者数	4人	0人				2人
		合格者数	2人	0人				1人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	0人	0人				0人
	実人数	志願者数	4人	0人				2人
		受験者数	4人	0人				2人
		合格者数	2人	0人				1人
		うち追加合格者数	0人	0人				0人
		辞退者数	0人	0人				0人
	入学者数		0人	0人				0人
その他の特別選抜	募集人数		4人	4人	2人	2人	2人	3人
	延べ人数	志願者数	0人	1人	1人	0人	1人	1人
		受験者数	0人	1人	1人	0人	1人	1人
		合格者数	0人	1人	1人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	1人	1人	0人	1人	1人
		受験者数	0人	1人	1人	0人	1人	1人
		合格者数	0人	1人	1人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	1人	1人	0人	1人	1人
合計	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	160人	162人	72人	85人	61人	108人
		受験者数	154人	156人	64人	76人	56人	101人
		合格者数	118人	126人	58人	60人	42人	81人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	4人	1人	7人	2人	4人
	実人数	志願者数	56人	79人	41人	66人	43人	57人
		受験者数	55人	75人	36人	61人	42人	54人
		合格者数	50人	67人	33人	54人	33人	47人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	4人	1人	7人	2人	4人
	入学者数		33人	27人	21人	25人	23人	26人

２．入学定員充足率

	H31	R2	R3	R4	R5	平均
	2019	2020	2021	2022	2023	
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	0.83	0.68	0.53	0.63	0.58	0.65
歩留率	0.28	0.21	0.36	0.42	0.55	0.36

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：大阪樟蔭女子大学のオープンキャンパス（全学部について記載）

OCのみ参加者	R4年度入試	R5年度入試	**2ケ年度平均**
参加者等総数(a)	1048人	1328人	1188人
うち受験対象者数(b)	811人	767人	789人
うち受験者数(c)	412人	360人	386人
うち入学者数(d)	349人	329人	339人
（受験率 c/b）	50.8%	46.9%	48.9%
（入学率 d/b）	43.0%	42.9%	43.0%

取組概要と入学者数等に関する分析

①取組概要

本学受験希望者を対象としてキャンパスを開放し，大学全体のヴィジョン，既設組織（各学科）の学び等の特色や養成する人材像の紹介，模擬授業，施設案内（キャンパスツアー），入試対策講座等を実施。 各日原則は午前，午後の部の2部構成で実施。WEB等含む。
R4年度対象（R3開催）:計11回開催（4/25,5/16,6/20,7/11,7/18,8/11,8/29,9/12,11/7,2/13,3/20）
R5年度対象（R4開催）:計10回開催（5/15,6/19,7/17,8/7,8/11,8/21,9/11,12/11,2/18,3/21）

②過去の取組実績をふまえた入学者数の見込みに関する分析

リピーター集計

	R4年度入試	R5年度入試	**2ケ年度平均**
(b)のうちリピーター(e)	398人	384人	391人
(リピーター率 e/b)	49.1%	50.1%	49.6%
リピーター受験者数(f)	315人	288人	302人
リピーター入学者数(g)	276人	271人	274人
(受験率 f/e)	79.1%	75.0%	77.2%
(入学率 g/e)	69.3%	70.6%	70.1%

※リピーターとは、オープンキャンパスに参加した後，原則別日に実施するオープンキャンパスでの入試対策講座・授業体験に参加した者として定義

非リピーター集計

	R4年度入試	R5年度入試	**2ケ年度平均**
(b)のうち非リピーター(h)	413人	383人	398人
(非リピーター率 h/b)	50.9%	49.9%	50.4%
非リピーター受験者数(i)	97人	72人	84人
非リピーター入学者数(j)	73人	58人	65人
(受験率 i/h)	23.5%	18.8%	21.1%
(入学率 j/h)	17.7%	15.1%	16.3%

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：大阪樟蔭女子大学 全学部「学校見学会（土曜見学会）」

学校見学会のみ参加者

	R4年度入試	R5年度入試	2ケ年度平均
参加者等総数(a)	76人	73人	75人
うち受験対象者数(b)	44人	52人	48人
うち受験者数(c)	13人	10人	12人
うち入学者数(d)	12人	9人	11人
（受験率 c/b）	29.5%	19.2%	25.0%
（入学率 d/b）	27.3%	17.3%	22.9%

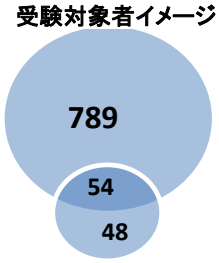
※上記数字は，学校見学会のみ参加のデータ

オープンキャンパス・学校見学会両方の参加者

	R4年度入試	R5年度入試	2ケ年度平均
参加者等総数(a)	58人	58人	58人
うち受験対象者数(b)	52人	55人	54人
うち受験者数(c)	36人	42人	39人
うち入学者数(d)	31人	41人	36人
（受験率 c/b）	69.2%	76.4%	72.2%
（入学率 d/b）	59.6%	74.5%	66.7%

※上記数字は，オープンキャンパスと学校見学会両方への参加者データ

受験対象者イメージ



789(OC)及び48(学校見学会)
それぞれ単独参加者の数字
（重なり部分を含まない）

資料5-1再掲

オープンキャンパスのみ参加者
1188人
789人
386人
339人
48.9%
43.0%

取組概要と入学者数等に関する分析
①取組概要 コロナ禍における取組として、オープンキャンパスなど大人数となるイベントへの参加を懸念する受験生や，日時都合で参加が難しい受験生，或いは具体個別にじっくりと質問等を希望する受験生を対象にして，高校の放課後を想定した土曜日の午後に，志望学科や入試についての疑問等に学科教員や入試担当部課の職員，アドミッションオフィサーが答えたり，キャンパス案内等を行う学校見学会を実施し，受験生が自由に聞きたいことを聞ける環境設定を行っている。 R4年度対象（R3開催）：計11回開催（4/10,4/17,5/1,5/8,5/22,5/29,6/5,6/12,6/26,7/3,7/31） R5年度対象（R4開催）：計14回開催（4/9,4/16,4/23.4/30,5/7,5/21,5/28,6/4,6/11,6/25,7/9,7/23,7/30,9/3）

②過去の実績を踏まえた入学者数の見込みに関する分析
コロナ禍から開始した学校見学会（土曜見学会）は，個別具体的な対応が可能なイベントとしている。受験率としては，4人に1人の割合となっているが（2ケ年度平均25.0%），当イベントに参加してオープンキャンパスへ参加した場合は，オープンキャンパスのみ参加の場合の受験率（48.9%）より，受験率が約24ポイント高くなっている。個別に対応した後、全体イベントへ誘導することで、高い受験率を獲得できている。 本学各学科に興味関心がある受験生について，学校見学会に150人程度の参加を得ていくことを目標とする。ここからオープンキャンパスへの誘導ができる場合，その受験率は約72%であるので，約110人の受験生が見込まれる。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：大阪樟蔭女子大学 大学案内 送付

大学案内発送者全体の集計

	R4年度入試	R5年度入試	2ケ年度平均
配付総数(a)	4592人	3568人	4080人
うち受験対象者数(b)	4580人	3565人	4073人
うち受験者数(c)	285人	113人	199人
うち入学者数(d)	225人	66人	146人
（受験率 c/b）	6.2%	3.2%	4.9%
（入学率 d/b）	4.9%	1.9%	3.6%

大学案内の一斉発送対象者で学内イベント未参加者の集計

	R4年度入試	R5年度入試	2ケ年度平均		R7年度入学者数試算	
配付総数(a)	4125人	3486人	3806人	↓ 99.8%	3897人	
うち受験対象者数(b)	4115人	3484人	3800人		3889人	
うち受験者数(c)	47人	91人	69人		70人	
うち入学者数(d)	22人	49人	36人		35人	R7年度入学定員の7.0%を大学案内の送付のみで入学すると仮定
（受験率 c/b）	1.1%	2.6%	1.8%	→	1.8%	
（入学率 d/b）	0.5%	1.4%	0.9%	→	0.9%	

入学者数	546	485	516人	500人	収容定員（入学定員減）変更
入学者割合	4.0%	10.1%	7.0%	→ 7.0%	

取組概要と入学者数等に関する分析
①取組概要 大学案内は例年4月下旬～5月中旬に発行しているが，3月～5月の資料請求者に対しては，3月頃に発行している大学案内の簡易版を送付している為，大学案内の発行後に，簡易版を送付した全受験生に改めて大学案内を送付している。
②過去の取組実績をふまえた入学者数の見込みに関する分析 大学案内を送付したが，オープンキャンパス等のイベントに参加しなかった受験生の入学率は，R4年度0.5%，R5年度1.4%と約3倍となっており，入学者数全体に比する割合もR4年度4.0%，R5年度10.1%と増加となっている。 　オープンキャンパス等のイベントに参加しなかった受験生，即ち対面の機会を得ることのなく入学した者の入学者数全体に比する割合は2ケ年度平均で7.0%であるので，2025年度の入学者数を収容定員変更（入学定員減）の500人としたとき，35人が「大学案内の一斉発送を行うが，イベントに参加せず入学する」と試算でき，配付総数は約3900人となる。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：協定校を中心とした高校訪問

2022年度入試 訪問回数

協定校の訪問校数： 40 校

年	月	協定校	指定校	総計
2021年	4月	17	108	125
	5月	35	80	115
	6月	37	100	137
	7月	36	124	160
	8月	16	153	169
	9月	31	152	183
	10月	29	137	166
	11月	23	132	155
	12月	30	137	167
2022年	1月	17	132	149
	2月	20	133	153
	3月	34	143	177
合計		(f) 325	1,531	1,856
合計に対する割合		17.5%	82.5%	100.0%

2023年度入試 訪問回数

協定校の訪問校数： 41 校

年	月	協定校	指定校	総計
2022年	4月	18	100	118
	5月	25	90	115
	6月	43	106	149
	7月	34	130	164
	8月	27	148	175
	9月	24	134	158
	10月	22	156	178
	11月	29	120	149
	12月	22	104	126
2023年	1月	23	90	113
	2月	24	110	134
	3月	25	81	106
合計		(g) 316	1,369	1,685
合計に対する割合		18.8%	81.2%	100.0%

	R4年度入試	R5年度入試	2ケ年度平均		R7年度入試試算
協定校出身 資料請求・接触者総数(a)	2726人	2050人	2388人		2621人
協定校出身 受験対象者数(b)	1318人	610人	964人	↓ 40.4%	1059人
協定校出身 受験者数(c)	148人	118人	133人		146人
協定校出身 入学者数(d)	122人	105人	114人		125人
全入学者数(e)	546人	485人	516人		500人
協定校出身 受験率(c/b)	11.2%	19.3%	13.8%	→	13.8%
協定校出身 入学率(d/b)	9.3%	17.2%	11.8%	→	11.8%
協定校出身 入学者 割合(d/e)	22.3%	21.6%	22.1%	→	25.0%

訪問回数試算

	R4年度入試	R5年度入試
協定校訪問回数 (a/f)・(a/g)	8	6

R7年度入試試算
417

訪問回数(f)(g)の平均値から30%増加を目標とし、試算

取組概要と入学者数等に関する分析
①取組概要 高校訪問を専門とした職員を含め教職員全体で訪問活動を行うにあたり，実績とエリアによって訪問の優先度を設定し，訪問計画を立てている。訪問活動については全て記録化し，毎月の定例報告会にて状況を共有している。また，本学との教育連携を行うことについて協定を締結している高校（協定校）への訪問活動を戦略的に実施している。
②過去の取組実績をふまえた入学者数の見込みに関する分析 R4年度・R5年度における協定校出身の入学率(d/b)は，9.3%から17.2%と増加している。これは，協定校に対する戦略的な訪問の成果であると考える。これを踏まえ，R7年度の入学者数を入学定員である500名（収容定員変更（入学定員減））を目標とすると，協定校出身の入学者の割合を，2ケ年度平均の22.1%から25.0%へ増加させ，協定校出身の入学者数を125人と目標設定する。これは，R4年度において122人の協定校出身の入学者数とほぼ同等の人数となるので，妥当な目標と言える。 この達成のためには，R4年度の協定校出身 資料請求・接触者総数(a)2726人，R5年度2050人を各年度の協定校の訪問回数で割ると，R4年度は訪問1回あたり8人・R5年度は6人接触できると試算できる。ここから，更なる接触者数増加をめざし，２ケ年度平均訪問回数の30%増となる400回超の訪問を目標とする。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：SNSによる広報活動

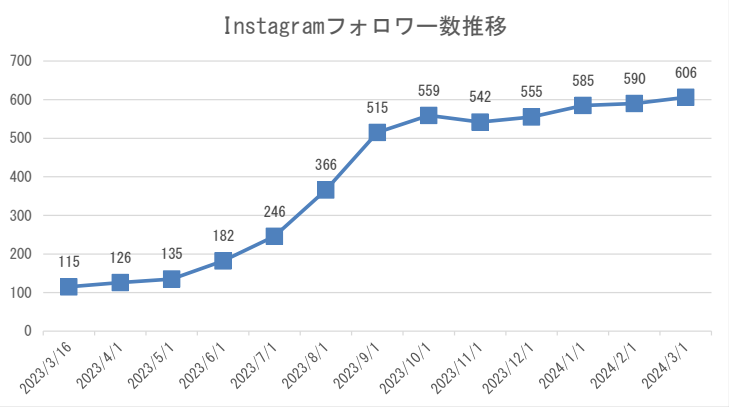
Instagramフォロワー数推移

計測日	フォロワー数
2023/3/16	115
2023/4/1	126
2023/5/1	135
2023/6/1	182
2023/7/1	246
2023/8/1	366
2023/9/1	515
2023/10/1	559
2023/11/1	542
2023/12/1	555
2024/1/1	585
2024/2/1	590
2024/3/1	606

オープンキャンパスにおける
SNSフォローキャンペーン

日程	フォロワー獲得数
2023/7/23	118
2023/8/11	112
2023/8/20	68
2023/9/10	32
2023/12/17	31
計	**361**

フォローキャンペーンの数値は、
それぞれの計測日の数値に含まれる



Instagram フォロワー数等 増減の推移

	フォロワー数	全般（増加数）前月対比	フォロー数	フォローをやめた数	アクションを実行したアカウント	アカウントリーチ数	シェアしたコンテンツ数
2023/3/15～3/31	124	10	13	3	16	256	3
2023/4/1～4/30	134	10	17	7	32	355	11
2023/5/1～5/31	180	46	52	6	50	512	22
2023/6/1～6/30	246	66	80	14	101	801	30
2023/7/1～7/31	368	122	167	45	104	1105	22
2023/8/1～8/30	516	148	225	77	153	1143	30
2023/9/1～9/30	561	45	83	38	158	1187	19
2023/10/1～10/31	547	-14	6	20	158	1223	12
2023/11/1～11/30	555	8	25	17	147	1316	14
2023/12/1～12/31	585	30	41	11	168	1643	23
2024/1/1～1/31	590	5	11	6	108	1031	10
2024/2/1～2/29	606	16	23	7	94	1414	17
2024/3/1～3/31	675	69	82	13	166	2431	20

※半月のみ

平均 1ケ月あたり
19.2回

◇アクションを実行したアカウント	投稿，ストーリーズ，リール動画，動画，ライブ動画などに「いいね！」保存，コメント，シェアなどのアクションをしたアカウントの数
◇アカウントリーチ数	広告を含め，コンテンツを一回以上見たアカウントの数（同じアカウントが複数見た場合も一回とカウントされる）
◇シェアしたコンテンツ数	投稿した各コンテンツ（ストーリーズ/投稿/リール動画/動画/ライブ動画/アクティブな広告）の総数

取組概要と入学者数等に関する分析
①取組概要 非認知層へのアピールと，認知層への情報提供を目的にInstagram，YouTube，LINE，Xの運用を行っている。利用者数が多いこと，画像・動画・字数制限のないテキストといった多面的な投稿が作成できることから現在はInstagramに注力をしている。 オープンキャンパスの企画として実施した「SNSフォローキャンペーン」では，オープンキャンパス当日に本学のアカウントをフォローしてくれた来場者にノベルティを渡すことで，フォロワー数増加をめざした。 投稿頻度は，2023年4月～2024年3月の期間で19.2回/月の投稿となっており（ストーリーズ，リール動画を含む），Z世代の求める投稿とはどういったものかという部分に焦点をあて，投稿内容や投稿時期の設計について毎月計画性をもって行っている。
②過去の取組実績をふまえた入学者数の見込みに関する分析 上記取り組みの実績として，2023年3月16日時点で115人であったフォロワー数を，606人まで増加させている（2024年3月1日現在）。2023年4月は355/月であったアカウントリーチ数（コンテンツを1回以上閲覧したアカウント数）も2024年3月には2431/月と増加しており，投稿が非認知層へも広く届きはじめていることが推測できる。 現在の投稿内容は，オープンキャンパス情報，入試情報のほか，各学科の授業・イベント紹介などキャンパスライフに関する情報が主となっているが，そこに学科の特徴・学びについての投稿を定期的に織り交ぜ，認知の拡大に寄与していく。また，Instagramにおけるアカウントリーチ数は画像投稿よりも動画投稿のほうが伸びやすい傾向にあるため，これまでに作成した学科紹介動画などを投稿することで，非認知層にもアプローチしやすい効果的な投稿の作成が見込める。

学科別入学者の併願先大学・学部・学科

国文学科

NO	大学	学部	学科	回答数
1	龍谷大学	文学部	日本語日本文学科	3
2	京都女子大学	文学部	国文学科	2
3	京都女子大学	文学部	史学科	2
4	相愛大学	人文学部	人文学科	2
5	大阪大谷大学	文学部	日本語日本文学科	2
6	追手門学院大学	文学部	日本文学専攻	2
7	京都教育大学	教育学部	美術領域専攻（書道分野）	1
8	近畿大学	学芸学部		1
9	近畿大学	文学部	文学科日本文学専攻	1
10	近畿大学	文芸学部	芸術学科（造形芸術専攻）	1
11	山口大学	教育学部	学校教育教員養成課程	1
12	神戸女学院大学	文学部	総合文化学科	1
13	摂南大学	農学部	農業生産学科	1
14	大阪教育大学	教育学部	教育協働学科	1
15	大阪信愛大学	教育学部	教育学科	1
16	大谷大学	文学部	文学科	1
17	大和大学	教育学部	教育学科国語教育専攻	1
18	追手門学院大学	地域創造学部	地域創造学科	1
19	追手門学院大学		人文学科	1
20	帝塚山大学	文学部	日本文化学科	1
21	同志社女子大学	学芸学部	メディア創造学科	1
22	梅花女子大学	文化表現学部	情報メディア学科	1
23	武庫川女子大学	短期大学部	日本文化学科	1
24	武庫川女子大学	文学部	日本語日本文学科	1
25	佛教大学	文学部	日本文学科	1

国際英語学科

NO	大学	学部	学科	回答数
1	関西外国語大学	英語国際学部	英語国際学科	2
2	羽衣国際大学	現代社会学科	現代社会学科国際英語コース	1
3	甲南女子大学	国際学部	多文化コミュニケーション学科	1
4	阪南大学	国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	1
5	摂南大学	外国語学部	外国語学科	1
6	摂南大学	現代社会学部	現代社会学科	1
7	大阪国際大学	国際教養学部	国際コミュニケーション学科	1
8	大阪商業	経済	経済学科	1
9	大阪樟蔭女子大学	学芸学部	心理学科	1
10	大和大学	社会学部	社会学科	1
11	天理大学	国際学部	外国語学科	1
12	同志社女子大学	表象文化学部		1
13	武庫川女子大学	文学部	英語文化学科	1

心理学科

NO	大学	学部	学科	回答数
1	帝塚山大学	心理学部	心理学科	5
2	追手門学院大学	心理学部	心理学科	4
3	武庫川女子大学	文学部	心理・社会福祉学科	3
4	近畿大学	総合社会学部	総合社会学科	2
5	神戸女学院大学	人間科学部	心理・行動科学科	2
6	大阪人間科学大学	心理学部	心理学科	2
7	立命館大学	総合心理学部	総合心理学科	2
8	手塚山学院大学	リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	1
9	安田女子大学	心理学部		1
10	関西大学	人間健康学部	人間健康学科	1
11	関西福祉科学大学	健康福祉学部	心理科学科	1
12	関西福祉科学大学	心理科学部	心理科学科	1
13	京都橘大学	健康科学部	心理学科	1
14	京都産業大学	理学部	数理科学科	1
15	京都女子大学	発達教育学部	心理学科	1
16	近畿大学		総合社会学科心理系専攻	1
17	近畿大学	文芸学部	文化・歴史学科	1
18	甲南女子大学	文学部	メディア表現学科	1
19	甲南大学	文学部	人間科学科	1
20	神戸女学院大学		行動心理学科	1
21	神戸女子大学	心理学部	心理学科	1
22	大阪経済大学	人間科学部		1
23	大阪経済大学		人間科学科	1
24	大阪公立大学	現代シスステム科学域	教育福祉学類	1
25	大阪樟蔭女子大学	学芸学部	化粧ファッション学科	1
26	大阪成蹊大学	芸術学部	造形芸術学科マンガ・デジタルアートコース	1
27	大和大学	教育学部	教育学科数学教育専攻	1
28	筑紫女学園大学	人間科学部	心理・社会福祉専攻	1
29	追手門学院大学		心理学専攻	1
30	追手門大学	経営学部		1
31	追手門大学	心理学部	心理学科	1
32	帝塚山学院大学	人間科学部	心理学科	1
33	島根大学	総合理工学部	地球科学科	1
34	同志社大学	スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	1
35	奈良女子大学	理学部	科学生物環境学科	1
36	奈良大学	社会学部	心理学科	1
37	白鳳短期大学	総合人間学科看護学専攻		1
38	福岡大学	人文学部	東アジア地域言語学科	1

ライフプランニング学科

NO	大学	学部	学科	回答数
1	大阪経済大学	経済学部	経済学科	2
2	大阪樟蔭女子大学	学芸学部	化粧ファッション学科	2
3	帝塚山学院大学	リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	1
4	愛知淑徳大学	交流文化学部	交流文化学科	1
5	羽衣国際大学	人間生活学部	食物栄養学科	1
6	園田学園女子大学	経営学部	ビジネス学科	1
7	活水女子大学	国際文化学部	日本文化学科	1
8	関西大学	社会学部	社会学科	1
9	関西福祉科学大学	心理学部	心理学科	1
10	畿央大学	健康科学部	人間環境デザイン学科	1
11	京都光華女子大学	健康科学部	心理学科	1
12	近畿大学	総合社会学部	総合社会学科	1
13	甲南女子大学	人間科学部	文化社会学科	1
14	香蘭女子短期大学		ライフプランニング総合学科	1
15	三重大学	人文学部	文化学科	1
16	神戸女子大学	家政学部	家政学科	1
17	大阪国際大学	経営経済学部	経営学科	1
18	大阪商業大学	総合経営学部	経営学科	1
19	大阪樟蔭女子大学	健康栄養学部	健康栄養学科	1
20	大阪成蹊大学	国際観光学部	国際観光学科	1
21	大手前大学	健康栄養学部	管理栄養学科	1
22	追手門学院大学	経営学部	経営学科	1
23	帝塚山学院大学	人間科学部	食物栄養学科	1
24	帝塚山大学	文学部	日本文化学科	1
25	梅花女子大学	心理こども学部	心理学科	1
26	梅花女子大学	文化表現学部	情報メディア学科	1
27	梅花女子大学	文化表現学部	日本文化学科	1
28	武庫川女子大学	経営学部	経営学科	1
29	立命館大学	食マネジメント学部	食マネジメント学科	1

化粧ファッション学科

NO	大学	学部	学科	回答数
1	京都女子大学	家政学部	生活造形学科	2
2	近畿大学	経営学部	経営学科	2
3	近畿大学	建築学部	建築学科	2
4	武庫川女子大学	経営学部	経営学科	2
5	武庫川女子大学	生活環境学部	生活環境学科	2
6	国際ファッション専門職学校			2
7	帝塚山学院大学	リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	2
8	ベルエベル美容専門学校			1
9	亜細亜大学	経営学部	ホスピタリティ・マネジメント学科	1
10	関西大学	商学部	商学科	1
11	関西美容専門			1
12	関西美容専門学校			1
13	近畿大学	文学部	文化デザイン学科	1
14	江戸川大学	メディアコミュニケーション学部	マス・コミュニケーション学科	1
15	甲南女子大学	看護リハビリテーション学部	看護学科	1
16	滋賀県立大学	人間文化学部	人間関係学科	1
17	滋賀県立大学	人間文化学部	生活デザイン学科	1
18	神戸学院大学	経営学部	経営学科	1
19	神戸女子大学	家政学部	家政学科	1
20	神戸女子大学	家政学部	管理栄養士養成課程	1
21	神戸松蔭女子学院大学	人間科学部	食物栄養学科	1
22	神戸松蔭女子学院大学	人間科学部	都市生活学科	1
23	相愛大学	人間発達学部	発達栄養学科	1
24	大阪ビューティーアート専門学校		美容科	1
25	大阪経済大学	経営学部	経営学科	1
26	大阪経済法科大学	経営学部	経営学科	1
27	大阪樟蔭女子大学	学芸学部	国際英語学科	1
28	大東文化大学	社会学部	社会学科	1
29	追手門学院大学	国際教養学部	国際日本学科	1
30	追手門学院大学	社会学部	社会学科	1
31	同志社女子大学	現代社会学部	社会システム学科	1
32	梅花女子大学	看護保健学部	看護学科	1
33	武庫川女子大学	短期大学部	生活造形学科	1
34	兵庫県立大学	環境人間学部	環境人間学科	1
35	夕陽丘学園短期大学		キャリア創造学科　ファッションデザインコース	1

児童教育学科

NO	大学	学部	学科	回答数
1	京都女子大学	発達教育学部	児童学科	3
2	四天王寺大学	教育学部	教育学科	2
3	同志社女子大学	現代社会学部	現代こども学科	2
4	武庫川女子大学	教育学部	教育学科	2
5	くらしき作陽大学	子ども教育学部	子ども教育学科	1
6	関西福祉科学大学	健康栄養学科	福祉栄養学科	1
7	関西福祉科学大学	教育学部	教育	1
8	畿央大学	教育学部	現代教育学科	1
9	京都橘大学	発達教育学部	児童教育学科	1
10	京都教育大学	教育学部	幼児教育専攻	1
11	近畿大学	法学部	法律学科	1
12	広島都市学園大学	子ども教育学部	子ども教育学科	1
13	香川大学	教育学部	小学校教育コース	1
14	就実大学	教育学部	初等教育学科	1
15	常盤会短期大学	幼児教育学部	幼児教育科	1
16	神戸女子大学	家政学部	管理栄養士養成課程	1
17	神戸松蔭女子学院大学	教育学部	教育学科	1
18	千里金蘭大学	生活科学部	児童教育学科	1
19	大阪経済法科大学	法学部	法律学科	1
20	大阪商業大学	経済学部	経済学科	1
21	大阪大谷大学	教育学部	教育	1
22	東京未来大学	こども心理学部	こども心理学科	1
23	奈良学園大学	人間教育学部	人間教育学科	1
24	奈良教育大学	教育学部	幼年教育専修	1
25	白鳳短期大学		こども教育専攻	1
26	武庫川女子大学	食物栄養科学部	食物栄養学科	1
27	武庫川女子大学	短期大学部	幼児教育学科	1
28	兵庫教育大学	学校教育学部	教育学科	1
29	佛教大学	教育学部	幼児教育学科	1

健康栄養学科（管理栄養士専攻）

NO	大学	学部	学科	回答数
1	武庫川女子大学	食物栄養科学部	食物栄養学科	12
2	畿央大学	健康科学部	健康栄養学科	11
3	大手前大学	健康栄養学部	管理栄養学科	5
4	帝塚山大学	現代生活学部	食物栄養学科	5
5	同志社女子大学	生活科学部	食物栄養科学科	5
6	京都女子大学	家政学部	食物栄養学科	4
7	千里金蘭大学	生活科学部	食物栄養学科	3
8	園田学園女子大学	人間健康学部	食物栄養学科	2
9	近畿大学	農学部	食品栄養学科	2
10	摂南大学	農学部	食品栄養学科	2
11	立命館大学	食マネジメント学部	食マネジメント学科	2
12	京都光華女子大学	健康科学部	健康栄養学科	1
13	近畿大学	農学部	生物機能科学科	1
14	三重大学	工学部	総合工学科応用化学コース	1
15	神戸学院大学	栄養学部	栄養学科	1
16	神戸女子大学	家政学部	管理栄養士養成課程	1
17	摂南大学	理工学部	生命科学科	1
18	大阪公立大学	生活科学部	食栄養学科	1
19	大阪工業大学	工学部	応用化学学科	1
20	大手前大学	経営学部	経営学科	1
21	奈良女子大学	生活環境学部	食物栄養学科	1
22	梅花女子大学	食文化学部	食文化学科	1
23	武庫川女子大学	短期大学部	食生活学科	1
24	名古屋学院大学	法学部	法学科	1
25	龍谷大学	農学部	農学科	1

健康栄養学科（食物栄養専攻）

NO	大学	学部	学科	回答数
1	京都女子大学	家政学部	生活造形学科	2
2	大手前大学	健康栄養学部	管理栄養学科	2
3	同志社女子大学	生活科学部	食物栄養科学科	2
4	関西大学	化学生命工学部	生命・生物工学科	1
5	畿央大学	健康科学部	健康栄養学科	1
6	京都光華女子大学	健康科学部	健康栄養学科 管理栄養士専攻	1
7	近畿大学	文芸学部	文化デザイン学科	1
8	甲南女子大学	医療栄養学部	医療栄養学科	1
9	甲南女子大学	人間科学部	文化社会学科	1
10	神戸学院大学	栄養学部	栄養学科	1
11	摂南大学	農学部	食品栄養学科	1
12	大阪教育大学	教育学部	教員養成課程	1
13	大阪樟蔭女子大学	学芸学部	ライフプランニング学科	1
14	大阪成蹊大学	芸術学部	造形芸術学科	1
15	大阪夕陽丘学園短期大学	(空白)	食物栄養学科	1
16	大手前大学	健康栄養学部	健康栄養学科	1
17	同志社女子大学	生活科学部	人間生活学科	1
18	奈良女子大学	理学部	化学生物環境学科	1
19	武庫川女子大学	食物栄養学部	食物栄養学科	1

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　　員　　名　　簿

学　長　又　は　校　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
―	学長	タケムラ　カズオ 竹村　一夫 ＜令和4年4月＞		文学修士※		大阪樟蔭女子大学　学長 （令和4.4～令和8.3）